

令和3年度シラバス目次

全授業科目のシラバス(授業計画)

区分	ナンバリング	授業科目名	担当者	単位	学年	開講時期
教養科目	CL10101	キャリアデザインⅠ	鈴木建生・山本典子	1	1	後期
	CL10102	心理学	小澤良	2	1	後期
	CL10103	生活とかがく	伊藤康明	2	1	前期
	CL10104	あそび入門	川勝泰介・伊藤康明・松本亜香里・伊藤喬治・大矢知佳	2	1	後期
	CL10105	リズム遊び	桂山たかみ	2	1	前期
	CL10106	日本国憲法	早川秋子	2	1	後期
	CL10201	キャリアデザインⅡ	鈴木建生・山本典子	1	2	前期
	CL10202	社会学	(不開講)	2	2	前期
	CL20101	情報処理Ⅰ	中村統也	1	1	前期
	CL20102	情報処理Ⅱ	中村統也	1	1	後期
	CL20103	国語表現法	加藤扶久美	2	1	後期
	CL20104	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	出口敦子	1	1	前期
	CL20105	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	出口敦子	1	1	後期
	CL20106	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	施純妃	1	1	前期
	CL20107	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	施純妃	1	1	後期
	CL30101	人間と健康	大矢知佳	2	2	前期
	CL30102	スポーツ・レクリエーション実技	大矢知佳	1	1	前期
	CL30103	スポーツ・レクリエーション講義	大矢知佳	1	1	後期
専門教育科目	CS10101	教育原理	伊藤喬治・宮坂朋幸	2	1	前期
	CS10102	教職概論	鈴木建生	2	1	後期
	CS10103	教育課程論	柴田智世	2	1	前期
	CS10104	保育原理	川勝泰介	2	1	前期
	CS10105	子ども家庭福祉	安藤和彦	2	1	前期
	CS10106	社会福祉	田村禎章	2	1	前期
	CS10107	社会的養護Ⅰ	安藤和彦	2	1	後期
	CS10108	社会的養護Ⅱ	平松喜代江・鈴木聡	1	1	後期
	CS10109	教育と社会	川勝泰介・伊藤喬治	2	1	後期
	CS10201	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	鈴木壽真子	2	2	前期
	CS20101	教育心理学	八木朋子	2	1	前期
	CS20102	幼児の健康	田村禎章・大矢知佳	1	1	後期
	CS20103	幼児の環境	伊藤康明	1	1	後期
	CS20104	幼児の言葉	川勝泰介	1	1	前期
	CS20105	子どもの保健	鈴木壽真子	2	1	後期
	CS20106	障がい児保育	伊藤喬治	1	1	後期
	CS20201	幼児の人間関係	平松喜代江	1	2	前期
	CS20202	特別支援教育論	安田誠人	1	2	前期
	CS20203	子どもの理解と発達	小島佳子	1	2	前期
	CS20204	子ども家庭支援の心理学	八木朋子	2	2	前期
	CS20205	子どもの健康と安全	山野栄子	1	2	前期
CS20206	子どもの食と栄養	前澤いすず	2	2	通年	
CS20207	子ども家庭支援論	安藤和彦	2	2	後期	
CS20208	乳児保育Ⅰ	山野栄子	2	2	前期	
CS20209	乳児保育Ⅱ	山野栄子	1	2	後期	

令和3年度シラバス目次

専門
教育
科目

CS20210	障がい児の理解	鈴木壽真子	2	2	前期
CS20211	乳幼児の理解	小島佳子	2	2	後期
CS30101	保育内容総論	伊藤喬治	1	1	前期
CS30102	人間関係指導法	山野栄子	1	1	後期
CS30103	言葉指導法	川勝泰介	1	1	後期
CS30104	表現指導法	松本亜香里	1	1	前期
CS30105	教育方法と技術	鈴木建生	2	1	前期
CS30106	幼児の音楽表現Ⅰ	桂山たかみ・岸田恵・宮田美佐・村木清子・森摩樹	1	1	前期
CS30107	幼児の音楽表現Ⅱ	桂山たかみ・岸田恵・宮田美佐・村木清子・森摩樹	1	1	後期
CS30108	幼児の造形表現Ⅰ	安藤恭子	1	1	前期
CS30109	幼児の造形表現Ⅱ	安藤恭子	1	1	後期
CS30201	健康指導法	渡邊明宏	1	2	前期
CS30202	環境指導法	横井一之	1	2	後期
CS30203	教育相談	吉弘淳一	2	2	後期
CS30204	幼児の音楽Ⅰ	桂山たかみ・岸田恵・宮田美佐・村木清子	1	2	前期
CS30205	幼児の音楽Ⅱ	桂山たかみ・岸田恵・宮田美佐・村木清子	1	2	後期
CS30206	保育指導法	川勝泰介	2	2	前期
CS30207	障がい児の支援	小島佳子	2	2	後期
CS30208	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	鈴木壽真子	2	2	後期
CS30209	レクリエーション論	田村 禎章	2	2	前期
CS30210	障がい者スポーツ	田村 禎章	1	2	後期
CS40101	基礎ゼミナールⅠ	川勝泰介・平松喜代江・桂山たかみ・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	1	1	前期
CS40102	基礎ゼミナールⅡ	川勝泰介・平松喜代江・桂山たかみ・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	1	1	後期
CS40201	専門ゼミナールⅠ	安藤恭子・平松喜代江・桂山たかみ・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	1	2	前期
CS40202	専門ゼミナールⅡ	安藤恭子・平松喜代江・桂山たかみ・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	1	2	後期
CS40203	保育・教職実践演習	安藤恭子・伊藤康明・平松喜代江・桂山たかみ・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	2	2	後期
CS50101	地域ボランティア実践	田村禎章・伊藤康明・大矢知佳	1	1	通年
CS50102	幼稚園教育実習事前事後指導	松本亜香里・伊藤喬治・大矢知佳	1	1	前期
CS50103	保育実習指導Ⅰ	平松喜代江・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	2	1,2	通年
CS50104	幼稚園教育実習Ⅰ	松本亜香里	1	1	後期
CS50201	保育実習Ⅰ	平松喜代江・松本亜香里・田村禎章・伊藤喬治・大矢知佳	4	2	前期
CS50202	幼稚園教育実習Ⅱ	松本亜香里	3	2	前期
CS50203	保育実習指導Ⅱ	松本亜香里・伊藤喬治・大矢知佳	1	2	前期
CS50204	保育実習Ⅱ	松本亜香里・伊藤喬治・大矢知佳	2	2	前期
CS50205	保育実習指導Ⅲ	平松喜代江・田村禎章	1	2	前期
CS50206	保育実習Ⅲ	平松喜代江・田村禎章	2	2	前期
CS50207	子育て支援演習	平松喜代江	1	2	通年

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザイン I	担当者	鈴木建生・山本典子	開講時期	I 年後期	授業形態・単位数	講義 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL10101	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：自らの I 年後、I 年半後の目標を設定し、行動計画をたてる</p> <p>到達目標①：自己分析により自己理解を深める</p> <p>到達目標②：職業観を育む</p> <p>到達目標③：社会人としてのマナーを習得する</p>								
授業概要	<p>この講義では、キャリアデザインを形成し、自らの I 年後、I 年半後の目標の設定を行い、行動計画を立てることを目的とする。</p> <p>キャリアデザインの形成には、自己分析が重要であり、自己理解を進めることで明確な目標設定や進路選択ができる。他にも社会人としてのマナーや知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。</p>								
ディプロマポリシー (DP) と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>◎ ③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1 回	ガイダンス キャリアの捉え方と基本的な知識を理解する					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
2 回	コミュニケーションスキル 伝える能力					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
3 回	コミュニケーションスキル 受け取る能力					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
4 回	コミュニケーションスキル 非言語コミュニケーション能力					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
5 回	コミュニケーションスキル 対話する能力					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
6 回	自分について考える 「自分の強みを知る」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
7 回	社会人としてのマナー 「身だしなみ」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
8 回	目標設定と行動計画をたてる 「実習にむけて、I 年後・I 年半後の目標設定」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく (0.5h) 事後：リフレクションシートで確認 (0.5h)			
9 回						事前： 事後：			
10 回						事前： 事後：			
11 回						事前： 事後：			
12 回						事前： 事後：			
13 回						事前： 事後：			
14 回						事前： 事後：			

15回		事前: 事後:					
16回		事前: 事後:					
テキスト	『大学生の就活編』ディスコ 資料を授業内で適宜配布する						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%			
	到達目標②			20%			
	到達目標③			20%		40%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業前後、対応できる時は随時 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施する						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
受講生へのメッセージ	「社会で必要な力」を学び、将来の進路を考える機会にしてください						

科目区分	教養科目	科目名	心理学	担当者	小澤良	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10102	資格等取得との関連	保育士:選択必修 社会福祉主事任用資格:選択必修			実務経験	なし
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ: 到達目標①:心理学の基本的な知識を習得する。 到達目標②:科学としての心理学の基本的な考え方を身につける。 到達目標③:日常的な行動の背後にある心理過程を説明できる。</p>								
授業概要	<p>心理学は行動とそれを制御する心的過程に関する科学です。ここでいう行動とはヒトを含む生体のふるまいのうち、環境と交渉をもつほとんど全てと言えます。本講義では、普段意識することなく自然に行なっている行動、例えば「見る」「覚える」「考える」などの背後にどのような過程が想定されており、それにより行動がどのように制御されると考えられているのかを解説します。それにより複雑な心理過程の奥にある一貫した原理の理解を目的とします。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することが出来る。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	心理学とは 心に対する考え方を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
2回	心の生理的基盤 心と脳の対応を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
3回	感覚 心と物理的な現実の対応を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
4回	知覚 人間が外界をどのように意味づけするか説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
5回	学習 1 古典的条件づけとオペラント条件づけを説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
6回	学習 2 技能学習に関して説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
7回	記憶 1 覚えることと忘れることの仕組みを説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
8回	記憶 2 記憶内容の変容の原因を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
9回	発達 1 愛着に関して説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
10回	発達 2 認知の発達に関して説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
11回	性格 性格の決定要因に関して説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
12回	思考 1 言語と思考の関係を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
13回	思考 2 感情と思考の関係を説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				
14回	意思決定 人間は何に基づいて選択するのか説明できる。				事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。				

15回	意識と無意識 心の二重構造に関して説明できる。	事前:講義資料を熟読すること(0.5 h)。 事後:講義資料を参照しノートにまとめること (1 h)。																												
16回	試験	事前:定期試験のために準備する(1.5 h) 事後:定期試験の内容に関し復習する(1.5 h)。																												
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜資料を配布する。また、参考となる文研を講義中に紹介する。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>65%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	65%				5%		到達目標②	5%				5%		到達目標③	15%				5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	65%				5%																									
到達目標②	5%				5%																									
到達目標③	15%				5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:講義終了後,または講義間の休憩時間に教室で受け付ける 学習成果のフィードバック:試験終了後,ただちに解答を提示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
受講生へのメッセージ																														

科目区分	教養科目	科目名	生活とかがく	担当者	伊藤康明	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10103	資格等取得との関連	保育士：選択必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：身の回りの科学</p> <p>到達目標①：身近な自然に関心を持つ。</p> <p>到達目標②：身近な自然の観察や実験を計画できる。</p> <p>到達目標③：子どもたちと一緒に観察や実験が楽しめる。</p>								
授業概要	<p>幼児期の子どもたちが自然に触れて遊ぶ中で、その神秘さや不思議さを共感することが大切である。</p> <p>本授業では、身近な教材や道具を使い、子どもたちを驚かせたり楽しませながら、科学の本質を学ぶことができるような実験について学習する。なお本科目は高等学校教員、校長、総合教育センターでの自然科学や環境等理科教員の研修の実務経験を有する教員（伊藤康明）により、保育現場の実態に即して理解を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	ガイダンス					事前：著者ガードナーについて調べる(0.5h) 事後：授業のねらいについてまとめる(0.5h)			
2回	天文学					事前：天文学の歴史について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
3回	化学					事前：化学の歴史について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
4回	心理学					事前：心理学とはどのような学問かについて調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
5回	数学					事前：数学の興味ある問題について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
6回	光					事前：光の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
7回	重力					事前：重力の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
8回	静電気					事前：静電気の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
9回	力学					事前：力学の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
10回	空気					事前：空気の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
11回	水力学					事前：水力学の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			
12回	熱					事前：熱の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)			

13回	音	事前:音の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後:教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)					
14回	慣性	事前:慣性の不思議な性質や実験について調べる(0.5h) 事後:教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)					
15回	まとめ	事前:ノートを振り返り、疑問点を整理する(0.5h) 事後:教科書・プリントを参考にノートをまとめる(0.5h)					
16回							
テキスト	マーティン・ガードナー『ガードナーのおもしろ科学実験』、東海大学出版会、2001						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・ 到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①		5%	20%		10%	
	到達目標②		5%	20%		10%	
	到達目標③			20%		10%	
ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:オフィスアワー 学習成果のフィードバック:提出物などは授業の中で講評します。小テストなどは研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
受講生へのメッセージ	身の回りの様々な自然を体験し、不思議に思ったことは確かめてみましょう。						

科目区分	教養科目	科目名	あそび入門	担当者	川勝泰介・伊藤康明・ 松本亜香里・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10104	資格等取得との関連	保育士：選択必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：さまざまな「子どものあそび」について、実践的・体験的に理解する。</p> <p>到達目標①：子どもを取り巻くあそびについての基礎的知識を身につけ、説明できる。</p> <p>到達目標②：子どものあそびについてその特徴を体験的に理解し、言語的に説明できる。</p> <p>到達目標③：子どものあそびについて体験的に学び、あそびの引き出しとして実践することができる。</p>								
授業概要	<p>「あそび」は人間らしさを構成する一つであり、また子どもの発達にとっては欠くことのできないものである。古今東西さまざまなあそびが行われているが、特に「子どものあそび」は、伝統的なものからハイテク技術を取り込んだ現代的なものまでその種類は多岐に渡っている。その一方で社会や環境の変化に伴い、これまでに体験したあそびの種類・形態が限られ、「子どものあそび」に日常的に接する機会が減っているケースも多い。そこでこの授業では、「あそび」の言葉が指す概念のうち特に「子どものあそび」を取り上げる。そして「子どものあそび」について理論的理解を深めながら、同時に実践的・体験的学修を行い、その特徴を理解し、実践できるよう学ぶ。なお本科目は高等学校教員、校長、総合教育センターでの自然科学や環境等理科教員の研修の実務経験を有する教員（伊藤康明）により、保育現場の実態に即して理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 今、なぜ「あそび」なのか				事前：シラバスを読み、概要の把握に努める。(1h) 事後：講義の内容を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)				
2回	総論 —「あそび」とは何か — 子どものあそびと大人のあそび				事前：子ども時代のあそびを思い出してメモする。(1h) 事後：講義の内容を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)				
3回	遊びが成立するためには何が必要か — あそびの三間とあそびへの意欲				事前：あそびに必要なものについて考えておく。(1h) 事後：講義の内容を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)				
4回	昔の子どものあそびと今の子どものあそび — 祖父母世代・親世代と自分たちの世代 (グループ討議)				事前：祖父母や両親から子ども時代のあそびを聞き取る。(1h) 事後：グループで討議した内容をまとめる。(1.5h)				
5回	子ども時代のあそびを思いだし、グループごとに発表する。				事前：発表する準備をする。(1h) 事後：発表内容をレポートにまとめる。(1.5h)				
6回	あそびと表現① あそびと粗大運動				事前：表現指導法の学修内容を復習しておく。(1h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)				
7回	あそびと表現② あそびと微細運動				事前：表現指導法の学修内容を復習しておく。(1.5h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1h)				
8回	伝承あそび① おもちゃを使ったあそび				事前：伝統的なあそびについて文献等で調べておく。(1h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)				
9回	伝承あそび② 折り紙と工作				事前：工作あそびについて文献等で調べておく。(1h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)				
10回	伝承あそび③ おもちゃをつくるあそび				事前：手作りおもちゃについて調べておく。(1h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)				
11回	からだを動かすあそび① 身体の発達と遊び				事前：子どもの発達について調べておく。(1h) 事後：授業の内容を復習する。(1.5h)				
12回	からだを動かすあそび② 屋内・遊戯室でのあそび				事前：屋内遊びについて調べておく。(1h) 事後：授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)				

13回	からだを動かすあそび③ 屋外でのあそび	事前:屋外遊びについてについて調べておく。(1h) 事後:授業で体験したあそびを振り返り、復習する。(1.5h)																												
14回	まとめ①	事前:これまでの授業内容を確認しておく(1h) 事後:ノート等を用いて、授業内容を復習する(1.5h)																												
15回	まとめ②	事前:これまでの授業内容を確認しておく(1h) 事後:ノート等を用いて、授業内容を復習する(1.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・それぞれのテーマごとに実施する課題・提出物の内容・分量により、総合的に評価する。 ・取り組みの姿勢については、授業への参加の積極さをもとに総合的に評価する ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			25%		10%		到達目標②			25%		10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			25%		10%																									
到達目標②			25%		10%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック: 提出された各種課題は研究室にて保管しているので、返却事前に連絡のうえ内容を確認することができる。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
受講生へのメッセージ	授業では私語、携帯電話等の操作をしないこと。 積極的な学修への参加を求める。																													

科目区分	教養科目	科目名	リズム遊び	担当者	桂山たかみ	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL10105	資格等取得との関連	保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	テーマ:学生に遊びを通してリズムの本質を理解する 到達目標①:数ある打楽器の基本的な奏法を習得する 到達目標②:リズム表現方法の意義を理解できる 到達目標③:リズムの表現形態の特質が理解できる								
授業概要	身体的表現活動の意義を理解し、リズム遊びの基礎を習得する。それとともに、保育の現場で用いられる様々な音楽活動を理解する。学生のコミュニケーション能力を高める合奏を体験する。学生自らが表現する喜びを実感し、その喜びを他者へ伝える能力を高める。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション、リズム遊びの目的と意義の説明					事前:リズム遊びについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
2回	リズム(1)基礎リズム					事前:基礎リズムについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
3回	リズム(2)こどものうたのリズムパターン					事前:こどものうたのリズムパターンについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
4回	リズム(3)子どもの歌の拍子					事前:子どもの歌の拍子について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
5回	リズム(4)拍子とリズムの応用					事前:拍子とリズムがもつ役割について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
6回	打楽器を使ったリズム遊び(1)奏法					事前:テキスト P22~P26(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
7回	打楽器を使ったリズム遊び(2)リズムの組み合わせ					事前:テキスト P28~P37(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
8回	打楽器を使ったリズム遊び(3)音のバランス					事前:テキスト P54~P61(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
9回	楽譜を読む能力を身につける「読譜」					事前:読譜について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
10回	音を聴く能力を身につける「聴音」					事前:聴音について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
11回	音の時間的感覚を身につける「リズム」					事前:リズム表現について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)			
12回	器楽合奏(1)課題曲1の分析					事前:テキスト P86~P119(0.5h) 事後:課題曲1の練習(0.5h)			
13回	器楽合奏(2)課題曲1の音出しと仕上げ					事前:課題曲1の練習(0.5h) 事後:課題曲2の練習(0.5h)			
14回	器楽合奏(3)課題曲2の分析					事前:テキスト P120~P147(0.5h) 事後:課題曲2の練習(0.5h)			

15回	器楽合奏(4)課題曲2の音出しと仕上げ	事前:課題曲2の練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	現場で生かせる幼児合奏〜リズムあそびから発表会まで〜 監修:三瓶令子 共著:那須一彦、鈴木祥子、宮城純一、菅原三謝、柿沼恵美子 圭文社(2016)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」圭文社 植田光子他監修(2017)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスパワー 学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
受講生へのメッセージ	毎日の努力が成果へと繋がります。自宅練習を継続しましょう。																													

科目区分	教養科目	科目名	日本国憲法	担当者	早川秋子	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10106	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：立憲主義の理解を深め、自身の権利を主張しながら国民主権を意識できるようになる</p> <p>到達目標①：憲法の保障する基本的人権について身近な問題を事例に理解できる</p> <p>到達目標②：権力分立の原理について権利意識を持って自覚できる</p> <p>到達目標③：自分の言葉で権利の尊重・国民主権の重要性について他者に伝えることができる</p>								
授業概要	<p>憲法の歴史を踏まえながら、基本的人権について、判例を通して整理する。法の下での平等や表現の自由を身近な問題に照らし合わせながら整理する。平和維持に関する問題では、湾岸戦争以来の国際社会の動きを軸にして自衛隊問題や国際協力について整理する予定である。</p> <p>必要に応じてプリント配布、動画やパワーポイントを使用する</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション コーネル式ノート術による予習復習方法のレクチャーも含む 憲法とは、日本の法構造について理解する					事前：テキストの第1章を確認しておく(2h) 事後：コーネル式ノート作成と振り返り(2h)			
2回	権利の主体、特別な法律関係について整理する 一個人また保育者として子供の人権について考えてみよう					事前：テキストの該当箇所を確認しておく(1h) 事後：特別な法律関係について他の事例を調べる(3h)			
3回	憲法条文の定める基本的人権を整理する 憲法3章 国民の権利・義務					事前：憲法条文の全体像をつかんでおく(2h) 事後：3章人権規定を見直しておくこと(2h)			
4回	新しい人権 裁判の仕組みについて理解する プライバシー権を事例とする					事前：裁判制度について調べておくこと(2h) 事後：新しい人権には何があるか再確認しておく(2h)			
5回	自己決定権 尊厳死を事例に整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：権利尊重の大切さを他事例で検索する(2h)			
6回	人身の自由 刑事事件について法的整理をする 正義とは何か 死刑制度は憲法に違反しないのか					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：テキストを参考に授業内容を整理しておく(2h)			
7回	法の下での平等 「女性再婚禁止期間事件」を事例に違憲立法審査権 の内容と効果について整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：他の違憲判決の内容を確認する(2h)			
8回	表現の自由 表現の自由の優越的地位と公共の福祉による制限の限界 について整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：テキストを参考に授業内容を整理しておく(2h)			
9回	信教の自由と政教分離 靖国神社公式参拝事件を事例として整理する					事前：靖国神社についての情報を確認しておく(2h) 事後：政治と宗教のあり方について他事例で確認(2h)			
10回	平和主義 憲法の規定を国際法と比較して整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：テキストを参考に授業内容を整理しておく(2h)			
11回	解釈改正と国際貢献 戦後(自衛隊)の動向を政府の憲法解釈をもとに読み解く					事前：湾岸戦争以後の国防情報を確認しておく(2h) 事後：憲法改正議論についても整理しておく(2h)			
12回	統治機構 権力分立の原理について国会と内閣の関係を中心に整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：テキストを参考に授業内容を整理しておく(2h)			
13回	権力分立の原理 弾劾裁判と司法権の関係について整理する					事前：テキストの該当箇所を確認しておくこと(2h) 事後：テキストを参考に授業内容を整理しておく(2h)			

14回	憲法改正 改正手続きと課題について整理する	事前: ニュース等で改正情報を確認しておくこと(2h) 事後: テキスト等を参考に授業内容を整理する(2h)																												
15回	総まとめ	事前: 今までの学習内容を整理しておくこと(2h) 事後: テキスト等を参考に授業内容を整理する(2h)																												
16回	試験	事前: 試験範囲についての的を絞って復習する 事後: 今後も自問自答し続ける																												
テキスト	田中・大野編『法学入門—はじめて学ぶ法学—』(第2版)株式会社 成文堂 2021年																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『六法』 参考書については、授業の中で順次紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>50%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<u>取り入れていない</u></p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%			10%		到達目標②		20%					到達目標③	50%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%			10%																									
到達目標②		20%																												
到達目標③	50%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業後に教室(もしくは非常勤控え室)で質問を受け付ける、長くなる場合は相談の上日時を決定する 学習成果のフィードバック: 小レポートの結果は、次の授業内で紹介していく																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 日本国憲法保育士: 教養科目/外国語、体育以外の科目																													
受講生へのメッセージ	暗記科目ではなく、生きた学問として「憲法」を再認識していきましょう。学ぶ楽しさ、知るよろこびを共有していきましょう!																													

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザインⅡ	担当者	鈴木建生・山本典子	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	講義 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL10201	資格等取得との 関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：社会へ踏み出す力を養う</p> <p>到達目標①：就職活動にむけて行動する力をつける</p> <p>到達目標②：自己アピールができる</p> <p>到達目標③：社会のルールを理解する</p>								
授業概要	<p>この講義では、キャリアデザインⅠで立てた目標の再確認を行い、行動計画を実行していく。自己分析をもとに、履歴書や面接での自己アピールなど、就職活動にあたって基本的なことを学ぶ。また、施設長や現場で活躍する社会人の経験談から職業理解を深め、職業観を育み職業選択に活かせるような機会とする。他にも社会人としてのルールや知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	①	乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	②	子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	③	子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	ガイダンス 「職業的自立に向けて必要なことの確認」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
2回	コミュニケーションスキル 振り返り					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
3回	社会と職業について① 「幼稚園教諭として活躍している先輩の働き方」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
4回	社会と職業について② 「保育所・認定こども園で保育士として活躍している先輩の働き方」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
5回	社会と職業について③ 「知的障害者福祉施設で保育士として活躍している先輩の働き方」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
6回	社会と職業について④ 「児童養護施設で保育士として活躍している先輩の働き方」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
7回	社会へ踏み出すために 「働くことに対する保障について」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
8回	自分を表現する 「履歴書の効果的な書き方」					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(0.5h) 事後：リフレクションシートで確認(0.5h)			
9回						事前： 事後：			
10回						事前： 事後：			
11回						事前： 事後：			
12回						事前： 事後：			
13回						事前： 事後：			
14回						事前： 事後：			

15回	まとめ	事前: 事後:					
16回		事前: 事後:					
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%			
	到達目標②			20%			
	到達目標③			20%		40%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れている						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業前後、対応できる時は随時 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施する						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目						
受講生へのメッセージ	職業理解を深め、職業観を育む						

科目区分	教養科目	科目名	情報処理 I	担当者	中村紘也	開講時期	I 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL20101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：基本的な情報機器の操作及び情報の取扱いを身につける。</p> <p>到達目標①：短期大学及び社会において必要となる情報リテラシーを学ぶ。</p> <p>到達目標②：実務で必要となる基本的な情報機器の操作を身につける。</p> <p>到達目標③：情報の発信及び情報の管理についての知識を身につける。</p>								
授業概要	<p>保育の現場においても情報の発信が必要になるが、情報の発信は情報機器を操作して行われることが多い。そこで、実務上必要となる基本的な情報機器の操作方法を学んでいく。</p> <p>また、実習や実務においては秘匿性の高い個人情報等を取り扱うことになるので、情報の取扱いに関する注意事項を学び、加えて文書作成の基本的知識を修得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション Windows の基本操作				事前：テキスト1章から3章を概観する。(0.5H) 事後：タッチタイピングの練習(0.5H)				
2 回	Word の起動、画面構成、終了、入力インジケータ、クイックアクセスツールバー				事前：テキスト(3章1から6)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
3 回	文字の入力、入力の訂正、ヘッダー・フッター				事前：テキスト(3章7、9)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
4 回	文章の入力、印刷				事前：テキスト(3章8、12)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
5 回	文章入力(練習)、ファイルの保存と読み込み				事前：テキスト(3章8、10)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
6 回	文章入力(練習)、ページ設定、移動とコピー				事前：テキスト(3章11、13)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
7 回	基本的な文書の構成				事前：テキスト(3章14)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
8 回	文書作成の実技試験及び解説				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：できなかった点について確認する。(0.5H)				
9 回	表を活用した文書の作成				事前：テキスト(3章17)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
10 回	表を編集し、読みやすい文書の作成				事前：テキスト(3章18)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
11 回	画像や図形を活用した文書の作成				事前：テキスト(3章19)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
12 回	文書作成に役立つその他の機能				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
13 回	Word の機能を駆使した文書作成の練習				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
14 回	発展的な文書の作成				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				

15回	文書作成の実技試験及び解説	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	実教出版企画開発部編『30時間でマスターOffice2016』実教出版(2016)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%	10%		5%		到達目標②		20%	10%		5%		到達目標③		20%	5%		5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%	10%		5%																									
到達目標②		20%	10%		5%																									
到達目標③		20%	5%		5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却します。試験の返却方法は授業の中で指示します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:情報機器の操作</p> <p>保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目</p>																													
受講生へのメッセージ	<p>基本的な情報機器の使用方法を学びつつ、実習で必要になるお礼状の書き方や文書作成の基礎等を学んでいきたいと思います。また、情報はその取扱い如何によって利益にも不利益にも作用しますので、その点も併せて学んでいきたいと思います。いずれも各実習や実務に直結する事項ですので、頑張ってください。</p>																													

科目区分	教養科目	科目名	情報処理Ⅱ	担当者	中村紘也	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：情報の取扱い等に加え、Excel を用いた情報処理方法を身につける。</p> <p>到達目標①：Excel により効率的なデータ処理方法を身につける。</p> <p>到達目標②：PowerPoint を用いたプレゼンテーションの基礎を身につける。</p> <p>到達目標③：Word、Excel 及び PowerPoint の連携操作を身につける。</p>								
授業概要	<p>情報処理Ⅰを踏まえ、より広汎な情報処理方法を学んでいく。具体的には効率的なデータ処理等を行うことにより、作業時間の短縮を目指すとともに、簡単なプレゼンテーションスキルについても身につけるようにする。</p> <p>また、必要に応じて適宜情報処理Ⅰで学んだ内容を確認し、知識及び技術の定着を図っていく。</p>								
ディプロマポリシー (DP) と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション				事前：テキスト4章から6章を概観する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
2回	Excel (起動、データ入力等)				事前：テキスト(4章1から3)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
3回	Excel (データ入力の基礎、シートの編集等)				事前：テキスト(4章4、5)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
4回	Excel (簡単な表の作成)				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
5回	Excel (関数等)				事前：テキスト(4章6、7)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
6回	Excel (罫線、行の挿入等)				事前：テキスト(4章8、9)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
7回	Excel (発展的な表の作成)				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
8回	計算処理の実技試験及び解説				事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後：できなかった点について確認する。(0.5H)				
9回	PowerPoint 基礎 (スライド作成等)				事前：テキスト(5章1から5)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
10回	PowerPoint 発展 (画像の挿入等) フォトレタッチ				事前：テキスト(5章6から13、6章)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
11回	PowerPoint を用いての作品制作				事前：テキスト(5章)を再読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
12回	PowerPoint を用いての作品制作・提出				事前：テーマに沿った作品を制作するうえで必要な技術を確認する。(0.5H) 事後：技術等が不足していると感じた点を確認する。(0.5H)				
13回	Excel (グラフの作成、IF 関数の使い方等)				事前：テキスト(4章10、11)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				
14回	Excel (その他の機能)				事前：テキスト(4章12から15)を熟読する。(0.5H) 事後：講義の内容を復習する。(0.5H)				

15回	計算処理の実技試験及び解説	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5H) 事後:できなかった点について確認する。(0.5H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	実教出版企画開発部編『30時間でマスターOffice2016』実教出版(2016)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%	10%		5%		到達目標②		20%	10%		5%		到達目標③		20%	5%		5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%	10%		5%																									
到達目標②		20%	10%		5%																									
到達目標③		20%	5%		5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却します。試験の返却方法は授業の中で指示します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:情報機器の操作</p> <p>保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目</p>																													
受講生へのメッセージ	<p>実務においては、Wordだけでなく、Excelを使用する機会も多いといえます。Excelの使用により効率的かつ間違いのない計算等を行うことができ、作業の時間短縮につながっていきます。また簡単ではありますがPowerPointの基礎にも触れていきます。</p>																													

科目区分	教養科目	科目名	国語表現法	担当者	加藤扶久美	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20103	資格等取得との関連	保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:自分自身の日本語を見直し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>到達目標①:日本語を一つの言語として客観的に考察できるようになる。</p> <p>到達目標②:自分自身の日本語を総合的にレベルアップする。</p> <p>到達目標③:コミュニケーション力を高める。</p>								
授業概要	<p>「英語教育」(中学校と高校)12年間と「外国人対象の日本語教育」(大学と専門学校)27年間の経験から、日本人に対する「日本語(国語)教育」の必要性を感じるようになりました。</p> <p>「国語表現法」の授業では、日本語を概観し、自分自身の言葉を客観的に捉えて見つめ直すことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能の能力を涵養し、人間関係の円滑な形成に重要な役割を担うコミュニケーション力を高める。それとともに日本語固有の魅力や特徴を学ぶことを通して、日本文化の特徴や長所についての理解を更に深めていくとともに、乳幼児・児童の人間形成や育成の中で言葉の果たす役割について、ことばのモニタリングという手法を通して理解を深めていく。最後に、「幼稚園・保育園のための基礎語彙」を完成する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	言語としての日本語				<p>事前:事前にテキスト『新・はじめての日本語教育Ⅰ』の第1章「言語としての日本語」pp.7-22を熟読し、自己紹介文についての構想をまとめる。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
2回	日本語の音声(1)<音、音節、リズム、母音、子音、半母音、音素>				<p>事前:事前にテキストの第2章「日本語の音声」pp.23-39を熟読する。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
3回	日本語の音声(2)<母音の無声化、アクセント、イントネーション、音声の指導>				<p>事前:事前に教科書の第2章「日本語の音声」pp.40-58を熟読する。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
4回	日本語の文法(1)<品詞分類,日本語の文法的特徴,動詞の活用,名詞文>				<p>事前:事前にテキストの第3章「日本語の文法」pp.64-80を熟読する。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
5回	日本語の文法(2)<自動詞と他動詞、可能表現、使役表現、受身表現、授受表現>				<p>事前:事前にテキストの第3章「日本語の文法」pp.96-110を熟読する。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
6回	日本語の文字・表記(1)<常用漢字表、送り仮名の付け方、現代仮名遣い>				<p>事前:事前にテキストの第4章「文字・表記」pp.135-137、pp.140-151を熟読して、自分自身の名前の由来と使用されている漢字についてまとめる。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				
7回	日本語の文字・表記(2)<外来語の表記、ローマ字の表記、符号>				<p>事前:事前にテキストの第4章「文字・表記」pp.152-162を熟読する。(0.75h)</p> <p>事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)</p>				

8回	日本語の語彙(1)<語彙と語、語種、語構成>	事前:事前にテキストの第5章「語彙」pp.176-182を熟読する。(0.75h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)																												
9回	日本語の語彙(2)<語彙の体系、語を数える>	事前:事前にテキストの第5章「語彙」pp.183-187を熟読する。(0.75h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)																												
10回	幼稚園・保育園のための基礎語彙表作成に向けて	事前:幼稚園児と保育園児が一日を通して使用する語彙(名詞と動詞)をまとめる。(0.75h) 事後:配布プリントを参考にしながら、基礎語彙をまとめる。(0.75h)																												
11回	社会言語学(1)<敬語>	事前:事前にテキストの第6章「社会言語学」pp.195-203を熟読する。(0.75h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)																												
12回	社会言語学(2)<方言と共通語、コミュニケーション>	事前:事前にテキストの第6章「社会言語学」pp.203-213を熟読する。(0.75h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(0.75h)																												
13回	口頭発表(1)「テーマについて発表する」	事前:スピーチのテーマを決めて、まとめる。(0.75h) 事後:スピーチの内容を原稿用紙に書く。(0.75h)																												
14回	口頭発表(2)「スピーチをする」	事前:スピーチの練習をする。(1h) 事後:スピーチについての感想等について、ノートにまとめる。(0.5h)																												
15回	幼稚園・保育園のための基礎語彙表作成	事前:独自の基礎語彙表を作成する。(1h) 事後:授業全体についての振り返りをして、ノートに書く。(0.5h)																												
テキスト	高見澤孟監修・著 『新・はじめての日本語教育Ⅰ(増補改訂版)』アスク出版(2018)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 日本語教育学会編 『日本語教育ハンドブック』大修館書店(1990) 徳弘康代監修・著 『語彙マップで覚える漢字と語彙 中級1500』Jリサーチ出版(2010) 海外技術者研修協会監修 『みんなの日本語 初級1、2』スリーエーネットワーク(1998)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(実技試験「朗読」)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>25%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実技試験「朗読」)	到達目標①			25%	5%		5%	到達目標②		10%	30%	10%		5%	到達目標③				10%		
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実技試験「朗読」)																								
到達目標①			25%	5%		5%																								
到達目標②		10%	30%	10%		5%																								
到達目標③				10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後に教室で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:小テストや課題は、授業の中で後日返却する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
受講生へのメッセージ	当たり前前に使用していた「日本語」に対する意識が少しでも変われることを願っています。																													

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション I (英語)	担当者	出口敦子	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL20104	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:英語を使ってコミュニケーション能力をつけることによって、相手と心が通じ合う喜びを知る。</p> <p>到達目標①:非母国語で表現活動をするにより、言語以外にも重要な伝達スキルがあることを知る。</p> <p>到達目標②:一人で会話劇を演じる落語を体験して、言葉のやり取りに必要なものは何かを考える。</p> <p>到達目標③:英語小噺で観客を笑わせる。</p>								
授業概要	<p>「落語は観客とのコミュニケーションである」との観点から、英語落語の実演を体験してそのスキルを習得する。英語を母国語とする観客を心から楽しませることができれば、異なった文化圏の人たちともコミュニケーションが成立したといえるでしょう。</p> <p>前期では英語小話を演じられるまで、後期ではストーリーの伝達も加えて英語落語に挑戦する。クラス内で発表しあうことで、観客として相手からのメッセージをどう受け止めるかも感じとる。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	講義概要の説明 日本語の自己紹介				事前:1分の自己紹介を考える(1h) 事後:授業のノートをまとめる(0.5h)				
2回	前回の自己紹介を英語で行う。				事前:辞書を使わず、前回の自己紹介を英訳する(1h) 事後:授業のノートをまとめる(0.5h)				
3回	前回の感想を発表する。 どこをどのようにすれば、より相手に伝わるかを考える。				事前:発表の準備(1h) 事後:授業のノートをまとめる(0.5h)				
4回	落語(日本語)実演鑑賞				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
5回	ジェスチャー 伝えたいことを身振りを加えて表現する。				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
6回	コミュニケーションには的確なリズムとイントネーションが重要であることを学ぶ。				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
7回	コミュニケーションには相手と息や間を合わせることが重要であることを学ぶ。				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
8回	「英語で小噺をやってみよう」高座での座り方				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
9回	「英語で小噺をやってみよう」発声				事前:小噺の練習(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
10回	「英語で小噺をやってみよう」視線の使い方				事前:小噺の練習(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
11回	「英語で小噺をやってみよう」活舌				事前:小噺の練習(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
12回	「英語で小噺をやってみよう」オチの言い方				事前:小噺の練習(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる(1h)				
13回	実技テスト 練習した小噺をクラスで発表しあう。				事前:小噺の練習(0.5h) 事後:感想をノートにまとめる(1h)				
14回	実技テストの講評				事前: 事後:授業のノートをまとめる(1h)				

15回	落語の基本 What is RAKUGO? 落語の特徴	事前: 事後:授業のノートをもとめる(1h)																												
16回	落語の基本 What is RAKUGO? 笑いとは?	事前: 事後:授業のノートをもとめる(1h)																												
テキスト	随時プリントを配布																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】扇子・手ぬぐい																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①					30%		到達目標②					30%		到達目標③				40%		
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①					30%																									
到達目標②					30%																									
到達目標③				40%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(cutehouse1@gmail.com)</p> <p>学習成果のフィードバック:</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション</p> <p>保育士:教養科目/外国語</p>																													
受講生へのメッセージ	人を泣かせることよりも、怒らせることよりも、人を笑わせることは難しい。チャレンジしてみましょう。																													

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション Ⅱ(英語)	担当者	出口敦子	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL20105	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:英語を使ったコミュニケーション能力をつけることによって、相手と心が通じ合う喜びを知る。</p> <p>到達目標①:非母国語で表現活動をするにより、言語以外にも重要な伝達スキルがあることを知る。</p> <p>到達目標②:一人で会話劇を演じる落語を体験して、言葉のやり取りに必要なものは何かを考える。</p> <p>到達目標③:英語落語で観客を笑わせる。</p>								
授業概要	<p>「落語は観客とのコミュニケーションである」との観点から、英語落語の実演を体験してそのスキルを習得する。英語を母国語とする観客を心から楽しませることができれば、異なった文化圏の人たちともコミュニケーションが成立したといえるでしょう。</p> <p>前期では英語小話を演じられるまで、後期ではストーリーの伝達も加えて英語落語に挑戦する。クラス内で発表しあうことで、観客として相手からのメッセージをどう受け止めるかも感じとる。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	①	乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	②	子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	③	子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	落語実演鑑賞(日本語版と英語版)					事前: 事後:感想をノートに記す(0.5h)			
2回	英語落語「Time Noodles」のネタ本を読み解く・基本単語					事前:プリントの下読み(0.5h) 事後:講義内容をノートにまとめる(0.5h)			
3回	英語落語「Time Noodles」のネタ本を読み解く・発音					事前:プリントの下読み(0.5h) 事後:講義内容をノートにまとめる(0.5h)			
4回	英語落語「Time Noodles」のネタ本を読み解く・イントネーション					事前:プリントの下読み(0.5h) 事後:講義内容をノートにまとめる(0.5h)			
5回	グループ分け・各グループに英語落語のネタ本を配布・リレー落語の分担を決める					事前: 事後:講義内容をノートにまとめる(1h)			
6回	各グループで練習と講評・歩くしぐさ					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
7回	各グループで練習と講評・情景描写・静物					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
8回	各グループで練習と講評・情景描写・動くもの					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
9回	各グループで練習と講評・人物描写					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
10回	各グループで練習と講評・複数の人物を演じ分ける					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
11回	各グループで練習と講評・扇子の使い方					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
12回	各グループで練習と講評・手ぬぐいの使い方					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
13回	各グループで練習と講評・うどんを食べる					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			
14回	各グループで練習と講評・オチの言い方					事前:自分のパートを研究する(0.5h) 事後:ネタ繰り10回(0.5h)			

15回	発表会 外部からも観客を招く	事前:自分のパートを研究する(1h) 事後:					
16回	発表会の講評・感想を述べあう	事前: 事後:講義内容をノートにまとめる(1h)					
テキスト	随時プリント配布						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】扇子・手ぬぐい						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①					30%	
	到達目標②					30%	
	到達目標③				40%		
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/>						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(cutehouse1@gmail.com) 学習成果のフィードバック:						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語						
受講生へのメッセージ	人を泣かせることよりも、怒らせることよりも、人を笑わせることは難しい。チャレンジしてみましょう。						

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション I (中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL20106	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する</p> <p>到達目標:話す、書く、聞くの各要素について以下の到達目標を設定する。</p> <p>①中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができること。</p> <p>②日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書けること。</p> <p>③簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができること。</p>								
授業概要	<p>本講義では、主に中国で通用している北京語について、基本的な日常生活会話を教授する。また、言語学習の他、北京語を使うそれぞれの地域の文化と慣習も紹介する。</p> <p>本講義のゴールは、学生に対して北京語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が北京語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることを目指す。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	講義概要の説明、中国語の紹介					事前:シラバスを読んで概要を学習する(0.5H) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
2回	中国語の基本表現(あいさつ)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
3回	中国語の基本表現(お礼の表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
4回	中国語の基本表現(質問の方法)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
5回	中国語の基本表現(数字、日付、曜日などの言い方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
6回	中国語会話(家族について)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
7回	中国語会話(趣味の尋ね方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
8回	中国語会話(習い事などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
9回	中国語会話(自己紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
10回	中国語会話(買い物などの日常生活)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
11回	中国語会話(褒め言葉などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
12回	中国語会話(自国の紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			
13回	中国語会話(学校についての各表現I)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをもとめる。(0.5h)			

14回	中国語会話(学校についての各表現Ⅱ)	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
15回	まとめと復習	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
16回	テスト	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:																												
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語I』国立台湾師範大学主編著 正中書局																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れている</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①				15%	15%		到達目標②	35%						到達目標③	35%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①				15%	15%																									
到達目標②	35%																													
到達目標③	35%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(changfei_shih@hotmail.com)</p> <p>学習成果のフィードバック:期末試験は講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション</p> <p>保育士:教養科目/外国語</p>																													
受講生へのメッセージ	中国語の勉強を楽しんで下さい。																													

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション II (中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	I 年 後期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	選択 必修	ナンバリング	CL20107	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する</p> <p>到達目標:話す、書く、聞くの各要素について以下の到達目標を設定する。</p> <p>①中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができること。</p> <p>②日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書けること。</p> <p>③簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができること。</p>								
授業概要	<p>本講義では、外国語コミュニケーション I の内容を基礎として、より発展した内容を取扱う。講義では、主に北京語の中級日常生活会話を教授する。また、講義においては、学生が北京語で発言することを奨励する。本講義では、学生が外国人と接する際に自信を持って自らの意見を述べることを目指す。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	中国語会話(病気・病院に関する表現)					事前:シラバスを読んで概要を学習する(0.5H) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
2 回	中国語会話(外出時における会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
3 回	中国語会話(電話での会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
4 回	中国語会話(食事に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
5 回	中国語会話(引越し等に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
6 回	中国語会話(比較表現 I)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
7 回	中国語会話(比較表現 II)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
8 回	中国語会話(希望・願望に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
9 回	中国語会話(歓談に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
10 回	中国語会話(旅行に関する表現 I)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
11 回	中国語会話(旅行に関する表現 II)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
12 回	中国語会話(運動に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
13 回	中国語会話(冠婚葬祭に関する表現 I)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			

14回	中国語会話(冠婚葬祭に関する表現Ⅱ)	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
15回	まとめと復習	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
16回	テスト	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:																												
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語2』国立台湾師範大学主編著 正中書局																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①				15%	15%		到達目標②	35%						到達目標③	35%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①				15%	15%																									
到達目標②	35%																													
到達目標③	35%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(changfei_shih@hotmail.com)</p> <p>学習成果のフィードバック:期末試験は講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語</p>																													
受講生へのメッセージ	中国語の勉強を楽しんで下さい。																													

科目区分	教養科目	科目名	人間と健康	担当者	大矢知佳	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL30101	資格等取得との関連	保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：心身の健康について知り、自分の健康法を考えよう</p> <p>到達目標①：健康とは何かを考え、身体的、精神的、社会的に健康である状態を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標②：自分の心と体の状態を知り、運動を通して健康を維持していく方法を考えることができる。</p> <p>到達目標③：健康について理解し、すすんで自分が生涯にわたり健康的なライフスタイルをつくろうとしている。</p>								
授業概要	<p>本講義では、健康とは何かということを身体面、精神面、社会面から捉える。身体面では生活習慣病の特徴から予防法まで理解し、身体面での健康法について考える。自分の現在の運動機能を把握し、人の体やトレーニングの方法について理解し自分に合った運動法を見つける。精神面では、現代社会でも大きく取り上げられている心の健康について考え、運動による効果や自分なりの心の健康を維持する方法を見つける。人と関わりながら活動していくことを通して、それぞれの健康についての知識を身につけ、心と体の双方から健康について理解をし、自分自身が健康でいる方法を確立する。</p>								
ディプロマ (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション・健康の捉え方 健康とはどのような状態かを考える					事前：健康について自分なりに考える。(0.5h) 事後：自分の生活習慣を振り返っておく。(1h)			
2回	生活習慣病と運動の効果 生活習慣病の特徴や予防について学ぶ					事前：自分の生活習慣を振り返る。(0.5h) 事後：生活習慣予防のための運動を行う。(1h)			
3回	肥満とメタボリックシンドローム 肥満の要因と体の状態について学ぶ					事前：肥満とはどのような状態なのかイメージする。(0.5h) 事後：プリントを参考にノートにまとめる。(1h)			
4回	肥満予防とダイエット方法 肥満予防の方法を考え、ダイエット計画を立案する					事前：知っているダイエット法について考える。(0.5h) 事後：自分に合った方法と考え、まとめる。(1h)			
5回	食事と健康 食事における体への影響と栄養について学ぶ					事前：食事メニューについて考える。(0.5h) 事後：健康を維持する献立を考える。(1h)			
6回	睡眠と休養における体の変化 睡眠における体への影響について学ぶ					事前：自分の睡眠時間を考える。(0.5h) 事後：睡眠時間を決めて実践して体の調子を見る。(1h)			
7回	健康をおびやかすもの 病気・けがの予防 病気やけがの種類について知り、予防法を理解する。					事前：今までの経験の病気やけがについて考える。(0.5h) 事後：病気・けが予防についてまとめる。(1h)			
8回	体カテスト 運動機能をチェック 体カテストから自分の運動機能の現状を知る					事前：体の調子を整える。(0.5h) (1h) 事後：体カテストの結果をうけて自分の考えをまとめる。			
9回	ヒトの体のしくみ 筋や神経系について知り、体のメカニズムについて学ぶ					事前：体操をして体の動きについて考える。(0.5h) 事後：プリントを参考にノートにまとめる。(1h)			
10回	トレーニング理論と方法 運動機能をアップさせる方法を考え、トレーニング計画を立案する					事前：トレーニングの必要性について考える。(0.5h) 事後：プリントを参考にノートにまとめる。(1h)			
11回	健康維持の運動と運動器障害(ロコモティブシンドローム) 健康維持のための運動について知り、目的に合った方法を考える					事前：体の調子を整える。(0.5h) 事後：健康維持の運動についてまとめる。(1h)			
12回	心の健康 メンタルヘルスケアについて知り、心の健康を保つ方法を考える					事前：自分の心の状態について考える。(0.5h) 事後：メンタルヘルスケアについてまとめる。(1h)			
13回	地域スポーツを広げよう 人との関わりを通して 誰もがスポーツを楽しめるための方法について討議する					事前：社会スポーツの経験を振り返ってみる。(0.5h) 事後：世代を超えて楽しめるスポーツを考える。(1h)			

14回	自分の健康法を考えよう 自分にとっての健康を維持するための方法をまとめる	事前:前時までの内容をふりかえる。(0.5h) 事後:自分の健康法を確認する。(1h)																																
15回	自分の健康法を考えよう まとめ 自分の健康法を発表し合い,自己,他者評価をし,振り返る	事前:発表の準備・確認をする。(0.5h) 事後:発表を聞き,自分なりの健康法を見直す。(1h)																																
16回	テスト	事前: 事後:																																
テキスト	無し																																	
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『スポーツでのばす健康寿命』 編者深代線之,安部孝 東京大学出版会																																	
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>						評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30						到達目標②				40			到達目標③					30	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①	30																																	
到達目標②				40																														
到達目標③					30																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 水曜日 16:00~17:00 学習成果のフィードバック: 試験の返却方法は授業の中で指示します。</p>																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/体育																																	
受講生へのメッセージ	自分自身が心身ともに健康であることの大切さを感じましょう。健康法を学んで実践し,健やかな毎日が過ごせるようにしていきましょう。																																	

科目区分	教養科目	科目名	スポーツ・レクリエーション実技	担当者	大矢知佳	開講時期	1年前期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL30102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修・ レク：必修・初級障がい者スポーツ：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：スポーツの必要性を理解し、体力維持に努める方法を知る</p> <p>到達目標①：健康を維持増進するための運動に取り組む</p> <p>到達目標②：現場で安全を確保して運動を提供できるようにする</p> <p>到達目標③：家族で楽しみながら運動する方法を知る</p>								
授業概要	<p>小学校・保育園で体育・運動指導を行ってきた経験を活かして、実技授業を中心に身体を動かす楽しさ、仲間とともに楽しむ姿勢について学ぶ。運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性などを養う。また、幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強を図る。さらに幼児教育者として適切に動き、子どもを援助指導できるように運動機能の資質の向上を図る。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	<p>授業オリエンテーション【座学】</p> <p>・スポーツのインテグリティとは(スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題)</p> <p>・スポーツ指導者に求められる資質・能力</p>					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
2回	ウォーキングによる有酸素性運動の実践					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
3回	ウォーミングアップとクーリングダウン (ストレッチの実践)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
4回	基礎体力を高めるトレーニング法 (なわとび・大なわとび)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
5回	スポーツ実践(マット運動・平均台)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：安全に取り組む方法について確認をする。(1h)</p>			
6回	スポーツ実践 (跳び箱)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：安全に取り組む方法について確認をする。(1h)</p>			
7回	スポーツ実践 (バトンパスを考慮したリレー走)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
8回	スポーツ実践(バスケットボール)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
9回	スポーツ実践 (バドミントン)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
10回	スポーツ実践 (ライトドッジボール)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：ルールについて確認をする。(1h)</p>			
11回	ボールを使った運動(バレーボール)					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：自身で新しい遊びを考える。(1h)</p>			
12回	ロープを使った運動					<p>事前：身体の調子を整える。(0.5h)</p> <p>事後：自身で新しい遊びを考える。(1h)</p>			

13回	新聞紙を使った運動	事前: 身体の調子を整える。(0.5h) 事後: 自身で新しい遊びを考える。(1h)					
14回	何も使わない運動	事前: 身体の調子を整える。(0.5h) 事後: 自身で新しい遊びを考える。(1h)					
15回	体育館でもできるフィールドアスレチックの体験	事前: 身体の調子を整える。(0.5h) 事後: ルールについて確認をする。(1h)					
16回	実技評価	事前: 事後:					
テキスト	・『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(2017) ・『レクリエーション支援の方法(楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材)』(公財)日本レクリエーション協会(2021)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①					30%	
	到達目標②				20%	30%	
	到達目標③					20%	
ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない							
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談: 授業後やオフィスアワー(水曜日: 昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 学習成果のフィードバックで質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック: 学習の振り返り, 次の学習目標の設定は授業中に通達します。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 体育 保育士: 教養科目/体育						
受講生へのメッセージ	スポーツ・レクリエーションはそれぞれの積極的な参加が、より楽しい時間を創出します。スポーツの上手下手に関わらず、全力で楽しむ姿が子供たちをひきつけます。授業中も同様に、他の受講者と協調性をもって授業に参加をしてください。						

科目区分	教養科目	科目名	スポーツ・レクリエーション講義	担当者	大矢知佳	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義1単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL30103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：スポーツやレクリエーション活動の必要性を理解し、体力維持に努める方法を実践でき説明できる</p> <p>到達目標①：健康を維持増進するための運動に取り組む</p> <p>到達目標②：保育現場で安全を確保して運動を提供できるようにする</p> <p>到達目標③：家族や仲間と楽しみながら運動する方法を知る</p>								
授業概要	<p>スポーツ・レクリエーション講義では身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努める必要性を知る。生涯にわたって豊かな生活を営むために、必要な運動の技能や知識を習得する大切さを学ぶ。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、様々な身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	基礎体力を高めるトレーニング法（サーキットトレーニングの理解）				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：バランスよく高められる種目を考える。(1h)				
2回	障害者スポーツ、障害特性に応じたスポーツ指導の工夫 聴覚・視覚障害者でもスポーツを楽しめる工夫				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：各種目の効果を復習する。(1h)				
3回	スポーツ実践と講義(様々な形のリレー走)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
4回	スポーツ実践と講義(バドミントン)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
5回	スポーツ実践と講義(ライトドッジボール)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
6回	スポーツ実践 と講義(バスケットボール)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
7回	スポーツ実践と講義(キンボール・スポーツ実践)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
8回	スポーツ実践(ソフトスポンジボールを使ったフットサル)				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
9回	フラフープを使った運動				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
10回	ドッジビーを使った運動				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
11回	ロープを使った運動				事前：身体の調子を整える。(0.5h) 事後：ルールについて確認をする。(1h)				
12回	実技指導実践①(グループ活動企画)				事前：実際に人を動かす実践準備。(0.5h) 事後：安全、取り組みについて振り返りをする。(1h)				
13回	実技指導実践②(グループ活動企画)				事前：実際に人を動かす実践準備。(0.5h) 事後：安全、取り組みについて振り返りをする。(1h)				

14回	最終回に向けたグループ活動	事前: 身体の調子を整える。(0.5h) 事後: 仲間と楽しく取り組める活動準備を進める。(1h)					
15回	グループ対抗スポーツ大会	事前: 役割分担を決定する。(0.5h) 事後: 一年間の振り返りをする。(1h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	・『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(2017) ・『レクリエーション支援の方法(楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材)』(公財)日本レクリエーション協会(2021)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①					30%	
	到達目標②				20%	30%	
	到達目標③					20%	
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業後やオフィスアワー(水曜日: 昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 学習成果のフィードバックで質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック: 学習の振り返り, 次の学習目標の設定は授業中に通達します。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 体育 保育士: 教養科目/体育						
受講生へのメッセージ	スポーツ・レクリエーション実技と連動した授業設計をします。授業中も同様に、他の受講者と協調性をもって授業に参加をしてください。また、グループ活動で協力して達成する力を培ってください。						

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育原理	担当者	伊藤喬治・宮坂朋幸	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバ リ ン グ	CS10101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修・社会福祉主 事任用資格：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：「教育」や「学校」といった教育学の基本的な概念と、それらに関わる思想について理解する。</p> <p>到達目標①：教育制度や教育課程などの枠組みの側面及び教材や学習指導案などの中身の側面について理解し、説明できる。</p> <p>到達目標②：教育にかかわる現代的な課題について理解し、それらの関係について主体的に考察できる。</p> <p>到達目標③：教育思想や教育活動の歴史的変遷について理解し、「教育」そのものについて深く考察できる。</p>								
授業概要	<p>社会の変化とともに、教育のあり方は、国の内外を問わず、常に変動を続けてきた。教育のあり方とは、教育思想、制度、教育方法・技術など教育を与える側のあらゆる面での変化である。また、子どもが過ごす場である家庭、地域のあり方の変化である。これら社会の変化とともに教授-学習のあり方もそれに規定され、変化してきたといえる。学生にとって、子どもを取り巻く現代の環境がいかなる状況であり、またどのような課題を孕んでいるのかについても考察することは必須であり、本科目では子ども家庭福祉の観点を含めて教育について講ずる。</p>								
ディプロマ (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 授業の進め方についての説明 (伊藤 喬治担当)					事前：教育に関する新聞記事を各自読む。(1h) 事後：内容を確認し、復習する。(1h)			
2回	教育の目的とは —マクロな視点からとらえる (伊藤 喬治担当)					事前：教科書第1章第1節を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
3回	教育の目的とは —ミクロな視点からとらえる (伊藤 喬治担当)					事前：教科書第1章第2節を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
4回	人間と「教育」・「子ども」・「学校」のかかわり (伊藤 喬治担当)					事前：教科書第1章第3節を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
5回	西洋社会の子育て観 —コメニウス・ロック・ルソー (宮坂 朋幸担当)					事前：教科書第2章第1節-1、第2節を読む。(1.5h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
6回	日本近世社会の子育て観 —生育の祝い・貝原益軒 (宮坂 朋幸担当)					事前：教科書第2章第1節-2、第3節-1を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
7回	日本近世社会の学習文化 —手習い塾 (宮坂 朋幸担当)					事前：教科書第2章第3節-1と事前資料を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
8回	近代教育の理念と「学校」の登場 —「学制」・一斉教授					事前：教科書第2章第3節-2と事前資料を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
9回	「国家」主義教育の展開と「義務教育」の成立 —教育勅語・児童中心主義 (宮坂 朋幸担当)					事前：教科書第2章第3節-3と事前資料を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
10回	教員養成の歴史 —戦前の師範学校・戦後の2大原則 (宮坂 朋幸担当)					事前：教科書第2章第3節-4と事前資料を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
11回	現代の子ども観と教育 —教育基本法・児童福祉法・消費者マインド (宮坂 朋幸担当)					事前：教育基本法と児童福祉法について調べてくる。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
12回	学習観と教育課程 (伊藤 喬治担当)					事前：教科書第3章第1節を読む。(1h) 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			
13回	授業づくりと教材 (伊藤 喬治担当)					事前：教科書第3章第5節を読む。 事後：プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)			

14回	教師の役割と専門性 (伊藤 喬治担当)	事前:教科書第5章第3節を読む。(1h) 事後:プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)																												
15回	まとめ (伊藤 喬治担当)	事前:これまでの授業内容を復習しておく。(1h) 事後:プリント、ノートを用いて授業を復習する。(1.5h)																												
16回	筆記試験	事前: 事後:																												
テキスト	小田豊、森眞理編著『教育原理』北大路書房、2009年																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著『やさしい教育原理 第3版』有斐閣、2016年。 池田隆英、楠本恭之、中原朋生編著。岡田典子、滝沢潤、光田尚美、湯藤定宗、渡邊言美共著『なぜからはじめる教育原理 第2版』建帛社、2018年。 山崎英則、片上宗二編『教育用語辞典』ミネルヴァ書房、2003年。 柴田義松、山崎準二編『教育原論』学文社、2009年。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	10%	5%				到達目標②	15%	10%	5%				到達目標③	15%	10%	10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%	10%	5%																											
到達目標②	15%	10%	5%																											
到達目標③	15%	10%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前後に教室で質問を受けつける。(宮坂朋幸) ・オフィスアワー、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。(伊藤喬治) <p>学習成果のフィードバック:</p> <p>提出された試験及び小レポートは教員にて保管しているため、事前に連絡のうえ内容を確認することができる。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育者論</p>																													
受講生へのメッセージ	<p>授業では私語、携帯電話等の操作をしないこと。</p> <p>積極的な学修への参加を求める。</p>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教職概論	担当者	鈴木建生	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10102	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する</p> <p>到達目標①:わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標②:教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標③:教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、説明できる。</p>								
授業概要	<p>教育制度に関わる様々な歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身に付けるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができ。							
	○	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	教育・保育の意味					事前:保育・幼児教育に関する直近の話題のレポート(1h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
2回	教職者の意味					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
3回	教職者の役割					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
4回	教職観の変遷					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
5回	教職の職業的特徴					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
6回	保育思想の歴史					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
7回	教職者の地位(教職者の身分の保障)					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
8回	教育者・保育者と法(服務と研修)					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
9回	教育者・保育者の要件					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
10回	教育・保育の基本姿勢					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
11回	教職者の資質・能力・要件と養成					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
12回	教職者の生涯学習					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
13回	専門性の発達とキャリア形成					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			
14回	保育ニーズの多様化					事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)			

15回	諸課題への組織的対応と連携乳幼児を取り巻く環境と現代的課題	事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(1.5h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(1h)																												
16回	定期試験	事前:全回の資料を熟読し、要点を整理して臨む。 事後:																												
テキスト	文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 29 年告示) 厚生労働省「保育所保育指針」(平成 29 年告示) その他、適宜、資料・ワークシートを配布する																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 特にありません。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%				20%		到達目標②	30%						到達目標③	20%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%				20%																									
到達目標②	30%																													
到達目標③	20%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:リフレクションシートに学習相談の希望を受け付け、随時、相談を行う。 学習成果のフィードバック:リフレクションシートの記述をもとに振り返り集を次回に資料提供し、適宜、学修成果をフィードバックする。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/教育原理																													
受講生へのメッセージ	学生に対する評価:筆記試験(80%)受講姿勢(20%) ・筆記試験については、専門職として必要な知識の理解度について評価 ・受講姿勢については、真摯な姿勢で講義に参加しているかを評価																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教育課程論	担当者	柴田智世	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10103	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修			実務経験	幼稚園(5年)
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ: 到達目標①:教育課程、全体的な計画及び様々な指導計画の意義や特徴を説明できる。 到達目標②:子ども理解に基づいた指導計画について、保育実践との関連を考察できる。 到達目標③:省察、評価、改善による評価の意義を、自分の実践に適用することができる。</p>								
授業概要	<p>幼稚園での実務経験を活かして、実際の保育や子どもの姿を想定した実践的な学びのできる授業を目指す。 教育課程、全体的な計画、指導計画には、私たちが子どもをどのような存在として捉え、どのような保育を目指しているのかという根本的な問いが描き出されるものである。そこで、それらを実現する方法はどのようなものかを考え、教育課程、全体的な計画、指導計画の意義と目的や具体的な立て方について学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション、保育の基本とカリキュラム				事前:事前にテキスト(p.1~10)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(1h)				
2回	カリキュラムの意義と子ども理解				事前:事前にテキスト(p.11~20)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(1h)				
3回	保育所保育指針における「全体的な計画」「指導計画」				事前:事前にテキスト(p.21~34)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(1h)				
4回	幼稚園教育要領における「教育課程」「指導計画」				事前:事前にテキスト(p.35~45)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書を復習し、疑問点を挙げる。(1h)				
5回	0・1・2歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画				事前:事前にテキスト(p.61~74)を熟読する。(0.5h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(1h)				
6回	0・1・2歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画				事前:事前にテキスト(p.61~74)を熟読する。(0.5h) 事後:身近な園の指導計画について調べる。(1h)				
7回	3・4・5歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画				事前:事前にテキスト(p.79~98)を熟読する。(0.5h) 事後:地域で出会った子どもについて考察する。(1h)				
8回	3・4・5歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画				事前:事前にテキスト(p.79~98)を熟読する。(0.5h) 事後:地域で出会った子どもについて考察する。(1h)				
9回	保育教材の製作と模擬保育(1)製作の意義と目的				事前:保育教材について調べ、案を考える。(0.5h) 事後:保育教材を製作する。(1h)				
10回	保育教材の製作と模擬保育(2)教材研究と製作				事前:保育教材を製作する。(0.5h) 事後:保育教材を製作する。(1h)				
11回	保育教材の製作と模擬保育(3)発表				事前:保育教材を製作する。(0.5h) 事後:自分の発表の振り返りと考察を行う。(1h)				
12回	長時間・延長保育の指導計画の工夫				事前:事前にテキスト(p.75~78)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(1h)				
13回	保幼小連携を目指す指導計画の工夫				事前:事前にテキスト(p.99~110)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(1h)				

14回	指導計画の実践とPDCAサイクルとは	事前:事前にテキスト(p.111~123)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(1h)																												
15回	まとめ	事前:事前にテキスト(p.111~123)を熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	豊田和子・新井美保子 編著『保育カリキュラム論-計画と評価-』建帛社、2018年 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で紹介する。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①					20%		到達目標②			30%	30%			到達目標③					20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①					20%																									
到達目標②			30%	30%																										
到達目標③					20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室もしくは非常勤講師室で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:授業内で提出されたレポートや課題は、授業の中で後日返却する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育の計画と評価																													
受講生へのメッセージ	保育者を目指す者としてふさわしい自覚をもって受講すること。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育原理	担当者	川勝泰介	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10104	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格： 選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	テーマ：「保育」の基本について学ぶ 到達目標①：保育の意義や保育所保育の基本について理解する。 到達目標②：保育の内容と方法の基本について理解する。 到達目標③：保育の現状と課題について学ぶ。								
授業概要	本科目では、保育の理念や意義、目的、保育所保育の特性、子どもの発達、保育内容・方法、保育施設の歴史や保育思想、保育制度、現代の保育をめぐる問題など、保育者を目指す学生にとって必要となる保育の基本的事項を講義形式にて幅広く取り上げ、講ずる。 以上から保育のあり方や保育の専門職としての確かな知識の基盤を形成することを目的とする。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	○	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション ―授業概要と学習の仕方及び評価方法について 保育者になるということ				事前：シラバスを読み、学習内容の概要を知る。(0.5h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
2回	保育の意義と役割				事前：教科書第1章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
3回	保育所・幼稚園・認定こども園の制度的比較 保育にかかわる法律と制度				事前：教科書第1章第2節と第12章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
4回	子ども観と保育観				事前：教科書第2章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
5回	保育の基本原理				事前：教科書第1章第4節を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
6回	保育の歴史と保育思想(西欧)				事前：教科書第9章第1・2節を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
7回	保育の歴史と保育思想(日本)				事前：教科書第9章第3・4・5節を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
8回	子ども理解とは				事前：教科書第2章第4節を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
9回	保育の内容とは何か				事前：教科書第3章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
10回	保育の方法				事前：教科書第4章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
11回	保育における「環境」				事前：教科書第4章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
12回	保育の計画と評価				事前：教科書第5章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
13回	多様な保育ニーズと子育て支援				事前：教科書第6章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				
14回	学校や家庭・地域との連携				事前：教科書第11章を読む。(1h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)				

15回	多様な子どもの理解と保育およびこれからの保育の課題と展望	事前:教科書第10・13章を読む。(1h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(1.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	汐見稔幸・無藤隆・大豆宇田啓友編著『アクティベート保育学 01 保育原理』(ミネルヴァ書房)																													
参考書・参考資料・準備物など	厚生労働省『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>60%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・課題・リフレクションペーパーは、理解度、質問、復習の状況などをもとに評価 ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他	到達目標①	60%						到達目標②			30%				到達目標③					10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他																								
到達目標①	60%																													
到達目標②			30%																											
到達目標③					10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。</p> <p>学習成果のフィードバック:試験結果、各種課題の返却については授業時間にて指示します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育原理																													
受講生へのメッセージ	講義中に配布する資料とテキストを活用するとともに、日常的に子どもに関心を持ち、問題意識を持って子どもの観察をして欲しい。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭福祉	担当者	安藤和彦	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10105	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格： 選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：子ども家庭福祉の全容について説明できる</p> <p>到達目標①：子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷と人権擁護について説明できる</p> <p>到達目標②：子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる</p> <p>到達目標③：子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について説明できる</p>								
授業概要	<p>社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉について、今日の社会問題の一つである少子高齢化社会を踏まえて現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、保育、制度と実施体系、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉に関わる課題及び動向と展望について、解説する</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができ。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	子ども家庭福祉の理念と概念				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
2回	子ども家庭福祉と子どもの人権擁護の歴史的変遷				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
3回	現代社会と子ども家庭福祉				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
4回	「児童の権利に関する条約」と子どもの人権擁護及び課題				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
5回	子ども家庭福祉の制度と法体系及び児童福祉施設				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
6回	子ども家庭福祉の実施体系と専門職				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
7回	少子化と地域子育て支援				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
8回	母子保健と子どもの健全育成				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
9回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
10回	社会的養護				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
11回	障がいのある子どもへの対応				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
12回	少年非行等への対応				事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				

13回	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
14回	子育て支援と子ども家庭福祉の推進	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
15回	地域における連携・協働とネットワーク及び子ども家庭福祉の諸外国の動向	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
16回	試験																													
テキスト	直島正樹・河野清志編著『図解で学ぶ保育・子ども家庭福祉』萌文書林 2019																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で随時紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%						到達目標②	20%						到達目標③	40%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	40%																													
到達目標②	20%																													
到達目標③	40%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後、教室もしくは研究室で、質問を受け付ける 学習成果のフィードバック:期末試験は、研究室で保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭福祉																													
受講生へのメッセージ	学ぶ姿勢を大切にしてください																													

科目区分	専門教育科目	科目名	社会福祉	担当者	田村禎章	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10106	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格： 選択必修・初級障がい者スポーツ：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：</p> <p>到達目標①：保育士、幼稚園教諭として社会福祉の理念や制度の実際を学び思考・判断できる力を身につける。</p> <p>到達目標②：専門職として必要となる社会福祉基礎知識を理解する力を身につける。</p> <p>到達目標③：社会福祉の理念や制度を実際のサービス現場で実践できる思考・判断力を身につける。</p>								
授業概要	<p>社会福祉は歴史的形成体である。社会福祉を理解するためには、まず社会福祉諸制度の成立とその展開過程について知ることが重要となる。本講では、社会福祉諸制度の歴史的変遷を手掛かりに社会福祉の制度や施策の全体像を理解することを目的とする。社会福祉の用語理解のみに留まらず、現代社会における社会福祉の意義や理念、相談援助や利用者支援の価値を体得することを学習の中心に位置づける。その際、幼児教育や保育を学ぶ学生の生活課題や生活実態に近づけた講義を展開する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	社会福祉へのみちびき ～私たちの生活と社会福祉～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
2回	社会福祉を学ぶ(1)～社会福祉の理念と法的定義～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
3回	社会福祉を学ぶ(2)～社会福祉と社会保障の構造と体系～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
4回	社会福祉のあゆみ(1) ～欧米の社会福祉の歴史(諸外国の社会福祉)～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
5回	社会福祉のあゆみ(2) ～日本の社会福祉の歴史(明治～昭和)～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
6回	社会福祉のあゆみ(3) ～日本の社会福祉の歴史(昭和～平成)～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
7回	社会福祉基礎構造改革と社会福祉制度のしくみ ～社会福祉法を学ぶ～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
8回	社会保障及び関連諸制度の概要(1) ～公的扶助の概念と生活保護制度～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
9回	社会保障及び関連諸制度の概要(2) ～年金保険制度と社会保険制度～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
10回	高齢者の福祉制度とその動向(1) ～介護保険制度の構造～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
11回	高齢者の福祉制度とその動向(2) ～介護保険制度の実際～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
12回	障がい者福祉制度とその動向(1) ～障害者総合支援法をめぐって～					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			
13回	障がい者福祉制度とその動向(2) ～障がい者福祉施策(障害者手帳を含む)および障がい者スポーツに関する施策(スポーツ基本法やスポーツ基本計画など)					事前：必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後：配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)			

14回	子どもと家庭の福祉制度とその動向 ～社会的養護・児童虐待の実態をめぐって～	事前:必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後:配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)																												
15回	地域の福祉活動とその意義 ～地域福祉の主体形成と福祉教育～	事前:必ず事前にテキストに目を通しておくこと(0.5h) 事後:配布資料を整理して講義内容を振り返る(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『社会福祉』志濃原亜美編、みらい(2020) ・『保育福祉小六法 2021年版』、みらい(2021) ・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』 																													
参考書・参考資料・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『厚生労働白書』など統計資料も適宜配布します。 ・各種の新聞、ニュースなどには関心をもってほしい。 ・その他授業中に、必要な資料は配布する。 																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%		10%		到達目標②	20%		10%				到達目標③	20%		10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%		10%																									
到達目標②	20%		10%																											
到達目標③	20%		10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後やオフィスアワー(水曜日:昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 <p>学習成果のフィードバック:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート等の効果測定は随時実施します。また定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/社会福祉																													
受講生へのメッセージ	・社会福祉は、現代社会の課題である。日ごろから福祉に関するニュース、新聞等に関心をもってほしい。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	社会的養護 I	担当者	安藤和彦	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS10107	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:社会的養護の全容について説明できる</p> <p>到達目標①:現代社会における社会的養護の意義、歴史的変遷と子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、説明できる</p> <p>到達目標②:社会的養護の制度や実施体系等と社会的養護の対象や形態関係する専門職等について説明できる</p> <p>到達目標③:社会的養護の現状と課題について説明できる</p>								
授業概要	<p>子どもは生まれたその時から、“社会”生活を送ることとなる。特に、家庭は「第2の子宮」と言われるように子どもを育てる重要な要素がある。そういった家庭での養護が困難な児童のための施策が社会的養護である。本講義では、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷からはじまり、児童福祉との関連性に留意しながらその制度や実施体系などについて講義を展開する。また、社会的養護に関わる専門職や社会的養護とソーシャルワークとの関連等について学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p>							
		<p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p>							
		<p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			
1 回	社会的養護の理念と概念				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
2 回	社会的養護の歴史的変遷				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
3 回	子どもの人権擁護と社会的養護				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
4 回	社会的養護の基本原則				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
5 回	社会的養護における保育士等の倫理と責務				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
6 回	社会的養護の制度と法体系				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
7 回	社会的養護の仕組みと実施体系				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
8 回	社会的養護の対象				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
9 回	家庭養護と施設養護				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
10 回	社会的養護に関わる専門職				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
11 回	社会的養護に関わる社会的状況				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
12 回	施設等の運営管理				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				
13 回	被措置児童等の虐待防止				事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)				

14回	社会的養護と地域福祉	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
15回	社会的養護の課題と展望	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
16回	試験																													
テキスト	原田旬哉・杉山宗尚編著『図解で学ぶ保育・社会的養護 I』萌文書林 2018																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で随時紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%						到達目標②	20%						到達目標③	40%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	40%																													
到達目標②	20%																													
到達目標③	40%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後、教室もしくは研究室で、質問を受け付ける 学習成果のフィードバック:期末試験は、研究室で保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/社会的養護 I																													
受講生へのメッセージ	学ぶ姿勢を大切にしてください																													

科目区分	専門教育科目	科目名	社会的養護Ⅱ	担当者	平松喜代江・鈴木聡	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件		ナンバリング	CS10108	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：社会的養護を必要とする子どもの特性や背景を理解し、社会的養護の具体的内容と方法、保育士の役割、地域や関連機関との連携や家族支援について事例を通して学ぶ。</p> <p>到達目標①：社会的養護の対象となる子どもたちの生活の実際と発達の特徴・発達課題について説明できる。</p> <p>到達目標②：保育士等専門職員の職務内容の理解と職務の進め方について説明できる。</p> <p>到達目標③：子どもの自立を目指す支援について自分の考えを述べられる。</p>								
授業概要	<p>社会的養護の基本として、児童養護施設等における施設援助に焦点を当てて学習していく。日常の援助プログラムの展開と子どもへの援助について事例をもとに学ぶとともに、子どもの自立援助につながる、子ども個人や子ども集団への援助の考え方や実践方法を身に付ける。さらに、直接子どもの援助に関わる保育士や児童指導員の職務内容の理解を深めるとともに援助展開の実際を学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	子どもの社会的養護 社会的養護を必要とする子どもの現状を学ぶ				事前：事前に参考書 P6-13 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
2回	施設養護の現状と課題 社会的養護における施設養護の現状と課題を学ぶ				事前：事前に参考書 P2-P6 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
3回	児童養護施設で働く職員の理解 専門職員の業務内容・役割について学ぶ				事前：事前に参考書 P58-63 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
4回	児童養護施設を利用する子どもの理解 施設における子どもの生活および支援について学ぶ				事前：事前に参考書 P119-121 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
5回	乳児院で働く職員の理解 専門職員の業務内容・役割について学ぶ				事前：事前に参考書 P54-58 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
6回	乳児院を利用する子どもの理解 施設における子どもの生活および支援について学ぶ				事前：事前に参考書 P118-119 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
7回	障害児入所施設で働く職員の理解 専門職員の業務内容・役割について学ぶ				事前：事前に参考書 P86-91 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
8回	障害児入所施設を利用する子どもの理解 施設における子どもの生活および支援について学ぶ				事前：事前に参考書 P93-96 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
9回	児童相談所及び一時保護所の機能と役割 社会的養護を必要とする子どもに対する役割				事前：事前に参考書 P80-85 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
10回	児童相談所と児童養護施設・地域との連携				事前：児童養護施設の役割について復習する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
11回	児童相談所と乳児院・里親、地域との連携				事前：乳児院の役割について復習する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
12回	児童相談所と市町村・保育所との連携				事前：事前に参考書 P158-160 を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
13回	児童相談所と児童虐待に関する学校の役割				事前：保育現場における他機関との連携について考える。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
14回	児童相談所と関係機関・地域との連携① 障がい児支援について				事前：障害児入所施設の役割について復習する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				

15回	児童相談所と関係機関・地域との連携② 家族支援(在宅指導・ショートステイ)について	事前:配布レジюмеを熟読する。(0.5h) 事後:参考書と配布レジюмеを参考にノートをまとめる。(1h)																												
16回	試験	事前:参考書と配布レジюме、ノートを読み返し復習する(1h) 事後:試験の振り返りを行う。(1h)																												
テキスト	適宜、レジюмеを配布する。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 参考書:花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019年(保育実習指導I(施設実習)にて購入の指示あり) 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				10%		到達目標②	20%			10%	10%		到達目標③	20%			10%		
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				10%																									
到達目標②	20%			10%	10%																									
到達目標③	20%			10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/社会的養護Ⅱ																													
受講生へのメッセージ	次年度実施予定の福祉施設実習に必要な基礎知識となりとても重要な科目となります。 配布資料の保管を確実に行ってください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教育と社会	担当者	川勝泰介・伊藤喬治	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10109	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：幼稚園を中心とする学校をめぐる制度的、社会的、経営的事項について必要な事項を学ぶ。</p> <p>到達目標①：学校制度、特に幼稚園を中心とする制度や思想の変遷、意義について理解する。</p> <p>到達目標②：コンプライアンス、守秘義務等を含めて、学校経営に必要とされる基礎的事項について学ぶ。</p> <p>到達目標③：わが国における教育に関する諸問題を解決するための基礎的事項を学ぶ。</p>								
授業概要	<p>本科目の目的は、教育実践していくうえで必要とされる社会的、制度的及び学校経営の基礎的知識を学生自身が主体的に理解することを目指すものである。近年のわが国の急激な変容は様々な問題を提起してきている。教育の社会的、制度的、経営的側面を切り口として、学校・家庭・社会を取り上げ、教育のあり方について理解することを目的とする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	○	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション―授業概要と学習の仕方および評価方法について				事前：シラバスを読み、学習内容の概要を知る。(0.5h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
2回	社会の変化と幼児教育(川勝泰介担当)				事前：教科書第3章を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
3回	消費社会と子どもの文化(川勝泰介担当)				事前：教科書第7章1,2を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
4回	情報社会と子どもの文化(川勝泰介担当)				事前：教科書第4章1,2,3を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
5回	公教育の理念(川勝泰介担当)				事前：教科書第7章3,4を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
6回	公教育の法的根拠(川勝泰介担当)				事前：教科書第4章4,5を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
7回	教育行政とは(理念・意義・仕組み)(川勝泰介担当)				事前：教科書第6章1,2を読む。(1h) 学事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
8回	教育制度をめぐる諸課題(川勝泰介担当)				事前：教科書第6章3,4を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
9回	諸外国における教育の動向(伊藤喬治担当)				事前：教科書第9章3,4を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
10回	地域連携の意義や協働の方法(伊藤喬治担当)				事前：教科書第2章1,2を読む。(1h) 学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)(1.5h)				
11回	開かれた保育現場づくり(伊藤喬治担当)				事前：教科書第2章3,4を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
12回	子どもと学校をめぐる諸問題①(不登校)(伊藤喬治担当)				事前：不登校に関する文献等を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
13回	子どもと学校をめぐる諸問題②(いじめ)(伊藤喬治担当)				事前：いじめに関する文献等を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				
14回	学校安全の必要性(伊藤喬治担当)				事前：幼稚園教育要領を読む。(1h) 事後：学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)				

15回	安全教育と安全管理・まとめ(伊藤喬治担当)	事前:保育所保育指針を読む。(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)																												
テキスト	陣内靖彦、木村敬子、穂坂明德著『教育と社会 一子ども・学校・教師』学文社(2012)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2008)、『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2008)、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2015)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(進捗確認試験)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(進捗確認試験)	到達目標①		40%					到達目標②		20%	10%				到達目標③		20%	10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(進捗確認試験)																								
到達目標①		40%																												
到達目標②		20%	10%																											
到達目標③		20%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック:試験結果、各種課題の返却については授業時間にて指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	ふだんから新聞やニュースなどに目を通し、子どもの教育と社会とのかかわりに関する問題について関心を持つように努めること。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	担当者	鈴木壽眞子	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修	ナンバリング	CS10201	資格等取得との関連	保育士：選択必修・ 児童厚生員2級：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：子どものための施設である児童館・放課後児童クラブの機能と運営方法を理解する。</p> <p>到達目標①：児童館・放課後児童クラブの社会的役割について知り、子どもの健全育成の大切さについて説明することができる。</p> <p>到達目標②：児童館の運営事例や実際の活動を知り、遊びと育ちを結びつけた企画ができる。</p> <p>到達目標③：児童厚生員の社会的役割について知り、地域の児童厚生員としての役割を説明する</p>								
授業概要	<p>児童館・放課後児童クラブの社会的立場や役割、機能についての理解を深めるとともに、児童厚生員の使命や社会的役割について学ぶ。保育や子育て支援に関わってきた経験を活かし、乳幼児期から高校生までの成長・発達を見通しながら、子どもに関わることの大切さを伝える。また、遊びの事例紹介や実践を取り入れたい。すべての子どもの健全育成を願って、活動できる児童厚生員となるための基礎的・基本的な知識や技術を習得する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	○	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション(授業計画等の説明) 児童館の社会的立場と健全育成の理念					事前：事前配布のプリントに記入する(0.5h) 事後：資料を読み直し授業の振り返りをする(0.5h)			
2回	児童館の役割及び実際の運営事例 施設の規模、施設の特徴					事前：児童館について調べる(0.5h) 事後：テキストを読み直し授業の振り返りをする(0.5h)			
3回	現代社会と子どもが抱える問題 「児童館関係調査資料」					事前：子どもが抱える問題について調べる(0.5h) 事後：資料を読み直し授業の振り返りをする(0.5h)			
4回	現代社会と地域・家族が抱える問題 「社会の現状と身近な問題との関係について」					事前：事前にテキストP32～P34を読む(0.5h) 事後：授業の内容から気付いた点についてまとめる(0.5h)			
5回	児童館の活動と安全管理に配慮した運営 「児童館ガイドライン第7章」					事前：事前に「児童館ガイドライン第7章」を読む(0.5h) 事後：資料を読み直し授業の振り返りをする(0.5h)			
6回	児童館の援助技術を用いた運営方法 小・中・高校生への対応					事前：資料を読む(0.5h) 事後：資料を見直し、授業の振り返りをする(0.5h)			
7回	小型児童館の館内活動の概要と実際例の理解(外部講師) 地域の児童館活動について①					事前：小型児童館について、テキストから調べる(0.5h) 事後：アンケートの記入と授業の振り返りをする(0.5h)			
8回	子育て支援活動における子育て支援の現状と課題 「地域における子育て支援の事例から」					事前：テキスト「児童館ガイドライン P114の5」を読む(0.5h) 事後：子育て支援の事例についてまとめる(課題)(0.5h)			
9回	児童館の館外活動、地元地域の取り組み(外部講師) 地域の児童館活動について②					事前：児童館ガイドラインを読む(1h) 事後：資料を見直し授業の振り返りをする(0.5h)			
10回	放課後児童クラブの歴史とその機能 戦前から現在までの変遷について知る					事前：放課後児童クラブについて調べる(0.5h) 事後：児童クラブの機能についてまとめる(1h)			
11回	放課後児童クラブの活動と運営方法 「放課後児童クラブ運営指針」					事前：資料「放課後児童クラブ運営指針」を読む(1h) 事後：資料を見直し、授業の振り返りをする(0.5h)			
12回	地域福祉活動と児童館の関わり(子育て環境やボランティア活動) 小テスト					事前：テキスト59～P64(0.5h) 事後：資料を見直し、授業の振り返りをする(0.5h)			
13回	健全育成活動を成し得るための遊びと育ちの関係性 遊びのプログラムを考える(計画書作成)					事前：「遊びの計画」案を考える(1h) 事後：実践に向けて計画の見直しをする(0.5h)			

14回	子どもの健全育成をなし得るための遊びの紹介	事前:「遊び」の紹介についての準備する(0.5) 事後:実践後の振り返りをする(0.5h)																												
15回	児童厚生員のあり方と実習に向けての心構え	事前:児童館ガイドライン第5章を読む(0.5h) 事後:児童厚生員の在り方についてレポートにまとめる																												
16回																														
テキスト	児童館論「児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ」 児童健全育成推進財団 著																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		40%			10%		到達目標②		10%	20%	10%			到達目標③			10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		40%			10%																									
到達目標②		10%	20%	10%																										
到達目標③			10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:小テストやレポートは授業の中で後日返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	「子どもの健全育成において、何が大切なのか」自分自身の成長も振り返りながらともに学んでいきましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教育心理学	担当者	八木朋子	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・ 保育士：必修・准学校心理士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を学ぶ。</p> <p>到達目標①：教育や子どもの発達について心理学的に説明できる。</p> <p>到達目標②：学習・発達・性格・教育評価など教育心理学の基礎的知識を説明できる。</p> <p>到達目標③：基礎的知識をもとに専門家として保育実践に応用できる。</p>								
授業概要	<p>教育心理学の基礎知識を、乳幼児期・児童期（障害児を含む）に焦点を当てて学ぶ。教育心理学の歴史を概観し、子どもの知的発達や学びのプロセスを理解するために、子どもの発達や知能、性格、学習のメカニズム、意欲や動機づけ、その評価等についても学び、保育や教育現場で役立てられることを目的とする。また、これらを学ぶことで、表面上ではなく子どもたちの背景を正しく把握する力や対処法を身に付けていくことを狙いとする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	教育心理学の領域と目的・研究方法					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
2回	発達の原理と段階					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
3回	発達の諸相と教育					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
4回	学習とは／学習理論					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
5回	記憶とは					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
6回	知能とは					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
7回	動機づけ／学習意欲					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
8回	学習指導と教授法					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
9回	学級集団の働きとその指導					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			
10回	教育評価の意義と方法					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)			

11回	子どもの性格／パーソナリティ理論	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
12回	適応とは	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
13回	欲求不満と防衛機制	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
14回	障がいのある子どもへの理解	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
15回	障がいのある子どもへの援助	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	『保育のためのやさしい教育心理学』高村和代、安藤史高、小平英志著、ナカニシヤ出版(2009)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/>取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			35%				到達目標②			35%				到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			35%																											
到達目標②			35%																											
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室で質問を受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック:提出課題は保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程 保育士:保育の対象の理解に関する科目/保育の心理学																													
受講生へのメッセージ	学んだことを活かすために、日ごろから様々なことに関心を持つよう心がけてください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の健康	担当者	田村禎章・大矢知佳	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修 ・レクリエーション：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ： 到達目標①：乳幼児期の健康・安全に関する知識と現代的課題を理解できるようになる。 到達目標②：発育・発達の特長や、基本的な生活習慣形成の意義を理解できるようになる。 到達目標③：幼児期の特長をふまえた身体活動をともなう遊びの指導の立案と展開ができるようになる。</p>								
授業概要	<p>乳幼児期の健康的で安全な生活についての基礎的な知識を修得し、現代の子どもの生活や環境における課題について理解を深める。また、身体発育・運動発達の特長や基本的な生活習慣を形成する意義について理解し、乳幼児期の健康に資する保育のあり方について考える。そして、知識をふまえて活発な身体活動をともなう遊びの指導や健康指導を立案し、その展開を実践・体験する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	乳幼児期の健康					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
2回	現代社会と乳幼児の健康					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
3回	領域「健康」と養護					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
4回	保育・教育の理念と発育・発達					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
5回	乳幼児期の身体の発育					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
6回	乳幼児期の運動機能の発達					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
7回	保育施設の安全管理 ※外部講師予定					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
8回	保育における安全教育					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
9回	乳幼児の基本的な生活習慣(食事・排泄)					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
10回	乳幼児の基本的な生活習慣(睡眠・着脱衣・清潔)					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
11回	子どもの発達と遊びの理論 ※外部講師予定					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
12回	運動遊び指導の立案					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
13回	運動遊び指導の実践					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			
14回	運動遊び指導の評価と反省					事前：「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)			

15回	講義のまとめ、ふりかえり、実践活動の自己評価	事前:「健康」についての自らの考えをまとめる(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	・種丸武臣・花井忠征 編著『幼児の楽しい運動遊びと身体表現』、圭文社(2010) ・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・適宜、授業で紹介をする。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%		10%				到達目標③	20%		10%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%		10%																											
到達目標③	20%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談 ・授業後やオフィスアワー(水曜日:昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 学習成果のフィードバック ・レポート等の効果測定は随時実施します。また定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/健康 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
受講生へのメッセージ	・「幼児の健康」を考えることは、自分自身の健康に向き合うことです。健康の意味・意義を考え、日ごろから身体表現や身体活動を大切にすることを心がけてほしい。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の環境	担当者	伊藤康明	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：生活と自然とのかかわり</p> <p>到達目標①：身近な自然に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。</p> <p>到達目標②：身近な自然に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする大切さを知る。</p> <p>到達目標③：日常経験の中で、物の性質や数量、図形などに対する感覚を豊かにする遊びや体験を工夫できる。</p>								
授業概要	<p>季節による自然の変化や身近な動植物について観察や栽培を行い、子どもが興味や関心を持つような環境について学習する。また、身近な自然現象を取り入れた遊びについて工夫する。直接体験が難しいものについては、補助教材としてICTを活用する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	ガイダンス					事前：幼稚園教育要領を熟読する(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
2回	領域「環境」のねらいと内容					事前：5領域について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
3回	人間の生活と環境					事前：「環境」という言葉の使われ方を調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
4回	子どもと園の環境					事前：園の環境について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
5回	子どもの発達と環境					事前：乳児期の子どもの発達について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
6回	四季の変化と生き物					事前：子どもの好きな花や虫について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
7回	四季の変化と行事					事前：二十四節気について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
8回	四季の変化と天気					事前：四季の天気の特徴について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
9回	四季の変化と天体					事前：冬の星空について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
10回	文字と数					事前：日常、文字や数を使う機会について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
11回	身近な自然を利用した遊び					事前：自然を取り入れた遊びについて調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
12回	あそびの工夫と道具の制作					事前：道具を使った遊びについて調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			
13回	動物の観察と飼育					事前：子どもが飼育しやすい動物について調べる(0.5h) 事後：教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)			

14回	植物の観察と栽培	事前:子どもが栽培しやすい花について調べる(0.5h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)					
15回	まとめ	事前:これまでの授業ノートを整理する(0.5h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(0.5h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	中沢和子著『<新訂> 子どもと環境』萌文書院、2016						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省/著・編『幼稚園教育要領』<平成29年告示>						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・ 到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%		10%	
	到達目標②		5%	20%		10%	
	到達目標③		5%	20%		10%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:オフィスアワー 学習成果のフィードバック:提出物などは授業の中で講評します。小テストは研究室に保管していますので、事前に連絡のうえ確認できます。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/環境 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法						
受講生へのメッセージ	日頃から、子どもの回りの環境に関心を持つように心がけましょう。						

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の言葉	担当者	川勝泰介	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20104	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:幼児の言葉の意義・役割とその育み方を学ぶ</p> <p>到達目標①:人間にとっての言葉の持つ意義・役割を理解する。</p> <p>到達目標②:幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚や想像力を豊かにするための実践方法を学ぶ。</p> <p>到達目標③:言葉を育て想像する楽しさを育む方法を学ぶ。</p>								
授業概要	人間にとっての言葉の持つ意義・役割とその獲得過程を理解することを通して、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚や想像力を豊かにするための児童文化財の活用について、実践を通して修得する。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション — 授業概要と学習の仕方及び評価方法について					事前:シラバスを読み、学習内容の概要を知る。(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1.5h)			
2回	人間にとって言葉とはなにか — 言葉の役割とその機能について考える (グループ討議)					事前:テキスト①の9~15頁を読んでおく。(1h) 事後:授業で学んだこととグループ討議の内容をまとめる。 (1.5h)			
3回	言葉の教育と人間形成 — 生活経験とイメージ形成					事前:テキスト①の16~17頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
4回	乳幼児の言葉の獲得と発達過程 — 言葉の発達条件と言葉の発達の ようす					事前:テキスト①の20~23頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
5回	話し言葉と書き言葉 — 文字を持つことによって何が可能になったか (グループ討議)					事前:テキスト①の18~19頁を読んでおく。(1h) 事後:授業で学んだこととグループ討議の内容をまとめる。 (1.5h)			
6回	言葉に対する豊かな感覚とは何か — イメージ形成力を高めるために 必要なものは(グループ討議)					事前:テキスト①の17頁を読み考えをまとめておく。(1h) 事後:授業で学んだこととグループ討議の内容をまとめる。 (1.5h)			
7回	言葉の美しさや楽しさを感じる — 身近な生活の中にオノマトペを探して みる(グループワーク)					事前:テキスト②の92~93頁を読んでおく。(1h) 事後:生活の中のオノマトペについてまとめる。(1.5h)			
8回	言葉の楽しさについて実践を通して学ぶ — ささまざまな絵本を声を出して 読む(演習)					事前:テキスト②の120~133頁を読んでおく。(1h) 事後:おすすめ絵本を声を出して読む練習をする。(1.5h)			
9回	言葉遊びの楽しさを実践する — いろいろな言葉遊びについて調べ実践 する(グループワーク)					事前:テキスト②102頁の本を図書館で探してみる。(1h) 事後:授業で取り上げた以外の言葉遊びを調べる。(1.5h)			
10回	言葉と表現力を高める「児童文化財」とは何か — 児童文化財の役割に ついて考える					事前:テキスト②の10~30頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
11回	想像する楽しさを広げる児童文化財について① — 絵本と読みきかせに ついて学ぶ					事前:テキスト②の128~142頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
12回	想像する楽しさを広げる児童文化財について② — おはなし(素話)を実 践する					事前:テキスト②の106~117頁を読んでおく。(1h) 事後:テキスト②の117頁にあるお話から一つ選び素話の練習をする。 (1.5h)			
13回	想像する楽しさを広げる児童文化財について③ — 絵本と紙芝居の違い を学ぶ					事前:テキスト②の144~154頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			

14回	想像する楽しさを広げる児童文化財の活用と実践① — 絵本の読みきかせと紙芝居の実践と発表	事前:図書館で発表する作品を選んでおく。(1h) 事後:実践した感想をまとめる。(1.5h)																												
15回	想像する楽しさを広げる児童文化財の活用と実践② — ペープサートの制作と実践	事前:テキスト①の 56~57 頁とテキスト②の 158~162 頁を読んでおく。(1h) 事後:制作し実践したことを振り返り感想をまとめる。(1.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	①川勝泰介著『幼児の言葉と指導法』(ユマニテク短期大学) ②川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』(萌文書林)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている <u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	20%		到達目標②	20%			10%			到達目標③			10%	10%		
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	20%																									
到達目標②	20%			10%																										
到達目標③			10%	10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出するカードに記入された質問や疑問を通して相談に乗るほか、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/言葉 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
受講生へのメッセージ	ふだんからできるだけ多くの絵本や紙芝居・お話に触れ、声を出して読むように心がけておくこと。そのため、できるだけ図書館を活用し、おすすめ絵本や紙芝居などを探しておこう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの保健	担当者	鈴木壽眞子	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS20105	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ： 到達目標①：子どもの身体の発育・生理機能について説明できるようになる 到達目標②：子どもの健康状態とその把握方法を知り、実践に活かすことができる 到達目標③：子どもの疾病とその予防方法や適切な対応について説明できる</p>								
授業概要	<p>保育士として子どもの命を守る立場であることを一人ひとりが自覚できるよう、保育現場での事例も伝えながら子どもの健康・成長発達についての学べるようにしていきたい。また、保育士として、自分自身の健康に対する意識も高められるように伝えていきたい。受胎と胎生期から乳幼児期までの成長発達や生理機能の発達について理解し、子どもの心身の健康に関心を持つ。子どもの疾病や予防についての知識を身につけ、日常生活（園生活）において適切な対応ができるようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 授業計画等について 絵本をとおして「人の成長発達」に関心を持つ					事前：資料を読む(0.5h) 事後：授業の進め方などについて確認する(0.5h)			
2回	生命の保持と状況の安定に係る保健活動の意義と目的 保健活動に関わる歴史的な流れ					事前：テキストP.1～P.6までを読む(0.5h) 事後：テキストP.8の振り返り問題を解く(0.5h)			
3回	健康の概念と健康指標 子どもの出生と母子保健の意義					事前：テキストP.14～P.18を読む(0.5h) 事後：テキストP.19no 振り返り問題を解く(0.5h)			
4回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 統計やグラフからの理解					事前：子どもの体力・運動の変化について調べる(1h) 事後：テキストP.27no 振り返り問題を解く(0.5h)			
5回	地域における保健活動と児童虐待防止 虐待の実態から虐待防止への取り組み					事前：テキストP.52～P.55を読む(0.5h) 事後：資料を読み返し、振り返りをする(0.5h)			
6回	家庭・専門機関・地域との連携 虐待に関わる地域の関係機関					事前：地域の関係機関について調べる(0.5h) 事後：資料を読み返し振り返りをする(0.5h)			
7回	母子保健対策と保育 保健対策の動向から					事前：資料を読む(0.5h) 事後：資料や記録を通して振り返る(0.5h)			
8回	身体発育と保健 身体発育の経過・評価、運動機能の発達 小テスト					事前：テキストのP28～P.40を読む(1h) 事後：身体発育と発達の評価についてまとめる			
9回	健康状態の観察、体調不良時の早期発見 日常の健康状態と体調不良時の把握					事前：テキストP60～P.63を読む(0.5h) 事後：テキストP64の振り返り問題を解く(0.5h)			
10回	発育発達の把握と健康診断 身体発育と発達 健康診断の記録と管理					事前：テキストP129～P.136を読む(0.5h) 事後：テキストP.138の振り返り問題(0.5h)			
11回	保護者との情報共有 職員間の連携と取り組み					事前：保育所保育指針第五章を読む(0.5h) 事後：資料を読み、振り返る(0.5h)			
12回	主な疾病の特徴 ① 感染症の主な特徴					事前：テキストP.66～P.67を読む(0.5h) 事後：テキストと資料を読み振り返る(0.5h)			
13回	主な疾病の特徴 ② 主なウイルス感染症と細菌性感染症について					事前：感染症について調べる(0.5h) 事後：テキスト及び資料を読み振り返りをする。(0.5)			

14回	子どもの疾病の予防と適切な対応 ① 学校感染症と予防接種	小テスト	事前:テキストを読む(0.5h) 事後:テキスト及び資料を読み振り返りをする(0.5h)				
15回	子どもの疾病の予防と適切な対応 ② アレルギー疾患について		事前:アレルギーについて調べる(0.5h) 事後:テキストP.105 振り返りの問題を解く(0.5h)				
16回			事前: 事後:				
テキスト	こどもの保健 (診断と治療社)小林美由紀 森脇浩一						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①		40%	10%			
	到達目標②		20%	10%			
	到達目標③		10%			10%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:小テストやレポートは授業の中で返却します。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の対象の理解に関する科目/子どもの保健						
受講生へのメッセージ	一人ひとりの子どもの健全な発育・発達を願って、共に学んでいきましょう。						

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児保育	担当者	伊藤喬治	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件		ナンバリング	CS20106	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:障がい児保育についての概観を理解し、実践的能力の基礎を身につける。</p> <p>到達目標①:障がい児保育の歴史的変遷及び社会背景、現状について説明できる。</p> <p>到達目標②:障がいのある子どもたちの障がい特性に関して説明できる。</p> <p>到達目標③:障がいのある子どもたちと共に育ちあう保育についての実践的能力の基礎を身につける</p>								
授業概要	<p>障がい児保育の歴史的変遷や社会的背景を学び、障がい児保育の現状について正しい理解をする。特にインクルーシブ保育の概念や合理的配慮を理解し、今後求められる障がい児保育に関する実践的能力を熟成する。同時に障がい児や保護者との信頼関係を築き、保育園内外において障がい児保育を実践する能力を身に付ける。授業については「障がいとは何か」などの基本的な知識を得ることから始め、障がい児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育との関連性を図りながら学び取るとともに「障がい児保育観」の確立を目指して授業を進める。いくつかの障がい児保育の事例に触れ、共に考え、より実践的に学ぶようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			
1回	授業概要と授業のすすめ方				事前:保育所保育指針総則を読み込む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
2回	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷(第8章)				事前:教科書第8章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
3回	障がいのある人のライフステージを見通す(第1章、第2章)				事前:教科書第1章、第2章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
4回	障がい児保育の基本と保育者のかかわり(第3章)肢体不自由、視覚・聴覚障害等の理解と援助				事前:教科書第3章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
5回	障がいの理解と支援① 発達障がい				事前:教科書第4章第1節を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
6回	障がいの理解と支援② 知的障害				事前:教科書第4章第2節を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
7回	障がいの理解と支援③ 肢体不自由				事前:教科書第4章第3節を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
8回	障がいの理解と支援④ 言語障害・聴覚障害				事前:教科書第4章第4節、第5節を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
9回	障がいの理解と支援⑤ 重複障がい				事前:教科書第4章第7節を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
10回	子ども同士のかかわりと育ちあい				事前:教科書第5章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
11回	個別の支援計画の作成と記録・評価				事前:教科書第6章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
12回	職員間の協働と保育の専門性				事前:教科書第7章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				
13回	親の障害受容と支援のあり方				事前:教科書第7章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)				

14回	小学校や地域、専門機関との連携	事前:教科書第7章を読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)																												
15回	福祉・教育における現状と課題・まとめ	事前:読む(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	小林徹・栗山宣夫編『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい、2020年。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】『よくわかる障害児保育 第2版』尾崎康子ほか編 ミネルヴァ書房(2018) 『発達が気になる子へのかかわり方&基礎知識』グループこんぺいと編著 黎明書房(2008) 『気になる子の保育 Q&A』田中康雄著 Gakken(2008)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・課題は質・量により評価する。取り組み姿勢は、授業への参加度をもとに評価する。 ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			25%		10%		到達目標②			25%		10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			25%		10%																									
到達目標②			25%		10%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出された課題及び評価は研究室に保管しているので、事前に連絡のうえ内容を確認することができる。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/障害児保育																													
受講生へのメッセージ	授業では私語、携帯電話等の操作をしないこと。 積極的な学修を求める。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の人間関係	担当者	平松喜代江	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20201	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	テーマ:乳幼児の人間関係の育ちと保育者としての役割の理解 到達目標①:乳幼児期の人間関係の発達に関する知識と現代的課題を理解している 到達目標②:保育者としての子どもに対する共感の姿勢を理解している 到達目標③:幼児期の仲間関係を支える保育者としての援助								
授業概要	愛着の形成から仲間関係まで、乳幼児期の人間関係の育ちに関する基礎的な知識を学修する。また、保育者の資質として求められる共感性について、事例や省察によって考察し、理解を深める。これらの理解をもとにして、幼児期の仲間関係や集団遊びを支える保育者の役割や地域子育て支援との関連について学ぶ。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	保育における人間関係とは				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
2回	乳児期の人間関係				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
3回	1歳以上3歳未満児の人間関係				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
4回	3歳以上児の人間関係				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
5回	子どもの人間関係と社会性・道徳性				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
6回	自己覚知(価値観の違い)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
7回	他者理解①(共感の体験)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
8回	他者理解②(グループコンセンサス)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
9回	他者理解と社会性				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
10回	意思疎通(相手理解)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
11回	コミュニケーションの役割				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
12回	家庭や地域との連携① 保護者と保育者の人間関係				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
13回	家庭や地域との連携② 地域との連携				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				
14回	保育者が紡ぐ人間関係 保育者自身の人間関係				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)				

15回	学修のまとめ	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートをまとめる。(1h)																												
16回	試験	事前:テキストと配布レジュメ、ノートを読み返し復習する(1h) 事後:試験の振り返りを行う。(1h)																												
テキスト	菊池篤子著「ワークで学ぶ、保育内容「人間関係」」みらい																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れている</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%		10%		到達目標②	10%		10%		10%		到達目標③	10%		10%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%		10%																									
到達目標②	10%		10%		10%																									
到達目標③	10%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/人間関係</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法</p>																													
受講生へのメッセージ	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	特別支援教育論	担当者	安田誠人	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20202	資格等取得との関連	幼稚園：必修・ 保育士：必修・准学校心理士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：特別の支援を要する子ども（幼児・児童）についての指導のあり方や支援の実際について理解する。</p> <p>到達目標①：特別の支援を要する子どもに合った対応に必要な基礎的知識・技術を修得し、保育現場で実践できる。</p> <p>到達目標②：特別支援の具体的な支援方法や教育課程のあり方について基礎的な知識や技術を理解し、保育現場で実践できる。</p> <p>到達目標③：特別支援教育体制のしくみや各種機関等の連携のあり方について理解し、保育現場で実践できる。</p>								
授業概要	<p>特別支援教育の歴史の変遷や特別支援教育の理念、「特別なニーズ教育」をめぐる動向、特別支援教育の制度と教育内容に関して基礎的な理解を得ることをめざす。さらに、特別の支援を要する子どもについて具体例を挙げて、個別の支援のあり方や指導計画の作成について理論と実際の両面から学んでいく。</p>								
ディプロマポリシー（DP）と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得し、実践できる。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション・特別支援教育の理念と意義					事前：シラバスを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h) (0.5h)			
2回	インクルーシブ教育とは					事前：事前にテキストを熟読する。 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
3回	特別支援を要する子どもの特性と理解①(知的障害)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
4回	特別支援を要する子どもの特性と理解②(発達障害：自閉スペクトラム)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
5回	特別支援を要する子どもの特性と理解③(発達障害：AD/HD)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
6回	特別支援を要する子どもの特性と理解④(発達障害：SLD)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
7回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑤(視覚障害、聴覚障害)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
8回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑥(肢体不自由、病弱他)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
9回	特別支援を要する子どもへの支援方法①(発達障害)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			
10回	特別支援を要する子どもへの支援方法②(知的障害)					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)			

11回	特別支援を要する子どもへの支援と教育課程とのかかわり	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)																												
12回	特別支援を要する子どもへの支援計画の意義と作成	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)																												
13回	関連機関・家庭・地域との連携と支援体制の構築	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)																												
14回	教育的ニーズを必要とする子どもの理解と支援方法①(生活困難児)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)																												
15回	教育的ニーズを必要とする子どもの理解と支援方法②(外国籍児)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考にしながら、ノートにまとめる。(1h)																												
16回	定期試験	事前:事前にそれまで学習した内容について、テキスト、ノート、配布資料等を熟読する。(1.5h)																												
テキスト	杉本敏夫監修『障害児の保育・福祉と特別支援教育』ミネルヴァ書房、2019 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 井村 圭壯・今井 慶宗編著『障がい児保育の基本と課題』学文社、2016 小川 圭子・矢野 正 編著『実践にいかす 特別支援教育・障がい児保育の理論と支援』嵯峨野書院、2020																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%	10%			到達目標②	20%		10%	10%			到達目標③	10%		10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%	10%																										
到達目標②	20%		10%	10%																										
到達目標③	10%		10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室や非常勤講師室で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:期末試験は本務校研究室に保管しているので、事前に連絡をしてもらえれば内容を確認することができるように対応する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解保育士:保育の内容・方法に関する科目/障害児保育																													
受講生へのメッセージ	幼稚園、保育所、児童福祉施設等の保育現場では、必ず特別な支援を必要としている子どもと出会います。そうした子どもに対する実践での支援方法をぜひ学んでほしいと思っています。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの理解と発達	担当者	小島佳子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリ ング	CS20203	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：子どもの理解に基づく発達援助の知識や技術を学ぶ</p> <p>到達目標①：子ども理解についての知識を身につけ、保育者としての考え方や基礎的態度を身につけることができる</p> <p>到達目標②：子どもを理解するための具体的な方法について学び、実際の子どもとの関わり場面において活用することができる</p> <p>到達目標③：子ども一人一人の生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学びを理解し、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる</p>								
授業概要	<p>公立保育所において0歳児から就学前までの子どもたちや保護者と関わった経験を生かし、具体的な子どもの姿や子ども・保護者との関わり方について実践事例を通して考える機会を提供する。また、保育現場で活用されている教材や遊びを紹介する。</p> <p>子どもの理解とは、子どもの内面を理解することであり、保育・教育のあらゆる営みの基本である。子ども理解の意義と重要性を学び、保育・教育実践と結びつけて考察する。また、子どもの発達過程で生じる葛藤やつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。事例検討やグループワーク等を通して、意見交換をしながら理解を深めていく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション(授業の進め方、遊びや教材の研究等について) 「子ども理解」の意義について考える				事前：事前にシラバスに目を通し、内容を把握する(0.5H) 事後：テキストを熟読し、復習する(1H)				
2回	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 ・遊びの研究① (0・1歳児と楽しみたい「ふれ合い遊び」)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：「ふれ合い遊び」を楽しみ、実践できるようにする(1H)				
3回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり ・遊びの研究② (2・3歳児と楽しみたい「手遊び」)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：「手遊び」を楽しみ、実践できるようにする(1H)				
4回	子どもの生活や遊びを通じた学びの過程と発達の視点 ・遊びの研究③ (4・5歳児と楽しみたい「ことば遊び」)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：「ことば遊び」を楽しみ、実践できるようにする(1H)				
5回	環境としての保育者と子どもの発達 ・遊びの研究④ (つながる楽しさ・喜びを体験する遊び)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
6回	子ども相互の関わりと関係づくり ・教材研究① (子育て支援の視点から絵本を考える)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
7回	子どもの集団における経験と育ち(葛藤やつまずき、自己発揮、対話) ・教材研究② (肉声を通して届ける絵本の魅力)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
8回	子どもを取り巻く環境の理解と構成 ・グループワーク(0・1歳児と読みたい絵本)				事前：テキストを読んでおく。絵本を選書し、練習する(1H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
9回	「子ども理解」のための観察と記録・深めるための分析と考察 ・グループワーク(2・3歳児と読みたい絵本)				事前：テキストを読んでおく。絵本を選書し、練習する(1H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
10回	職員間の対話・園内の協力体制(保育カンファレンス) ・グループワーク(4・5歳児と読みたい絵本)				事前：テキストを読んでおく。絵本を選書し、練習する(1H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				
11回	保護者との情報共有、家庭との連携 ・「連絡ノート」の活用について考え、作成する				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：「連絡ノート」を作成し、提出する(1H)				
12回	発達の課題に応じた援助や関わり(個と集団の両義性の視点から) ・教材研究③ (エプロンシアター)				事前：事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後：授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)				

13回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (インクルーシブ保育・教育の視点から) ・教材研究④ (パネルシアター)	事前:事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後:授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)																												
14回	発達の連続性と就学への支援 (保・幼・小の接続と連携)	事前:事前にテキストを熟読する(0.5H) 事後:授業内容を振り返り、ワークシートにまとめる(1H)																												
15回	学習した内容の振り返りとまとめ ・小テストを通して、授業内容の理解度を確認する	事前:小テストに取り組めるよう学習内容を復習する(1H) 事後:小テスト振り返り、自己評価をする(1H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	請川滋大 著書『子どもの理解—個と集団の育ちを支える理論と方法』 萌文書林 (2020) 文部科学省編『幼稚園教育要領』(2017) 厚生労働省編『保育所保育指針』(2017) 内閣府、文部科学省、厚生労働省編『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(2017)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・小テスト、ワークシート等については、記述内容の質・量ともに評価する ・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を評価する ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		30%	10%				到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③		20%	10%				
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		30%	10%																											
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③		20%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付けます 学習成果のフィードバック: 小テストやワークシート等は授業の中で後日返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/幼児理解の理論及び方法保育士:保育の対象の理解に関する科目/子どもの理解と援助																													
受講生へのメッセージ	予習・復習にテキストを十分活用してください。 遊びや教材研究、絵本の読み聞かせのワークにおいては、子どもの側に立って楽しさや心地よさを体験してください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭支援の心理学	担当者	八木朋子	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS20204	資格等取得との関連	保育士:必修・准学校心理士:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:子どもの心身の発達と保育実践について学ぶ。</p> <p>到達目標①:生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明できる。</p> <p>到達目標②:保育実践にかかわる心理学の知識を説明できる。</p> <p>到達目標③:子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解し課題解決について考えることができる。</p>								
授業概要	<p>実践の場に於いて、子ども理解が深められるように、発達心理学および臨床心理学の知見を踏まえて生涯発達の観点から乳幼児期以降の発達課題を学ぶ。そして、子どもの心身の発達と、それを支える家庭、地域社会という環境の在り方について学ぶことを通し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点の習得を図る。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	ガイダンス(講義の目的と目標)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
2回	子どもの発達を理解することの意義				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
3回	保育実践の評価と心理学				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
4回	子どもの発達の理解①(発達と環境)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
5回	子どもの発達の理解②(身体・運動機能の発達)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
6回	子どもの発達の理解③(知覚と認知の発達)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
7回	子どもの発達の理解④(感情の発達)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
8回	子どもの発達の理解⑤(言語の発達)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
9回	子どもの発達の理解⑥(社会性の発達)				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				
10回	生涯発達と発達援助				事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)				

11回	生涯発達理解と事例①(胎児期・新生児期)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
12回	生涯発達理解と事例②(幼児期)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
13回	生涯発達理解と事例③(児童期)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
14回	生涯発達理解と事例④(思春期・青年期)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
15回	生涯発達理解と事例⑤(成人期・老年期)	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:教科書と配布プリントを参考に、ファイルを作成する。(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	『保育の心理学[第3版]子どもたちの輝く未来のために』相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著 ナカニシヤ出版(2018)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>35%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			35%				到達目標②			35%				到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			35%																											
到達目標②			35%																											
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室で質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック:提出課題は保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭支援の心理学																													
受講生へのメッセージ	学んだことを活かすために、日ごろから様々なことに関心を持つよう心がけてください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの健康と安全	担当者	山野栄子	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS20205	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：保健的な視点から子どもの健康と安全を守るための知識や技術を修得する</p> <p>到達目標①：保健的な視点から、子どもの健康・安全や保育の環境について考え配慮できる</p> <p>到達目標②：衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理災害対策など知識が身につく</p> <p>到達目標③：応急処置や救急処置・蘇生法を具体的に身につけ実践できるようになる</p>								
授業概要	<p>三重県内公立保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳幼児の疾病予防や安全管理、地域や家庭との連携など、保健的な視点から、知識を学び、理解を深めて実践できるようにする科目である。</p> <p>保育の現場で、子どもの命を守り、健康増進や事故防止のために、どのような関わりや配慮が必要かなど、具体的な場面や事例を取り入れて、基礎的な知識・技術を自分のものとして実践できるように習得する</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	授業の進め方 子どもの健康と安全を学ぶ意義					事前：シラバスと保育所保育指針第3章「健康と安全」を読む(0,5h) 事後：授業内容について、確認する(1h)			
2回	保育者の健康管理と衛生管理(基本的な生活習慣、手洗いなど)					事前：自身の健康管理・基本的な生活習慣について考える(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、自身の基本的な生活習慣を見直す(1h)			
3回	子どもの健康支援(健康状態の評価・身体測定、発育の評価)					事前：自分の母子手帳を確認して、見ておく(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
4回	保育の環境および衛生管理(感染症の予防と対応) 保育における保健的対応					事前：保育室内外の環境や子どものかかりやすい感染症について、調べる(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
5回	事故防止および安全対策(子どもの特性と事故の現状)					事前：子どもの発達の特徴から、起きやすい事故について調べる(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
6回	事故防止および安全対策(事故予防と対応)					事前：前回の授業内容から、事故予防と対応について考える(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
7回	子どもの体調不良等に対する適切な対応と応急手当					事前：教科書 P71~P105 の応急手当および救急蘇生法を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
8回	救命手当(救急蘇生法・AEDの使用法)					事前：前回の内容を復習し、分からないところを確認する(0,5h) 事後：救急蘇生法を確認し、繰り返し練習し習得する(1h)			
9回	特別な配慮が必要な子どもへの対応(慢性疾患やアレルギー疾患・障害を持つ子ども) エピペンの使用法					事前：他の授業での学びから、配慮に必要な子どもの対応について考える(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、エピペンの使用法を復習する(1h)			
10回	災害への備えと危機管理					事前：どのような災害が発生しているか調べてみる(0,5h) 事後：災害の対策について、学びをまとめる(1h)			

11回	災害時の対応(火災・風水害・地震・不審者など)	事前:保育の現場で想定される様々な災害場面について考える(0,5h) 事後:危機管理についてまとめる(1h)																												
12回	健康および安全管理の実施体制(職員間の連携・協働、地域の関係機関との連携)	事前:職員の役割について考え、地域の関係機関について調べる(0.5h) 事後:授業内容をまとめ、確認する(1h)																												
13回	事件事例の検討	事前:身近に起きた事故について調べる(0,5h) 事後:事故対応の基本についてまとめる(1h)																												
14回	保健活動計画と記録	事前:季節や月間の健康指導計画について調べる(0,5h) 事後:健康指導計画を作成する(1h)																												
15回	子どもの健康と安全のまとめ	事前:今までの授業を振り返り、確認する(1h) 事後:今までの学びをまとめる(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	編著 高内正子・梶 美保 保育の場で生きる「子どもの健康と安全」(株式会社 建帛社)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定こども園教育・保育要領																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>小テストでは、演習内容の習熟度で評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守した上で、記述内容の質・量ともに丁寧さも評価する 発表では、自分で調べたことや意見を積極的に発表する姿勢を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時に真面目で且つ意欲的な取り組みを評価する。また、心肺蘇生法の習得も評価する ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②		10%	10%	10%	10%		到達目標③			10%		20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②		10%	10%	10%	10%																									
到達目標③			10%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:火曜日(12:40~13:00) 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/子どもの健康と安全																													
受講生へのメッセージ	保育の仕事をしていくうえで、まず、自らの生活態度や健康管理を行い、心身ともに健康に過ごすことができるように日々心がけることが重要です。また、日頃から子どもに関するニュース(事件や事故)に注意して関心を持ちましょう																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの食と栄養	担当者	前澤いすず	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS20206	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：保育者は子どもの健康にとって望ましい食生活と支援を常に考え的確に捉えて実践する</p> <p>到達目標①：五大栄養素・食品・料理(主食・主菜・副菜)の関係が説明できる</p> <p>到達目標②：子どもの発達と栄養摂取法・食生活の関係を説明できる</p> <p>到達目標③：調乳方法及び離乳食の適切な味・形態・量を理解し、実践できる</p> <p>到達目標④：子どもを取り巻く食の現状と課題から、食育の必要性、その内容を理解し、実践できる</p> <p>到達目標⑤：特別な配慮が必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる</p>								
授業概要	<p>健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。家庭や児童福祉施設での子どもの食生活の現状と問題点を解説し、望ましい食生活のための食育の意義・目的・基本的考え方を学ぶ。さらに調理を通じた食育について、実際に調理実習を行い、実践的な指導方法を習得する。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、関連するガイドラインやデータを踏まえて解説を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することが出来る。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	子どもの心身の健康と食生活					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
2回	子どもの食生活の現状と課題					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
3回	栄養の基本的概念					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
4回	栄養素の種類と機能					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
5回	食事摂取基準・食事バランスガイド					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
6回	献立作成・調理の基本					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
7回	授乳期の食生活と母乳分泌					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
8回	乳汁期の食生活の特徴					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
9回	離乳期の食生活と栄養の特徴					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
10回	離乳食の進め方の目安					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
11回	離乳期の食物と調理上の注意					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
12回	演習「育児用ミルクとベビーフードの試食」					事前：ベビーフードについて調べておく(1h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			
13回	幼児期の食生活と栄養の特徴					事前：事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後：配布プリントに取り組む(1h)			

14回	幼児期の食生活の問題点	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
15回	演習「幼児期の間食を考える」	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
16回	学童期、思春期の食生活と栄養	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
17回	食育の基本と内容	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
18回	食育の内容と計画および評価	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
19回	食生活指導および食を通じた保護者への支援	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
20回	演習「保護者に向けての便りの作成」	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
21回	家庭における食事と栄養	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
22回	児童福祉施設における食事と栄養 保育所	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
23回	児童福祉施設における食事と栄養 保育所以外の児童福祉施設	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
24回	疾病および体調不良の子どもへの対応	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
25回	食物アレルギーのある子どもへの対応	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
26回	障がいのある子どもへの対応	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
27回	緊急時・災害時への対応	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
28回	食育 調理実習① 幼児食 子どもも参加できる料理の調理と試食	事前:調理実習内容(手順、役割分担)を確認しておく(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
29回	食育 調理実習② 幼児食 子どもも参加できる間食の調理と試食	事前:調理実習内容(手順、役割分担)を確認しておく(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
30回	まとめ 保育者に求められることを「子ども」「食」から考える	事前:事前にテキストを熟読する。(0.5h) 事後:配布プリントに取り組む(1h)					
31週							
テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』菅原園 他、学建書院(2020)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・授業内で紹介する						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①		10%			6%	
	到達目標②		10%	5%		6%	
	到達目標③		10%	5%		6%	
	到達目標④		10%	10%		6%	
	到達目標⑤		10%			6%	
	・授業内を行う口頭試問への参加姿勢を高く評価する ・課題・提出物等の期日・提出は厳守とし、記述内容の質・量ともに評価する						

	<p>ループリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>
<p>学習相談・ 学習成果の フィードバック</p>	<p>学習相談: 「授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける」 学習成果のフィードバック: 「課題や試験の返却方法は授業の中で指示します」</p>
<p>法令等に定め られた授業科 目に含める必 要事項</p>	<p>保育士:保育の対象の理解に関する科目/子どもの食と栄養</p>
<p>受講生へのメ ッセージ</p>	<p>「子どもの食と栄養」を学ぶこの機会に、自分自身の食生活についても再確認してみましょう。そして、授業を通して食べることの楽しさ、栄養バランスの大切さを知り、子どもたちにとって望ましい食生活を伝えることができる保育者になってくれることを期待しています。</p>

科目区分	専門教育科目	科目名	子ども家庭支援論	担当者	安藤和彦	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS20207	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:子ども家庭支援について、全容を説明できる</p> <p>到達目標①:子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる</p> <p>到達目標②:保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、説明できる</p> <p>到達目標③:子育て家庭に対する支援の体制と子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、説明できる</p>								
授業概要	<p>急速な少子化が進行し又、結婚・出産・子育ての希望がかなえられない現状にありさらに、子ども・子育てを取り巻く環境も大きく変化してきているが、子ども・子育て支援が質・量共にまだまだ不足している。そこで家庭支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制と多様な支援の展開と関係機関との連携について解説する</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	子ども家庭支援の意義と必要性					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
2回	子ども家庭支援の目的と機能					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
3回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
4回	保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
5回	家庭の状況に応じた支援					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
6回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
7回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
8回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
9回	子どもの育ちの喜びの共有					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
10回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
11回	子ども家庭支援の内容と対象					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			
13回	地域の家庭への支援					事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)			

14回	要保護児童等及びその家庭に対する支援	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
15回	子ども家庭支援に関する状況と課題	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業の資料ノートをまとめる(1.0h)																												
16回	試験																													
テキスト	「子ども家庭支援論」編集委員会編 『子ども家庭支援論』みらい 2019																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で随時紹介する																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%						到達目標②	40%						到達目標③	20%					
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	40%																													
到達目標②	40%																													
到達目標③	20%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了後、教室もしくは研究室で、質問を受け付ける</p> <p>学習成果のフィードバック:期末試験は、研究室で保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭支援論																													
受講生へのメッセージ	学ぶ姿勢を大切にしてください																													

科目区分	専門教育科目	科目名	乳児保育 I	担当者	山野栄子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリ ング	CS20208	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：人間の人格形成の基礎を培う大切な乳児期の保育について理解し、知識と技能を習得する</p> <p>到達目標①：乳児保育の意義や目的を知り、現代社会における乳児保育の役割と機能について分かるようになる</p> <p>到達目標②：乳児期の心身の発達について知識を深め、発達の特性を説明できる</p> <p>到達目標③：乳児保育における連携・協働（保護者・職員間・地域や他機関）の重要性について分かるようになる</p>								
授業概要	<p>三重県内公立保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録のとり方など、乳児の保育について理解を深める科目である。</p> <p>乳児保育の歴史的返還及び現代社会における現状や重要性を学ぶ。そして乳児期は、人間の人格形成を培う大切な時期であることを理解し、乳児の発達や特性について知識を習得し、その時期の子どもの生活や遊びの内容に興味や関心を持って基礎理論を学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			
1回	授業の進め方・評価の仕方等 視聴覚教材「赤ちゃんのこのすばらしき生命」				事前：シラバスを読む。自身の乳児期の話を親から聞いておく(0,5h) 事後：乳児保育の重要性「生命の誕生」についてまとめる(1h)				
2回	乳児保育の目的・役割				事前：教科書「乳児保育の目的と役割」と保育所保育指針の総則を読む(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(1h)				
3回	乳児保育の基本(歴史や制度、現状と課題)				事前：教科書「乳児保育の基本」を読む。また現代のニーズや課題を調べる(0,5h) 事後：現代社会の現状と課題をまとめる(1h)				
4回	0・1・2歳児の発達の道筋(全身・手指)				事前：教科書「0,1,2歳児の発達」を読み調べる(1h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(0.5h)				
5回	0・1・2歳児の発達の道筋(言葉・社会性)				事前：教科書「0,1,2歳児の発達」を読み調べる(1h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(0.5h)				
6回	乳児(0歳児)の保育内容				事前：教科書「乳児(0歳児)の保育内容」(P36~P47)と保育所保育指針の第2章保育の内容の1を読む(0,5h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(1h)				
7回	1歳以上~3歳未満児の保育内容				事前：教科書「1歳以上3歳未満児の保育内容」(P48~P63)と保育所保育指針の第2章保育の内容の2を読む(0,5h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(1h)				
8回	乳児(0歳児)・1歳以上~3歳未満児の発達の道筋のまとめ 乳児の生活と遊びの基本的事項				事前：今までの復習をし、発達の筋道を確認する。また教科書「乳児の生活と遊びの基本的事項」(P64~P81)を読む(1h) 事後：習得度合いの確認をし、整理する。基本的事項をまとめる(0.5h)				
9回	乳児の生活と保育者の関わり				事前：教科書「乳児の生活の基本」(P82~P101)を読む(0,5h) 事後：授業内容を振り返り、まとめる(1h)				

10回	乳児の遊びと保育者の関わり	事前:教科書「乳児の遊び」(PI02~PI15)を読み、発達に即した遊びを調べる(1h) 事後:授業内容を振り返り、遊びをまとめる(0.5h)					
11回	乳児保育の環境構成 乳児保育の健康と安全対策	事前:教科書「乳児保育の環境構成」(PI16~PI23)を読む。また安全対策についても調べる(1h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる。特に安全対策については再確認しておく(0.5h)					
12回	乳児保育の計画・評価	事前:教科書「乳児保育における全体的な計画」(PI24~PI33)を読む(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(1h)					
13回	子育て支援・連携と協働(保護者・職員同士・地域・関係機関)	事前:教科書「乳児保育における子育て支援」(PI34~PI43)を読み、地域の関係機関を調べる(1h) 事後:授業内容を振り返り、まとめる(0.5h)					
14回	乳児の発達・保育内容(生活や遊び)の振り返りとまとめ	事前:乳児保育での学びを振り返り確認する(1h) 事後:学びの振り返りと確認をし、まとめる(0.5h)					
15回	乳児保育についての習得内容を確認 手作り玩具制作	事前:授業の感想やまとめを整理する。また手作り玩具の材料を準備する(0.5h) 事後:手作り玩具を完成させ、作り方や遊び方をまとめる(1h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	小山朝子 編著 亀崎美沙子 善本真弓「講義で学ぶ乳児保育」(わかば社)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①		10%	10%			
	到達目標②		30%	10%	10%	10%	
	到達目標③		10%	10%			
	小テストでは、記述内容の質、量ともに評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守したうえで、記述内容の質、量、文字の丁寧さを評価する 発表では、みんなが理解できるように分かりやすく発表する内容や態度、積極性を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時の積極性を評価する。またグループワークでの協調性も評価する ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:火曜日(12:30~13:00) 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します 小テストは、研究室に保管しています。事前に連絡の上、内容の確認をすることができます						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育 I						
受講生へのメッセージ	身近で乳児に触れたり、親子の様子を観察したりして、興味や関心を持ちましょう 授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行った時の参考になるように丁寧に保管しましょう						

科目区分	専門教育科目	科目名	乳児保育Ⅱ	担当者	山野栄子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS20209	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：乳児期の保育について、実践的な知識と技能を身につける</p> <p>到達目標①：乳児の生活の援助と保育者の関わりの仕方が分かり、実践できるようになる</p> <p>到達目標②：各々の発達に応じた保育内容や環境構成を具体的に企画できる</p> <p>到達目標③：指導計画立案と評価、記録のとり方を学び、実践できるようになる</p>								
授業概要	<p>三重県内公立保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録のとり方など、乳児の保育について理解を深める科目である。</p> <p>一人一人の子どもの主体性や育ちを大切に、保育の内容や環境を具体的に学び、個別の指導計画や記録のとり方・保育者間の連携、保護者・子育て支援のあり方など事例を交えて、保育者としての実践的能力と資質が身につくようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	授業の進め方、評価の仕方「乳児保育Ⅰ」の振り返り 乳児の手作り玩具発表					事前：シラバスを読む。手作り玩具を完成する(0,5h) 事後：シラバスを読む。手作り玩具について整理する(0,5h)			
2回	乳児保育の重要性(養護と教育の一体性、主体性の尊重、個別の関わりなど)					事前：保育所保育指針第1章総則の2「養護に関する基本的事項」を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめる(1h)			
3回	食事の援助と環境					事前：教科書 P36～P49 を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
4回	排泄と着脱の援助と環境					事前：教科書 P50～P59・P68～P79 を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
5回	睡眠・休息の援助と環境					事前：教科書 P60～P67 を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
6回	清潔に関する援助と環境					事前：教科書 P80～P89 を読む(0,5h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(1h)			
7回	0歳児の保育内容・あそびと保育者の援助					事前：教科書 P98～P105 を読み調べる(1h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)			
8回	1歳児保育内容・あそびと保育者の援助					事前：教科書 P106～P119 を読み調べる(1h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)			
9回	2歳児保育内容・あそびと保育者の援助					事前：教科書 P106～P119 を読み調べる(1h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)			
10回	他の人と意見交換後、学びの発表					事前：発表に向けて調べ準備する(1h) 事後：他の人の意見や発表を取り入れ、まとめる(0.5h)			
11回	乳児保育の健康管理と安全管理					事前：教科書 P90～P97 を読み調べる(1h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)			
12回	保育課程と指導計画・計画の評価と反省					事前：保育所保育指針第1章総則の3「保育の計画及び評価」と教科書 P120～P129 を読み調べる(1h) 事後：授業内容をまとめ、確認する(0.5h)			

13回	保育の記録、家庭との連絡(連絡ノート)、保育日誌	事前:教科書 P128~P129 を読む(0,5h) 事後:授業内容をまとめ、確認する(0.5h)																												
14回	振り返りとまとめ	事前:今までの授業内容を振り返り、確認する(1h) 事後:学びの振り返りと確認をする(0.5h)																												
15回	乳児の養育環境とこれからの課題(少子化と子育て支援・虐待問題など)	事前:教科書 P130~P136 を読んで、そのうえで今、社会で話題になっていることを調べる(0.5h) 事後:学んだこと、身についたことをまとめ、確認する(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	善本眞弓 編著 小山朝子 亀崎美沙子「演習で学ぶ乳児保育」(わかば社)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針、幼保認定こども園教育・保育要領																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>小テストでは、記述内容の質・量、技術の習得度ともに評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守したうえで、記述内容の質、量、文字の丁寧さを評価する 発表では、みんなが理解できるように分かりやすく発表する内容や態度、積極性を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時の真面目で意欲的な姿勢を評価する。また人との意見交換を行い、創意工夫したり、協働する姿勢も評価する ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%			10%		到達目標②		20%	10%	10%	10%		到達目標③		10%	10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%			10%																									
到達目標②		20%	10%	10%	10%																									
到達目標③		10%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:火曜日(12:30~13:00)</p> <p>学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します 小テストは、研究室に保管しています。事前に連絡の上、内容の確認をすることができます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育Ⅱ																													
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児用の手遊びは、授業の初めに毎回紹介しますので、全部覚えるようにしましょう ・授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行った時の参考になるように丁寧に保管しましょう ・今、社会で起きている子育てに関する情報等に関心を持ちましょう 																													

科目区分	専門教育 科目	科目 名	障がい児の理解	担当者	鈴木壽眞子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム 必修	ナンバリ ング	CS20210	資格等取得との関連	保育士：選択必修・初級障がい者スポー ツ：必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：障がいのある子どもについて知識を習得し、理解を深めて保育の専門性を高める</p> <p>到達目標①：様々な障がいの特性について学び、障がいのある子どもについて理解して実践に活かすことができる。</p> <p>到達目標②：特別な支援を必要とする子どもについて学び、多様な保育の在り方に気付くことができる。</p> <p>到達目標③：特別な支援を必要とする子どもへの対応について学び、事例について自分の考えや感じたことを記録する。</p>								
授業概要	<p>障がいのある子どもの保育や療育の現場での経験から、障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもとかかわる中で大切にしたいこと、また、保護者の思いについて考える。障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもの特性について学び、子どもへの理解を深め、保育者として、その家族を含めた支援のあり方を知る。障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例、家庭に関する事例を紹介し、そこから生起する問題についての対応や支援の方法を考える。理論と事例を結び付けて考えることにより、実践で様々な課題と向き合える力を培う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 授業の概要・授業計画・評価方法などについて					事前：事前にテキストP.2～P.3を読む(0.5h) 事後：授業資料を読み返し確認する			
2回	障がいの捉え方と障がい児の保育の理念について 「障害があるとは」「障がいの捉え方の変化」					事前：資料を読む(0.5h) 事後：テキストと資料をよみ振り返りをする			
3回	障がい児保育と保育者の専門性 障がい児保育の基本と保育者の役割					事前：保育所指針第1章と幼稚園教育要領第1章を読む (0.5h) 事後：授業資料を読み振り返りをする。(0.5h)			
4回	障がいのある子どもと気になる子ども 「気になる子ども」について調べ発表する					事前：「気になる子ども」について調べる(1h) 事後：資料や記録を通して振り返りをする(0.5h)			
5回	身体障がいの特性と理解 肢体不自由、視覚・聴覚障がいについて					事前：テキストP.50～P.67までを読む(1h) 事後：テキストと資料を通して振り返りをする(0.5h)			
6回	発達障害の特性と理解① 自閉症スペクトラム障がいについて					事前：テキストP.102～P.111までを読む(0.5h) 事後：テキストと資料を通して振り返りをする(0.5h)			
7回	発達障害の特性と理解② 注意欠陥・多動性障がい、学習障がいについて					事前：テキストP.90～P.102までを読む(0.5h) 事後：資料や記録を通して振り返りをする(0.5h)			
8回	知的障がいの特性と理解 知的障がい児の特徴と支援について					事前：知的障がいについて調べる(0.5h) 事後：資料を読み返し振り返る(0.5h)			
9回	気になる子どもの理解 落ち着きのない子どもや被虐待児等の理解と支援					事前：配布した資料を読む(0.5h) 事後：記録した内容を確認し、振り返りをする。(0.5h)			
10回	特別な支援を必要とする子どもの保育① 障がいのある子どもの事例検討					事前：テキストP.170～P.175までを読む(0.5h) 事後：事例等資料を通して振り返りをする(0.5h)			
11回	特別な支援を必要とする子どもの保育② ・気になる子どもの事例検討 ・被虐待児の事例検討					事前：配布した資料を読む(0.5h) 事後：事例についての振り返りをする			
12回	子ども一人ひとりの発達をうながす生活と遊びの環境 ・生活や遊びの環境を考える					事前：テキストP.126～P.142(1h) 事後：資料を読み返し振り返りをする(0.5h)			

13回	障がいのある子ども等の保護者や家族への支援 保護者への支援事例検討 小テスト	事前:資料を読む(0.5h) 事後:資料と記録を通して振り返りをする(0.5h)																																
14回	職員間の協働 職員の研修と協力体制	事前:テキストP.158~P.168を読む(0.5h) 事後:まとめを読み返し振り返りをする(0.5h)																																
15回	障がい児の理解のまとめ 「障がい児を取りまく家族と福祉の課題」 保育所や幼稚園等における支援の事例から	事前:テキストP.223~237を読む(0.5h) 事後:授業を振り返り、考えたことをまとめる(1h)																																
16回		事前: 事後:																																
テキスト	障がい児保育…子どもとともに成長する保育者を目指して…(萌文書林)																																	
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 障害児保育ワークブック(萌文書林)																																	
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>						評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		40%					到達目標②		20%	20%				到達目標③			10%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①		40%																																
到達目標②		20%	20%																															
到達目標③			10%		10%																													
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける</p> <p>学習成果のフィードバック:小テストやレポートは授業の中で後日返却します。</p>																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																																	
受講生へのメッセージ	「障がいのある子(人)もない子(人)も、ともに歩いていけることを願って一緒に学んでいきましょう。」																																	

科目区分	専門教育科目	科目名	乳幼児の理解	担当者	小島佳子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム 必修	ナンバリング	CS20211	資格等取得との関連	保育士：選択必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：乳幼児期の子どもへの理解を深め、発達援助の知識や技術を学ぶ</p> <p>到達目標①：乳幼児期の子どもの発達について理解し、説明することができる</p> <p>到達目標②：子ども理解に基づく具体的な関わりや援助方法を学び、実践する力を身につけることができる</p> <p>到達目標③：事例を通して、子どものつまずきや課題解決に必要な視点や手立てを考えることができる</p>								
授業概要	<p>公立保育所で勤務した経験を生かして、実践事例をまじえた講義を主軸に置きながら学生一人一人が短時間の模擬保育を経験する場を設定する。体験を通して実践力を高めるとともに振り返りの中で考え合う機会を提供する。</p> <p>人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に携わる保育者は、子どもを深く理解するよう努め、適切な援助を行うことが求められる。本講義においては、乳幼児期の子どもの発達特性、環境、生活や遊び、子育て支援について理解する。特に保育・教育において子どもの内面を理解することの重要性について学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション(授業の進め方等) ・模擬保育および「えほんだより」作成についての説明する					事前：前期授業「子どもの理解と発達」の資料を読んでおく(0.5H) 事後：模擬保育のテーマや内容について考える(1H)			
2回	子どもを取り巻く社会環境の変化と現状 ・「子どもの誕生にまつわる行事」からのグループワークを行う					事前：配布資料を読み、重要な箇所を押さえておく(0.5H) 事後：グループワークで話し合った内容を整理し、まとめる(1H)			
3回	乳幼児期の発達と特性 ① ・0歳～2歳児に焦点をあて考える					事前：「保育所保育指針」第1章・2章を読んでおく(0.5H) 事後：資料を通して授業内容を振り返り、整理する(1H)			
4回	乳幼児期の発達と特性 ② ・3歳～5歳児に焦点をあて考える					事前：「幼稚園教育要領」第1章を読んでおく(0.5H) 事後：資料を通して授業内容を振り返り、整理する(1H)			
5回	生活場面における保育者の援助を考える ・事例を検討し、具体的な関わりや援助の方法を導き出す					事前：3回目授業の配布資料を復習する(0.5H) 事後：授業に関連したワークシートを記入する(1H)			
6回	遊び場面における保育者の援助を考える ・事例を検討し、具体的な関わりや援助の方法を導き出す					事前：3・4回目授業の配布資料を復習する(0.5H) 事後：授業に関連したワークシートを記入する(1H)			
7回	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の保育・教育 ・それぞれ施設の目的や役割、制度について学ぶ					事前：施設の特性や役割について調べておく(1H) 事後：授業に関連したワークシートを記入する(1H)			
8回	保護者への関わりの基本と子育て支援 ・DVD視聴後にグループワークを通して考え合う					事前：「児童虐待」の事件やニュースを調べる(1H) 事後：グループワークで話し合った内容を整理し、まとめる(0.5H)			
9回	子どもの理解と援助① 0歳～1歳児の事例から学ぶ ・模擬保育(手遊び・歌遊び等と絵本の読み聞かせ)・振り返り					事前：模擬保育の指導計画を作成する(1H) 事後：模擬保育の評価について記録し、振り返る(1H)			
10回	子どもの理解と援助② 2歳～3歳児の事例から学ぶ ・模擬保育(手遊び・歌遊び等と絵本の読み聞かせ)・振り返り					事前：模擬保育の指導計画を作成する(1H) 事後：模擬保育の評価について記録し、振り返る(1H)			
11回	子どもの理解と援助③ 4歳～5歳児の事例から学ぶ ・模擬保育(手遊び・歌遊び等と絵本の読み聞かせ)・振り返り					事前：模擬保育の指導計画を作成する(1H) 事後：模擬保育の評価について記録し、振り返る(1H)			
12回	子どもの理解と援助④ 特別な配慮を要する子どもの事例から学ぶ ・模擬保育(手遊び・歌遊び等と絵本の読み聞かせ)・振り返り					事前：模擬保育の指導計画を作成する(1H) 事後：模擬保育の評価について記録し、振り返る(1H)			

13回	子どもの理解と援助⑤ 子育て支援の視点から学ぶ ・模擬保育(手遊び・歌遊び等と絵本の読み聞かせ)・振り返り	事前:模擬保育の指導計画を作成する(1H) 事後:模擬保育の評価について記録し、振り返る(1H)																												
14回	個の育ち、集団の育ちを捉えた保育の計画と評価 ・小テストを通して授業内容の理解度を確認する ・「えほんだより」を提出する	事前:今までの授業内容を振り返り、小テストに取り組む準備をする。「えほんだより」を作成する(1H) 事後:小テストの取り組みについて自己評価をする(0.5H)																												
15回	職員連携と地域・他機関との連携 ・振り返りとまとめ	事前:配布資料を読んでおく(0.5H) 事後:学習内容を総合的に振り返り、整理し、まとめる(1H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	文部科学省編 『幼稚園教育要領』(2017) 厚生労働省編 『保育所保育指針』(2017) 内閣府 文部科学省、厚生労働省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>50%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・小テスト、ワークシート等については、記述内容の質・量ともに評価する ・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を評価する ルーブリック評価:取り入れている ・ <input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		50%					到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	5%	5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		50%																												
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	5%	5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付けます 学習成果のフィードバック: 小テストやワークシート等は授業の中で後日返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	講義で学ぶとともに模擬保育を体験することによって実践力を高めましょう。模擬保育では、振り返り、省察することが大きな学びです。失敗を恐れずに積極的に取り組むことを望みます。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育内容総論	担当者	伊藤喬治	開講時期	1年前期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30101	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：保育内容に対する総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標①：幼稚園教育要領における保育内容の「領域」別の「ねらい」や「内容」について理解する。</p> <p>到達目標②：遊びの意義、環境との主体的なかかわり、生活経験と保育内容との関係について理解する。</p> <p>到達目標③：情報機器及び教材の活用の視点を含め、保育教材に対する理解と基礎的な保育技術を修得する。</p>								
授業概要	<p>本授業では保育活動の基盤となる「幼稚園教育要領」を中心に幼稚園における保育内容の基礎と内容を学ぶ。また保育内容の中核となる「領域」について概念を理解するとともに、保育そのものを総合的にとらえる視点、あるいは子ども理解の一助となるための必要な知識・技術を習得する。なお、授業内では複数の保育教材を取り上げ、自ら実践することで自身の保育技術向上も図る。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
		② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	幼児教育の基本					事前：幼稚園教育要領総則を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
2回	就学前施設と小学校との連携					事前：テキスト第12章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
3回	遊びと子どもの発達					事前：テキスト第3章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
4回	保育における環境構成					事前：テキスト第4章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
5回	保育内容を支える教材の活用法(情報機器の活用を含める)①(手遊び)					事前：教材について作成する(1h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
6回	保育内容における「領域」の定義					事前：テキスト第1、2章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
7回	保育内容における「領域」の方向性					事前：テキスト第1、2章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
8回	保育内容と「領域」における「ねらい」					事前：幼稚園教育要領を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
9回	保育内容と「領域」における「内容」					事前：幼稚園教育要領を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
10回	幼稚園教育要領と保育内容について					事前：幼稚園教育要領を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
11回	保育所保育指針と保育内容について					事前：保育所保育指針を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
12回	保育内容を支える教材の活用法(情報機器の活用を含める)②(パネルシアター・絵本・紙芝居)					事前：保育教材の作成と確認をする(2h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
13回	指導計画と評価について					事前：テキスト第13章を読み込む(0.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			
14回	保育教材の展開①(絵本を用いたの模擬保育)					事前：保育教材の準備と事前練習をする(1.5h) 事後：手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)			

15回	保育教材の展開②(手遊びを用いての模擬保育)	事前:保育教材の準備と事前練習をする(1.5h) 事後:手遊びの確認とノートを利用したの振り返り(0.5h)					
16回							
テキスト	咲間マリ子編『コンパス保育内容総論』建帛社						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(震度確認試験)
	到達目標①						35%
	到達目標②						35%
	到達目標③			10%	20%		
	・進捗確認試験については専門職として必要な知識の理解度について評価 ・課題については、授業者の指示するレベルに到達するかどうかを勘案して評価 ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。 学習成果のフィードバック: 提出した課題及び評価は研究室に保管しているので、事前に連絡のうえ内容を確認することができる。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容総論						
受講生へのメッセージ	授業では私語、携帯電話等の操作をしないこと。 積極的な学修を求める。						

科目区分	専門教育科目	科目名	人間関係指導法	担当者	山野栄子	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30102	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：乳幼児が人間関係を築いていく発達の課程を理解し、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深める 自立心を育て、人と関わる力を育む教育・保育方法について具体的に考え、実践する方法を学ぶ</p> <p>到達目標①：人と関わる力がどのように育まれていくか乳幼児の発達の姿と保育実践とを結び付けて考えられるようになる 到達目標②：どのように自立心や人と関わる力を育てていくのか教育・保育方法が分かり、企画できるようになる 到達目標③：保育内容の領域「人間関係」について学び、保育者の関わり的重要性について意識して実践できるようになる</p>								
授業概要	<p>人と関わる力の基礎を育む乳幼児期に、人間として生きていく上で大切な自立心や人と関わる力を発達過程に即してどのような方法で培っていくのか、また、愛着関係・信頼関係をどう築いていくのか、理解し学ぶ。また、そのような力を保育の場面の事例を参考に一緒に考えてみる。そして、実際に学生自身が様々な人と関わる体験を積みながら、受容する・共感する・理解する・絆を深めるなどの力を養えるようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	保育内容における領域「人間関係」について、授業の進め方				事前：シラバスを読む(0,5h) 事後：授業内容について確認する(1h)				
2回	子どもを取り巻く環境と人間関係				事前：1章「子どもを取り巻く環境と人間関係」(P10.~P30)を読む(0,5h) 事後：教科書やノートを参考にして授業内容を振り返りまとめる(1h)				
3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と「人間関係」				事前：「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領『人間関係』(P31~P69)を読む(0,5h) 事後：3法令を見比べ、領域「人間関係」のねらい及び内容について配布プリントをまとめる(1h)				
4回	人と関わる力の発達の基礎「愛着」「信頼関係」を形成する援助の在り方				事前：3章「人と関わる力の発達の基礎」(P70~P82)を読む(0,5h) 事後：実習等で観察した子どもと保育者の関わりを振り返り、授業内容をまとめる(1h)				
5回	0歳児の発達と人間関係(意見交換)				事前：4章「人とかかわる力の発達の様相」(P92~P99)を読み、調べる(0,5h) 事後：他の人の意見も踏まえ、課題のレポートをまとめる(1h)				
6回	1歳児以上3歳未満児の発達と人間関係(意見交換)				事前：事前：4章「人とかかわる力の発達の様相」(P99~P105)を読み、調べる(0,5h) 事後：他の人の意見も踏まえ、課題のレポートをまとめる(1h)				
7回	3歳以上児の発達と人間関係(意見交換)				事前：4章「人とかかわる力の発達の様相」(P105~P118)を読み、調べる(0,5h) 事後：他の人の意見も踏まえ、課題のレポートをまとめる(1h)				
8回	小学校への接続、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(意見交換)				事前：3法令の第1章総則を読む(0,5h) 事後：他の人の意見を聞いて授業内容をまとめる(1h)				

9回	特別な支援を必要とする子どもとインクルーシブ教育、保育・多様な人との関わり	事前:多様な人との関わりについて、体験を踏まえ考える(0,5h) 事後:他の人の発表や意見を聞いて、まとめる(1h)																												
10回	子どもの発達と人間関係のまとめ 子どもと保育者・子ども同士・保護者との関わり	事前:0歳児～6歳児までの発達と人間関係について復習する。3章4節(P82～P91)を読む(1h) 事後:授業内容をまとめる(0.5h)																												
11回	遊びの中で育つ人間関係の事例検討(1)0,1,2歳児の遊びの中で人とかかわる	事前:5章「保育の中で育つ人と関わる力Ⅰ」(P120～P150)を読む(0,5h) 事後:事例から授業内で共有したことをまとめる(1h)																												
12回	遊びの中で育つ人間関係の事例検討(2)3,4,5歳児の遊びの中で人とかかわる(DVD鑑賞)	事前:6章「保育の中で育つ人と関わる力Ⅱ」(P156～P200)を読む(0,5h) 事後:事例から授業内で共有したことをまとめる(1h)																												
13回	遊びの中で育つ人間関係の指導計画と実践・評価	事前:「月週案の例」5章5節(P151～P155)と6章4節(P200～P203)を読み、考える(0,5h) 事後:実践と評価について、まとめる(1h)																												
14回	遊びの中で育つ人間関係(DVD鑑賞)	事前:子どもと人との関わり・援助について今までの学びと自らの経験について振り返り考える(0,5h) 事後:授業内容について、まとめる(1h)																												
15回	振り返りと今後の課題	事前:今までの授業の学びを復習し、まとめる(1h) 事後:学びを実践で活かせるように振り返り、確認する(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	成田朋子 編著「保育実践を支える人間関係」福村出版																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定こども園教育・保育要領																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>小テストでは、理解度、記述内容の質・量ともに評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守した上で、記述内容の質・量ともに記述の丁寧さも評価する 発表では、みんなが理解できるように分かりやすく発表する内容や態度、積極性を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習の取り組みや授業内での積極性、人との協調性を評価する ルーブリック評価:取り入れている・<u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%	10%	5%	5%		到達目標②		20%	10%	5%	5%		到達目標③		10%		5%	5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%	10%	5%	5%																									
到達目標②		20%	10%	5%	5%																									
到達目標③		10%		5%	5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:火曜日(12:30～13:00)</p> <p>学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却します 小テストは、研究室に保管しています。事前に連絡の上、内容の確認をすることができます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
受講生へのメッセージ	将来、保育者は人と関わる仕事です。グループワークでの討議や発表に積極的に取り組み、人とコミュニケーションする体験を深めましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	言葉指導法	担当者	川勝泰介	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30103	資格等取得との関連				幼稚園:必修・保育士:必修	実務経験
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:保育内容の領域「言葉」の理解とその指導法を学ぶ</p> <p>到達目標①:保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容の基礎となる知識と技術を修得する。</p> <p>到達目標②:幼児の発達に即して言葉の感覚を豊かにし、表現力を高めるための保育を構想する方法を修得する。</p> <p>到達目標③:言葉の発達にかかわる児童文化財(絵本・紙芝居・童話など)を理解し、その活用法を修得する。</p>								
授業概要	<p>幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達を踏まえて豊かな言葉の感覚や表現力を身に付けるための指導のあり方や教材等の活用方法(情報機器の活用を含める)について学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	○	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	保育内容における領域「言葉」とは —保育の基本理念と保育内容5領域における位置づけ					事前:シラバスを読み、概要を理解する。(1h) 事後:領域相互論から「言葉」の位置づけを復習する。(1.5h)			
2回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらい及び内容 —乳幼児期における言葉の教育の目標					事前:教育要領などに目を通しておく。(1h) 事後:テキスト②を読み、ポイントをまとめる。(1.5h)			
3回	言葉の発達過程① — 話し言葉の獲得とその発達の道筋					事前:テキスト②24~28頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストを読み直し、ポイントの整理をする。(1.5h)			
4回	言葉の発達過程② — 話し言葉の習得と小学校における書き言葉への準備					事前:テキスト②28~31頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストを読み直し、ポイントの整理をする。(1.5h)			
5回	幼児期の言葉の遅れ — 幼児の言葉の問題と特別な配慮が必要な幼児への関わり					事前:テキスト②32~37頁を読んでおく。(1h) 事後:授業を振り返り、ポイントの整理をする。(1.5h)			
6回	言葉と表現力を育む環境構成と援助① — 話す・聞く意欲を育む援助					事前:テキスト②39~41頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストと授業を振り返り、ポイントの整理をする。(1.5h)			
7回	言葉と表現力を育む環境構成と援助② — 日常生活に必要な言葉を育む援助(グループ討議)					事前:テキスト①39~41頁を読み、考えをまとめておく。(1h) 事後:グループ討議で出た意見をまとめる。(1.5h)			
8回	言葉を豊かにする環境構成と援助① — 言葉による伝え合いを育む援助の工夫					事前:テキスト②45~46頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストと授業を振り返り、ポイントの整理をする。(1.5h)			
9回	言葉を豊かにする環境構成と援助② — 文字などで伝える楽しさを育む援助の工夫(グループ討議)					事前:テキスト②47~49頁を読んでおく。(1h) 事後:グループ討議で出た意見をまとめる。(1.5h)			
10回	言葉を豊かにする教材の活用について① — 絵本・お話・紙芝居・言葉遊びなどの活用と実践					事前:テキスト②50~55頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストと授業を振り返り、ポイントの整理をする。(1.5h)			
11回	言葉を豊かにする教材の活用について② — 情報機器の活用と実践					事前:テキスト②55~60頁を読んでおく。(1h) 事後:テキストと授業を振り返り、ポイントの整理をする。(1.5h)			
12回	言葉を育む保育の構想と計画 — 指導計画の作成(グループ討議)					事前:テキスト①10~30頁を読んでおく。(1h) 事後:グループ討議で出た意見をまとめる。(1.5h)			
13回	言葉を育む保育の実践 — 模擬保育の実施					事前:模擬保育の計画をする。(1.5h) 事後:模擬保育を実施した反省や感想をまとめる。(1h)			
14回	言葉を育む保育の評価と改善 — 模擬保育の振り返り(全体討議)					事前:模擬保育の振り返りを行い自分の意見をまとめておく。(1h) 事後:全体討議を振り返り、疑問や感想をまとめる。(1.5h)			

15回	まとめ — 幼児をとりまく言葉の環境と今後の課題及びその対応について	事前:テキスト②39~41 頁を読んでおく。(1h) 事後:半年を振り返り、今後の課題をまとめる。(1.5h)																												
16回	定期試験	事前: 事後:																												
テキスト	①川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』(萌文書林) ②川勝泰介著『幼児の言葉と指導法』(ユマニテク短期大学)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<u>取り入れている</u></p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%	10%	10%		到達目標②	20%		10%				到達目標③				10%	10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%	10%	10%																									
到達目標②	20%		10%																											
到達目標③				10%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出するカードに記入された質問や疑問を通して相談に乗るほか、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
受講生へのメッセージ	講義中に配布する資料と2冊のテキストを活用するとともに、日常的に子どもに関心を持ち、問題意識を持って観察をして欲しい。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	表現指導法	担当者	松本亜香里	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30104	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：表現活動（音楽、造形、身体）の教材研究を含んだ指導計画立案および指導法を修得する</p> <p>到達目標①：「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の教育や保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する</p> <p>到達目標②：表現する楽しさを自身の体験を通して知る</p> <p>到達目標③：表現活動を多様な方法で展開するための知識や技術を修得し、乳幼児の発達を踏まえた援助やあり方を考え、学修する</p>								
授業概要	<p>乳幼児が感性を育み、自分が感じたことを自由に表現できるには、保育者は乳幼児の成長や発達過程を理解し、適切な環境設定や援助ができなければならない。また、保育者自身がいろいろな表現を経験し、「楽しむ」ことが重要である。「楽しむ」中で表現活動や表現活動に用いる保育教材研究（情報機器及び教材の活用を含める）を深める基礎を本授業では修得する。さらに、乳幼児の成長を促すために必要な表現活動の援助や指導のあり方を「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに、受講者自らが考え、創造し、学修する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	「表現」のねらいを理解する				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第1章7節を読む(0.5h) 事後：3法令での「表現」のねらいを確認する(1h)				
2回	「表現」の内容及び内容の取扱いを理解する				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第1章6節を読む(0.5h) 事後：3法令での「表現」の内容及び内容の取扱いを確認する(1h)				
3回	乳幼児の表現の場面を取り上げ、その背景や要因を考察する(グループ討議)				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第6章を読む(0.5h) 事後：グループ討議で挙げた意見をまとめる(1h)				
4回	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動のあり方や意義を考察する(グループ討議)				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第6章を読む(0.5h) 事後：グループ討議で挙げた意見をまとめる(1h)				
5回	保育教材の活用(1) 自然に触れ、感じ、自然であそぶことを体験する				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第8章の事例を読む(0.5h) 事後：授業内容をふまえて課題レポートをまとめる(1h)				
6回	保育教材の活用(2) 音であそぶことを通して表現活動を創作する				事前：「事例で学ぶ保育内容領域表現」第7章の事例を読む(0.5h) 事後：授業内容をふまえて課題レポートをまとめる(1h)				
7回	保育教材と情報機器の活用(1) 素材の特性を知り、身近な遊具や生活用具などを制作する				事前：提示した素材について、遊びを考える(0.5h) 事後：授業内で共有した遊びをまとめる(1h)				
8回	保育教材と情報機器の活用(2) 身体を動かした表現を体験する中で表現方法の多様性を知る				事前：提示した遊びについて「保育者をめざす楽しい音楽表現」を読んで予習しておく(0.5h) 事後：発達や子どもの姿に応じた遊びの展開を考える(1h)				
9回	表現指導法(1) 音楽表現 活動の流れや援助指導法を研究する(グループ討議)				事前：前回までの授業内容をふまえ、音や音楽にかかわる表現活動を考え、活動の流れや援助法を考えておく(0.5h) 事後：共有した遊びや活動の流れ、援助法をまとめる(1h)				
10回	表現指導法(2) 造形表現 活動の流れや援助指導法を研究する(グループ討議)				事前：前回までの授業内容をふまえ、造形にかかわる表現活動を考え、活動の流れや援助法を考えておく(0.5h) 事後：共有した遊びや活動の流れ、援助法をまとめる(1h)				

11回	表現指導法(3) 身体表現 活動の流れや援助指導法を研究する(グループ討議)	事前: 前回までの授業内容をふまえ、身体を使った表現活動を考え、活動の流れや援助法を考えておく(0.5h) 事後: 共有した遊びや活動の流れ、援助法をまとめる(1h)																												
12回	指導計画書の作成(1) 表現活動にかかわる乳幼児の発達を理解する	事前: 「保育者をめざす楽しい音楽表現」第2章IVを読む(0.5h) 事後: 指導計画書立案(対象年齢を決め、想定した子どもの姿からねらいと活動を考える)1h																												
13回	指導計画書の作成(2) 表現活動にかかわる指導の展開を考え、指導計画書を作成する	事前: 前回の事後学習に基づき、活動の展開を考え、指導計画案を練る(0.5h) 事後: 指導計画書の作成する(1h)																												
14回	表現活動における模擬保育の実施	事前: 「事例で学ぶ保育内容領域表現」第5章を読む(0.5h) 事後: 授業内で感じた保育者の援助のあり方について意見をまとめる(1h)																												
15回	模擬保育の省察、まとめ(全体討議)	事前: 前回の事後学習でまとめた意見を他者に説明できるようにしておく(0.5h) 事後: 15回のレポートをまとめ、感想をまとめておく(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	「事例で学ぶ保育内容 領域表現」無藤隆(萌文書林) 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」高御堂愛子他監修(圭文社)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育所保育指針解説」厚生労働省編(フレーベル館) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>小テストでは、記述内容の質・量ともに評価する 課題・提出物では、原則提出期日厳守したうえで、記述内容の質と量、記述の丁寧さを評価する 取り組み姿勢については、毎回の事前事後学習の取り組みと授業時の積極性を評価する ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		15%	10%		10%		到達目標②		10%	10%		10%		到達目標③		15%	10%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		15%	10%		10%																									
到達目標②		10%	10%		10%																									
到達目標③		15%	10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 水曜 12:30~13:00と15:00~16:30 学習成果のフィードバック: 課題や提出物は授業時間内に返却します 小テストは研究室に保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園: 領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士: 保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
受講生へのメッセージ	本授業では毎回レポート課題がでますが、学外実習や将来保育者となった時に、自分の保育観を形成する過程を示す貴重な材料となります。そのため、返却後は毎回見直しおよび加筆や修正をし、丁寧に保管しましょう。 また、自ら表現について考え、他者と意見を交換し合う場面も多いです。グループ討議やその他実践では、多様な考え方を受け止め他者とかわることを期待します。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教育方法と技術	担当者	鈴木建生	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30105	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：理解しやすい教授技術を習得する</p> <p>到達目標①：子ども達に求められる資質や能力を育成するために必要な教育方法を理解する。</p> <p>到達目標②：教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。</p> <p>到達目標③：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用の育成を視野に入れた適切な教材の作製や活用に関する基礎的な能力を身に付ける</p>								
授業概要	<p>この授業では、これからの社会を担う子供達の資質や能力を育成するための教育方法や技術習得する。教育方法の基礎的理論と実践に基づいた内容を学習する。学習サイクルと相互評価法などの学習評価法を体験理解する。基礎的な学習指導理論に基づき授業や保育を行うための授業技術を体験理解する。</p> <p>子供達の学習効果を高めるために情報機器を活用した効果的な授業や教材作成の技術を習得する。また、情報モラルを含む情報活用能力を高める指導法を学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション(授業の進め方、取り組み方)					事前：シラバスを熟読し、必要に応じてテキストを熟読する。(0.5H) 事後：各自でこの科目の学習計画を立てる。(1H)			
2回	幼児教育方法の理解					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
3回	様々な活動と指導方法・援助					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
4回	課題活動と指導方法・援助					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
5回	行事活動と指導方法・援助					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
6回	行事活動と指導方法・援助					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
7回	異文化理解と地域連携					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
8回	評価の方法(PDCA サイクル)					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
9回	評価方法の実践(相互評価法)					事前：事前に配布するプリントを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
10回	評価方法の実践(評価の事後処理、リフレクション活動)					事前：事前に配布するプリントを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
11回	評価方法の実践(PDCA サイクル、KJ 法)					事前：事前に配布するプリントを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
12回	教育教材の理解と実践					事前：学習に使用するテキストを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			
13回	評価方法の実践(Web 評価法)					事前：事前に配布するプリントを熟読する。(1H) 事後：当日学習した内容の復習を行う。(1H)			

14回	Web 評価に基づく振り返り活動	事前: 事前に配布するプリントを熟読する。(1H) 事後: 当日学習した内容の復習を行う。(1H)																												
15回	教育方法と技術に関するまとめ	事前: これまでの学習した内容を整理する。(1H) 事後: これまでの学習した内容を総括する。(2H)																												
16回	期末筆記試験	事前: 期末筆記試験の準備を行う。(2H) 事後: 出来なかった内容についてリフレクションを行う。(1H)																												
テキスト	適宜、資料・ワークシート等を配布しますので、テキストは使用しません。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『この一冊で分かるアクティブラーニング』PHP出版																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>15%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	15%		5%	5%	5%		到達目標②	20%		5%	5%	5%		到達目標③	20%		5%	5%	5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	15%		5%	5%	5%																									
到達目標②	20%		5%	5%	5%																									
到達目標③	20%		5%	5%	5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 希望する場合はリフレクションシートへ書き込むか、授業終了時に申し出てください。</p> <p>学習成果のフィードバック: リフレクション集を作成し、適宜フィードバックします。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>保育士: 保育の本質・目的に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
受講生へのメッセージ	教育方法を理解し、教育技術を身に着けます。実習や保育現場で必要な教育教材の活用方法を習得します。実習や保育現場で困ることがないように教育技術の習得に努めましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽表現 I	担当者	桂山たかみ・岸田恵・宮田美佐・村木清子・森摩樹	開講時期	I 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30106	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：・保育者として、子どもが音楽の表現力を育む活動をするための知識と技術を習得する</p> <p>到達目標①：音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的基礎知識を習得する</p> <p>到達目標②：音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的応用知識を習得する</p> <p>到達目標③：修得した音楽的知識をもとに「子どもたちのためになる指導」ができるようにする</p>								
授業概要	<p>保育者は子どもたちから自発的に現れる音楽の表現力を大切にしなければならない。子どもの成長過程において、子どもが発信する音楽表現を受け止め、伸ばす必要がある。時には、子どもから引き出すこともある。本授業では、幼児教育に必要な音楽的知識と技術を中心に学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション、音楽表現活動の目的と意義				事前：音楽表現とは何か調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
2 回	子どものうた(1)子どもの声域や発達				事前：子どもの声域や発達について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
3 回	子どものうた(2) 歌唱教材の選び方				事前：歌唱教材の選び方について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
4 回	子どものうた(3) 子どもの歌唱指導法				事前：子どもの歌唱指導法について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
5 回	子どものうた(4) フレーズを意識した手遊びうた				事前：フレーズを意識した手遊びうたについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
6 回	楽典(1)譜表と音名、変化記号、音の長さ、リズム、拍子				事前：音の長さについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
7 回	楽典(2)音楽用語や演奏記号				事前：音楽用語や演奏記号について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
8 回	楽典(3)長音階と短音階				事前：長音階と短音階について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
9 回	音の理解(1)主要三和音				事前：主要三和音について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
10 回	和音の理解(2)和音の展開形				事前：和音の展開形について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
11 回	コードネームの理解(1)根音と和音を使った伴奏法				事前：根音と和音について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
12 回	コードネームの理解(2)分散和音を使った伴奏法				事前：分散和音について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
13 回	歌唱の伴奏技術(1)歌いながらピアノを弾く方法				事前：課題曲練習について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
14 回	歌唱の伴奏技術(2)移調と転調				事前：移調と転調について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
15 回	まとめ				事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				

16回		事前: 事後:																												
テキスト	簡易ピアノ伴奏 こどものうた大百科 松山祐士編 ドレミ楽譜出版社(2018) 適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」圭文社 植田光子他監修(2017)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワー 学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	毎日の努力が成果へと繋がります。自宅練習を継続しましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽表現Ⅱ	担当者	桂山たかみ・岸田恵・宮田 美佐・村木清子・森摩樹	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30107	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：子どもが音楽の表現力を育む活動をするための音楽的知識を深め、応用技術を習得する</p> <p>到達目標①：音楽の基礎となるリズムや拍子の多様なパターンを習得する</p> <p>到達目標②：子どもがメロディ音楽に触れ、表現するために必要となる鍵盤楽器の奏法および指導技術を習得する</p> <p>到達目標③：子どもがうたを楽しみ、表現を広げる援助につながる伴奏技術を習得する</p>								
授業概要	<p>保育者は、子どもが自発的に表現する音楽、あるいは音楽的要素を受け、その表現を伸ばしたり展開を援助したりする技術が必要となる。本授業では、幼児の音楽表現Ⅰで修得した幼児教育に必要な音楽的知識をもとに応用知識と技術を習得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。								
	◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。								
	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。								
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション、音楽用語や演奏記号の応用				事前：楽典の復習(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
2回	リズム(1)基礎リズム				事前：基礎リズムについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
3回	リズム(2)こどものうたのリズムパターン				事前：こどものうたのリズムパターンについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
4回	リズム(3)子どもの歌の拍子				事前：子どもの歌の拍子について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
5回	リズム(4)拍子とリズムの応用				事前：拍子とリズムについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
6回	リトミック教育(1)リトミック教育とは				事前：リトミック教育について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
7回	リトミック教育(2)音にあわせた身体表現				事前：身体表現について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
8回	器楽(1)幼児教育楽器の基礎知識と奏法				事前：幼児教育楽器について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
9回	器楽(2)鍵盤ハーモニカ指導法				事前：鍵盤ハーモニカについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
10回	器楽(3)鍵盤ハーモニカ応用				事前：鍵盤ハーモニカについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
11回	子どものうた(1)童謡の伴奏技術				事前：童謡について調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
12回	子どものうた(2)手遊びうたの伴奏技術				事前：手遊びうたについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
13回	子どものうた(2)季節のうたの伴奏技術				事前：季節のうたについて調べる(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
14回	童謡の弾き歌いを通して、こどもの創造性を豊かにするための意義を理解する				事前：ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				

15回	まとめ	事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」圭文社 植田光子他監修(2017)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスパワー 学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	毎日の努力が成果へと繋がります。自宅練習を継続しましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の造形表現 I	担当者	安藤恭子	開講時期	I 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30108	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:選択必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。</p> <p>到達目標①:画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。</p> <p>到達目標②:幼児の造形表現の特徴の概要を知り、幼児と一緒に楽しみながら制作する内容の学習過程を実技を通して学ぶ。</p> <p>到達目標③:幼児が楽しく安全に遊べるおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。</p>								
授業概要	<p>本科目は小学校教員として、さらに岐阜県内公立小学校校長としての実務経験を有する教員(安藤恭子)により、色と形に関わる基礎基本的な内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させ易い内容で実技を通して学ぶ。</p> <p>身近な廃材などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。</p> <p>季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、つくり出す喜びと充実感を持つ。</p> <p>計画⇒材料準備⇒製作⇒鑑賞⇒片付け⇒振り返りのサイクルを実施する。作品や資料はオリジナルファイルに収め累積する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション オリジナルファイル題字の模様と彩色				事前:テキストP19~21(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
2 回	乳幼児期の造形表現に関わる発達 乳幼児期及び児童期の絵画表現の特徴とすばらしさ				事前:テキストP218~221(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
3 回	丸が描ければあなたもアーティスト オリジナルファイルの表紙絵デザインと彩色				事前:○から思いつくものを考えておく。(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
4 回	クレヨンやパス、色コンテ、カラーペン、色鉛筆の扱い方				事前:テキストP54~63(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
5 回	食べ物に例えて学ぶ水彩絵の具の扱い方				事前:テキストP50~53(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
6 回	切って貼ってこいのぼり				事前:テキストP82~85(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
7 回	対象の自然物等を見て描き、水彩絵の具で着色				事前:校内の自然物の観察(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
8 回	ピッカピカ!元気の出る魔法のマイク(身近な材料の活用—ラップリ芯棒等)				事前:テキストP186(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
9 回	モダンテクニック・アラカルト I				事前:テキストP112から119(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
10 回	カラフルペットさん(身近な材料の活用—ペットボトル等)				事前:テキストP182(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
11 回	幼児に人気のアニメのキャラクターにチャレンジ				事前:カレンダーのアニメ等鑑賞(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				
12 回	走れ!アニマルカー(身近な材料のおもちゃ—紙コップ・ストロー・うちわ等)				事前:テキストP80~81(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)				

13回	魚釣りゲーム用のカラフルなお魚さん・けん玉ほいほい(身近な材料のおもちゃーお花紙・ペットボトル等)	事前:テキストP94~95(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
14回	対象の自然物を見て描き、色鉛筆で彩色 パフェ食べたい(色鉛筆の描法)	事前:テキストP62~63(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
15回	オリジナルファイルの作品等の整理 前期のまとめレポート(作品製作の工夫、知識理解、学習態度)	事前:テキスト全体(1H) 事後:オリジナルファイルの保存(0.5H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会) ピコロ(学習研究社) MOE(白泉社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		10%																									
到達目標②			20%		20%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業に関連した作品作りについて追及したい場合や幼児の造形表現の関わり方を更に相談したい場合は、図工室や準備室を開放して、相談にのる。</p> <p>学習成果のフィードバック:オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し変化を確認するようにする。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
受講生へのメッセージ	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の造形表現Ⅱ	担当者	安藤恭子	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30109	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。</p> <p>到達目標①：画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。</p> <p>到達目標②：幼児の造形表現の特徴を知り、幼児と一緒に楽しみながら製作する内容の学習過程を実技を通して学ぶ。</p> <p>到達目標③：幼児が楽しく安全に遊べるおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。</p>								
授業概要	<p>本科目は小学校教員として、さらに岐阜県内公立小学校校長としての実務経験を有する教員（安藤恭子）により、色と形に関わる基礎基本的な内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させ易い内容で実技を通して学ぶ。</p> <p>身近な廃材などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。</p> <p>季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、共同で作る体験をしながらつくり出す喜びと充実感を持つ。</p> <p>計画⇒材料準備⇒製作⇒鑑賞⇒片付け⇒振り返りのサイクルを実施する。作品はオリジナルファイルに収め累積する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	モダンテクニック・アラカルトⅡ				事前：テキストP120～131(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
2回	和紙で作るミニタペストリー				事前：タペストリーに書く文字決め(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
3回	共同製作・グループごとに畳一枚分の大きな紙にローラー走らせたり手足のスタンピング等を施す。				事前：テキストP200～201(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
4回	共同製作・前回の色や形から想像して人や動物などを描きこむ。				事前：テキストP207～223(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
5回	石ころの大変身!				事前：テキストP72～73(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
6回	落ち葉を集めて葉っぱマン(顔づくり)				事前：テキストP92～93(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
7回	落ち葉を集めて葉っぱマン(胴体づくり)				事前：胴体を筒型か顔と同じ素材か選択しておく。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
8回	季節や行事の壁面飾り画(テーマ・計画)				事前：テーマについていくつか候補をきめておく。(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
9回	季節や行事の壁面飾り画(製作Ⅰ)				事前：テーマに合った材料見つけ。(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
10回	季節や行事の壁面飾り画(製作Ⅱ)				事前：テーマに合った材料見つけ。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
11回	ミニ屏風「窓からのぞいているのはだあれ？」				事前：覗かせたい動物などの決定と写真などの素材見つけ。(1H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
12回	一枚の紙皿を使ってⅠ(ごほうびメダル)				事前：紙皿メダルに付ける材料見つけ。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				

13回	一枚の紙皿を使ってⅡ(自然物などのリース)	事前:紙皿リースに付ける材料見つけ。(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
14回	幼児の造形教育の歴史 モデル人形を使って動きをつくり見て描く	事前:テキストP233~241(1H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
15回	オリジナルファイルの作品や資料の年間の確かめ 後期のまとめレポート(作品製作の工夫、知識理解、学習態度)	事前:テキスト全体(1H) 事後:オリジナルファイルの保存(0.5H)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会) ピッコロ(学習研究社) MOE(白泉社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		10%																									
到達目標②			20%		20%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業に関連した作品作りについて追究したい場合や幼児の造形表現の関わり方を更に相談したい場合は、図工室や準備室を開放して相談にのる。</p> <p>学習成果のフィードバック:オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し、変化を確認するようにする。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
受講生へのメッセージ	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	レクリエーション論	担当者	田村禎章	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS30209	資格等取得との関連	保育士：選択必修・レクリエーション：必修・初級障がい者スポーツ：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ： 到達目標①：子どもから高齢者、障害の有無にかかわらず、全世代へのレクリエーション支援の意義について理解する 到達目標②：楽しさ、遊び、笑顔を基調としたレクリエーション支援に関する思考・判断力を身につける 到達目標③：レクリエーション事業企画をとおして、目的と対象者に合わせたレクリエーション実技ができる</p>								
授業概要	<p>保育士や幼稚園教諭は、本来的に「遊び」を必要とする存在(子ども)に関わる援助や教育を実施する専門職である。子どもだけに留まらず、生活への潤いや安らぎ、そして、楽しさや喜びは保育や教育のあらゆる場面のなかで、あらゆる世代で取り組まなければならない課題がレクリエーションである。本講義では、レクリエーション活動(事業)の意義と目的を概説し、アイスブレイキングの方法、ホスピタリティの効果などを用い、地域で活躍する「レクリエーション・インストラクター」の基礎的な能力を向上する授業を実施する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	①	乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	③	子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション ～レクリエーションとは何か～					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
2回	アイスブレイキングについて					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
3回	グループ形成と集団でのレクリエーション支援					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
4回	コミュニケーション方法の工夫とレクリエーション 【障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションについて】					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
5回	目的・対象に合せたレクリエーションワーク					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
6回	レクリエーション総合計画の立案とレクリエーション実践					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
7回	レクリエーション実技① ～キンボールスポーツ～					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
8回	レクリエーション実技② ～ペタンク、ボッチャ～					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
9回	レクリエーション実技③ ～運動遊び、グループ交流あそび～					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
10回	グループでのレクリエーション活動の計画					事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
11回	グループレク活動実践演習(準備)					事前:グループにて事前に企画・検討をしておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
12回	グループレク活動実践演習(発表)					事前:グループにて事前に企画・検討をしておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			
13回	グループレク活動実践演習(評価)					事前:グループにて事前に企画・検討をしておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)			

14回	レクリエーション実技の振り返りとレクリエーション個別実践	事前:レクリエーション指導案を事前にまとめる(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)																												
15回	講義・実技実践にて学習した内容の振り返りとまとめ	事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	・『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(2017) ・『レクリエーション支援の方法(楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材)』(公財)日本レクリエーション協会(2021)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『コミュニケーションを深めるソング&ダンス集』(公財)日本レクリエーション協会(2003) 『レクリエーション支援の基礎』(公財)日本レクリエーション協会(2007) 『楽しさの追求を支える理論と支援の方法』(公財)日本レクリエーション協会(2013) 『楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施』(公財)日本レクリエーション協会(2013)、その他																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%		10%				到達目標②					20%		到達目標③				20%	10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	40%		10%																											
到達目標②					20%																									
到達目標③				20%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談 ・授業後やオフィスアワー(水曜日:昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 学習成果のフィードバック ・レポート等の効果測定は随時実施します。また定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	「楽しさ」「主体性」をもって授業に臨んでほしい。特に、グループ協働学習では積極的に議論をしてほしい。学校外でのレクリエーション・スポーツ活動にも興味・関心をもってほしい。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	健康指導法	担当者	渡邊明宏	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30201	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修・ 初級障がい者スポーツ:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:乳幼児期の健康を支える</p> <p>到達目標①:領域「健康」のねらいと内容を理解して保育の内容や指導を構想できる。</p> <p>到達目標②:基本的な生活習慣の獲得や安全管理・安全教育のための指導や援助の具体的な提案ができる。</p> <p>到達目標③:楽しい運動遊びを展開するための教材研究・指導計画の立案ができる。</p>								
授業概要	<p>領域「健康」のねらい・内容や乳幼児期の発育・発達に関する基本的な知識の理解をもとに、基本的な生活習慣の獲得や、安全管理・安全教育のための指導や援助のあり方を考える。また、運動遊びや伝承遊びの実践をととして遊びのおもしろさ・楽しさを体感したうえで、教材研究・指導計画立案によって保育実践における展開を構想する。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1回	人間の健康とその意義					事前:自らの生活から健康課題を考える(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
2回	子どもにとっての健康					事前:教科書 P11-15 を読む(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
3回	領域「健康」のねらい・内容					事前:幼稚園教育要領の該当部分を読む(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
4回	養護に関わるねらい・内容					事前:保育所保育指針の該当部分を読む(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
5回	現代社会における子どもの健康					事前:子どもの健康の現代的な課題を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
6回	乳幼児期の身体発育					事前:教科書 P22-25 を読む(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
7回	乳幼児期の運動発達					事前:教科書 P16-21 を読む(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
8回	基本的な生活習慣(食事)					事前:食事に関する現代的課題を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
9回	基本的な生活習慣(排泄・睡眠)					事前:生活リズムに関する現代的課題を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
10回	基本的な生活習慣(着脱衣・清潔)					事前:着脱衣・清潔の意義を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
11回	保育における安全管理					事前:昨今の保育における事故を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
12回	保育における安全教育					事前:園における安全教育の内容を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			
13回	遊びに関する理論の理解					事前:子どもの遊びの現状を調べる(0.5h) 事後:授業内容をノートにまとめる(0.5h)			

14回	遊びをととした子どもの健康の理解(教材研究)	事前:子どもの運動遊びを調べる(0.5h) 事後:教材研究を完成させる(0.5h)																												
15回	遊びをととした子どもの健康の理解(指導計画の立案)	事前:指導計画案の書き方を再確認する(0.5h) 事後:指導計画案を完成させる(0.5h)																												
16回	なし	事前: 事後:																												
テキスト	種丸武臣・花井忠征(編著)『幼児の楽しい運動遊びと身体表現 -めざせガキ大将-』圭文社、2010年																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・提出物は、内容が保育実践でどの程度活かせる水準にあるかを考慮する。 ・取り組む姿勢は、成果とともに積極的な態度を考慮する。 ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			30%				到達目標②			30%				到達目標③			30%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			30%																											
到達目標②			30%																											
到達目標③			30%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業時間の前後に教室にて質問等を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業においてフィードバック情報を提供する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
受講生へのメッセージ	事前・事後の学修にも意欲的に取り組むことを期待します。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	環境指導法	担当者	横井一之	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ： 到達目標①：乳幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、幼児を指導する方法、指導内容を具体的に学ぶ。 到達目標②：乳幼児と一緒に遊びながら環境を取り入れる力を養う具体的な方法を身に付ける。 到達目標③：乳幼児の環境を取り入れる力を養う教材について、具体的に用い方を身に付ける。</p>								
授業概要	<p>幼稚園教育や保育所保育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方などを解説するとともに、具体的な教育・保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は幼稚園教諭養成・保育士養成という立場から、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができるとができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	△	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	保育における「環境とかかわること」の重要性を学ぶ (1) 自然環境(2) 5領域の総合的関連(3) 実現したい内容					事前:P16 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をまとめる。(1.5H)			
2回	領域「環境」の指導計画とその展開について学ぶ (1) 全体的な計画の作成(2) 小学校との連携					事前:P30 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：教育課程、全体的な計画についてまとめる。(1.5H)			
3回	領域「環境」の指導計画とその展開について学ぶ (1) 領域「環境」の指導計画と展開(2) 家庭・地域との連携					事前:P44 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：年間指導計画、月間～日案、部分案についてまとめる。(1.5H)			
4回	領域「環境」ねらいと内容 (1) ねらいと内容の変遷(2) 教育要領の保育指針の変遷					事前:P55 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：保育要領、幼稚園教育要領の制定についてまとめる。(1.5H)			
5回	領域「環境」ねらいと内容 (2) 現行の教育要領のねらいと内容(2) 現行の保育指針について					事前:P62 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：幼稚園教育要領と保育所保育指針についてまとめる。(1.5H)			
6回	乳幼児期の自然認識の発達と領域「環境」 (1) もととの出会い(2) 人との出会い					事前:P68 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：乳幼児の自然認識の発達についてまとめる。(1.5H)			
7回	乳幼児期の自然認識の発達と領域「環境」 (1) 自然との出会い(3) センス・オブ・ワンダー					事前:P76 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：レイチェル・カーソンについてまとめる。(1.5H)			
8回	自然を取り入れた保育内容 (1) 身近な小動物(2) 身近な植物(3) 身近な自然の事象					事前:P108 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：動物や植物について、1つのテーマをまとめる。(1.5H)			
9回	遊具・素材について (1) 遊具(2) 玩具					事前:P126 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：遊具・素材について、1つのテーマをまとめる。(1.5H)			
10回	食を取り入れた保育内容 (1) 各国の食文化とのかかわり(2) 栽培した果物を使って					事前:P131 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：乳幼児の食育について、1事例をまとめる。(1.5H)			
11回	天候等と保育 (1) 天候(2) 太陽、月、星(3) 24節気と季節行事					事前:P139 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：天候等について、1つのテーマをまとめる。(1.5H)			
12回	0～2歳児の保育の展開について学ぶ (1) 室内でのおもちゃ遊び(2) 砂遊び					事前:P161 まで教科書を読む。(1.5H) 事後：2歳児の砂場遊びの指導事例をまとめる。(1.5H)			

13回	3歳児の保育の展開について学ぶ (1)ウサギ・インコとのかかわり(2)植物とのかかわり	事前:P176まで教科書を読む。(1.5H) 事後:3歳児の遊具の指導について展開事例をまとめる。(1.5H)																												
14回	4歳児の保育の展開について学ぶ (1)ダンゴムシとのかかわり(2)スクーターとのかかわり	事前:P188まで教科書を読む。(1.5H) 事後:4歳児の動物の指導について展開事例をまとめる。(1.5H)																												
15回	5歳児の保育の展開について学ぶ (1)ハムスターの飼育を通して(2)伝統文化に親しむ	事前:P203まで教科書を読む。(1.5H) 事後:5歳児の植物の指導について展開事例をまとめる。(1.5H)																												
16回	試験はなし	事前: 事後:																												
テキスト	吉田淳・横井一之 2018『新・保育実践を支える 環境』福村出版																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】(すでに購入済みと聞いています) 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省 2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%			15%		到達目標②			15%	15%			到達目標③		20%			15%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%			15%																									
到達目標②			15%	15%																										
到達目標③		20%			15%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業後に教室で質問を受け付ける。ただし、過去の出席の確認には応じない。</p> <p>学習成果のフィードバック:小テストで間違えた内容について復習する。小テストで正答率の低かった内容を、再度授業で取りあげる。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習</p>																													
受講生へのメッセージ	保育者は子どもへの笑顔が命です。日頃から、お互いに笑顔でかかわりましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	教育相談	担当者	吉弘淳一	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30203	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修・ 准学校心理士：必修			実務経験	実務経験あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：教育相談のポイントを理解するとともに実践現場で活かす</p> <p>到達目標①：子どもひとり一人に合った対応ができるための教育相談に関わる基礎的知識・技術を修得する。</p> <p>到達目標②：カウンセリングの基礎的な知識や技術を理解する。</p> <p>到達目標③：相談体制のしくみや各種機関等の連携のあり方について理解する。</p>								
授業概要	<p>小学校、中学校、保育所等でのカウンセリングに関わる実務経験を持つ教員が現場での事例を基に、どのように対応するのかを具体的に演習を入れながら行う。昨今、保育の場において、カウンセリングマインドをもって子どもや保護者に接することは必須となってきている。そんな中でスクールカウンセラーの配置が求められてきているが、まだまだ設置されている所は数少ない。そこで本科目では、カウンセリングの基本的知識を学ぶとともに、保護者に対する支援がなぜ必要なのかを事例を通じて学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することが出来る。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション・教育相談の意義と概要					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
2回	教育相談とカウンセリングの相違について					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
3回	カウンセリングの理解(受容・共感・自己一致)					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
4回	教育相談の対象理解					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
5回	教育相談の体制づくり					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
6回	相談の進め方について(計画)					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
7回	関連機関との連携について					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
8回	面談の技術と留意点					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
9回	心理療法・心理アセスメント(面接法・観察法)					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			
10回	現場における事例検討①(保護者の悩み・虐待)					事前：テキストを熟読する(0.5h) 事後：授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)			

11回	現場における事例検討②(いじめへの対応)	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)																												
12回	現場における事例検討③(不登校・不登園の子どもへの対応)	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)																												
13回	障害をもつ子どもとのかかわり(発達障害、SLD)	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)																												
14回	教師のメンタルヘルス	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)																												
15回	コンサルテーションとスーパービジョン まとめ	事前:テキストを熟読する(0.5h) 事後:授業中に配布したプリント類をバインダー等で整理する。 また今日のポイントと専門用語をノートにまとめる(1.0h)																												
16回																														
テキスト	「保育実践を深める相談援助・相談支援」晃洋書房																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①				30%			到達目標②		10%			30%		到達目標③			30%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①				30%																										
到達目標②		10%			30%																									
到達目標③			30%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室等で質問を受け付けます 学習成果のフィードバック:小テストは授業の中で後日返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 保育士:保育の対象の理解に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	授業後の自己学習が大切です。専門用語の意味をノートにまとめて、実践現場で使えるようにしていきましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽 I	担当者	桂山たかみ・岸田恵・ 宮田美佐・村木清子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件		ナンバリング	CS30204	資格等取得との関連	保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	テーマ:保育者として必要なピアノ演奏技術を身につける 到達目標①:ピアノの技術向上 到達目標②:弾き歌いの技術向上 到達目標③:コードネームを使った伴奏法								
授業概要	幼児教育において、音楽の果たす役割はきわめて重要である。子どもとの音楽表現活動を豊かに展開できるように、理論的知識を身に付けつつ、ピアノの演奏等技術面の習得及び向上をはかる。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。								
	◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。								
	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。								
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション、講義概要説明、楽典				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
2回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「とんぼのめがね」(C-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
3回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「アイアイ」(C-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
4回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「とんでったバナナ」(C-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
5回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「ありさんのおはなし」(F-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
6回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「七夕さま」(F-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
7回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「バスごっこ」(F-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
8回	ピアノの基礎技術と春～夏のうた課題の確認				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
9回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「あめふりくまのこ」(D-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
10回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「とけいのうた」(D-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
11回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「ぼくのミックスジュース」(D-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
12回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「うみ」(G-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
13回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「南の島のハメハメハ大王」(F-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
14回	ピアノ個人レッスン 基礎練習、春～夏のうた「アイスクリームの歌」(B-dur)				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				

15回	ピアノの基礎技術と春～夏のうた課題の確認	事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」圭文社 植田光子他監修(2017)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスパワー 学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	毎日の努力が成果へと繋がります。自宅練習を継続しましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼児の音楽Ⅱ	担当者	桂山たかみ・岸田恵・ 宮田美佐・村木清子	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS30205	資格等取得との関連	保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:保育者として必要な音楽表現力を高める</p> <p>到達目標①:ピアノの技術向上に加え、簡易伴奏法の習得</p> <p>到達目標②:リズムを使った拍子感の習得</p> <p>到達目標③:楽譜作成の技術習得</p>								
授業概要	<p>幼児の音楽Ⅱでは、幼児の音楽Ⅰで習得した理論的知識や、ピアノ基礎的技術をもとに、個々の演奏能力・読譜能力をさらに伸ばすことを目標とする。また、コードネーム伴奏法やリズムなどで表現技術の習得及び向上をはかる。受講者一人ひとりの課題を見出し、取り組むこととする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	ガイダンス、ピアノ課題曲出題				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
2回	コードネームの理解(1)読み解き方				事前:コードネームについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
3回	コードネームの理解(2)展開形				事前:コードネームの展開形について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
4回	コードネームの理解(3)根音と和音を使った伴奏法				事前:コードネームの根音と和音について調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
5回	歌唱の伴奏技術(1)ピアノ弾き語り				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
6回	歌唱の伴奏技術(2)移調と転調				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
7回	リズム(1)3歳児指導法、2拍子				事前:3歳児のリズムについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
8回	リズム(2)4歳児指導法、3拍子				事前:4歳児のリズムについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
9回	リズム(3)5歳児指導法、4拍子				事前:5歳児のリズムについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
10回	リズム(4)まとめ、6/8拍子				事前:保育の中にリズムをどう取り入れるか考える(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
11回	劇あそびのBGM作り(1)見本の劇あそびを演じ演奏してみる				事前:台本を読んでもらう(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
12回	劇あそびのBGM作り(2)台本作り				事前:劇あそびについて調べる(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
13回	劇あそびのBGM作り(3)打楽器を使いBGM作り				事前:BGM作り(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				
14回	劇あそびのBGM作り(4)鍵盤楽器を使いBGM作り				事前:BGM作り(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)				

15回	劇あそびのBGM作り(5)劇あそびとBGM発表会	事前:劇あそびとBGMの練習(0.5h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(0.5h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 「保育者をめざす 楽しい音楽表現」圭文社 植田光子他監修(2017)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	10%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスパワー</p> <p>学習成果のフィードバック:課題学習の振り返りは授業の中で講評します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
受講生へのメッセージ	毎日の努力が成果へと繋がります。自宅練習を継続しましょう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育指導法	担当者	川勝泰介	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム 必修	ナンバリング	CS30206	資格等取得との関連				実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:子どもの言語表現活動としての劇活動の方法と実践</p> <p>到達目標①:子どもの豊かな言語表現活動を援助するための方法を理解する。</p> <p>到達目標②:子どもの言葉と表現力を育むために指導・援助するための材料の作り方とその工夫の仕方を学ぶ。</p> <p>到達目標③:保育材料の作り方とその指導方法の基本を修得する。</p>								
授業概要	<p>自分の感情や思考の伝達手段として言葉を使用できるのは人間のみである。社会の中で人と人が相互理解を深めていくために、人間の特徴である言葉をどのように使って、豊かなコミュニケーション力を育てていけばよいのかについて考えたい。そして保育の場で子どもたちと取り組む豊かな言語表現活動のあり方について、紙芝居や人形劇の活動を学生が経験し、豊かな言語表現活動を実践を通して保育材料の作り方とその指導方法について考える。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	△	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			
1回	オリエンテーション—授業概要と学習の仕方および評価方法について				事前:シラバスを読み、学習内容の概要を知る。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
2回	子どもの言語表現活動—「ことばと表現力を育む」とは				事前:テキストの10~15頁を読む。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
3回	子どもの言語表現活動に役立つ紙芝居について考える —物語完結型紙芝居と観客参加型紙芝居について				事前:テキストの144~150頁を読む。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
4回	紙芝居から遊びへ—紙芝居から生まれる表現遊び				事前:テキストの150~154頁を読む。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
5回	観客参加型紙芝居作りへの取り組み				事前:紙芝居作りのための構想を練る。(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
6回	観客参加型紙芝居の製作①箱書きを描く				事前:観客参加型紙芝居の準備(1h) 事後:箱書きから作品製作へ(1h)				
7回	観客参加型紙芝居の製作②作品製作				事前:作品製作のための下準備(1h) 事後:作品の完成(1h)				
8回	完成した紙芝居の発表と講評				事前:作品発表の準備と練習(1h) 事後:発表内容の振り返りとレポートのまとめ(1h)				
9回	子どもの言語表現活動としての人形劇とその種類 —グループ分けと脚本作りの方法・準備・打ち合わせ				事前:テキストの158~181頁を読む。(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
10回	人形劇の脚本作りへの取り組み①作品選びと脚本作成				事前:脚本作りのための準備(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
11回	人形劇の脚本作りへの取り組み②脚本の検討と完成				事前:脚本の内容点検(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
12回	人形劇の制作と実践①配役と人形作り				事前:人形制作のための準備(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
13回	人形劇の制作と実践②人形制作と完成				事前:人形完成のための準備(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				
14回	人形劇の制作と実践③人形の動かし方と演出の確認				事前:人形の動かし方の確認(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)				

15回	人形劇の発表と講評・評価反省	事前:発表の準備と練習(1h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(1h)																												
テキスト	川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』(萌文書林)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れている</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①					40%		到達目標②				40%			到達目標③			20%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①					40%																									
到達目標②				40%																										
到達目標③			20%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:毎回の授業の際に提出するカードに記入された質問や疑問を通して相談に乗るほか、オフィスアワーを活用して対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	ふだんからできるだけ多くの絵本や紙芝居・お話に触れ、どのような素材があるかや、どのような内容なのかについて知るように心がけておくこと。そのため、できるだけ図書館を活用し、おすすめ絵本や紙芝居などを探しておこう。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児の支援	担当者	小島佳子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修	ナンバリング	CS30207	資格等取得との関連	初級障がい者スポーツ:必修			実務経験	あり
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援について学ぶ</p> <p>到達目標①:様々な障がいについて、その特性や援助の方法を学ぶとともに自ら調べ学習に取り組み、グループでまとめ・発表することができる</p> <p>到達目標②:障がいの有無に関わらず、子ども同士の関わりを育み、共に育ち合うインクルーシブ保育・教育について事例を通して学び、考え合うことができる</p> <p>到達目標③:保護者・家族への支援や関係機関との連携について、具体的な支援や連携のあり方についてまとめることができる</p>								
授業概要	<p>公立保育所で統合保育を実践した経験の中から実践事例を紹介し、多様な視点から子どもの成長や関係性について学び、考える場を提供する。</p> <p>本授業では、「障害児保育」「特別支援教育」の基本的な理論や現状を学び、特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援、保護者支援、関係機関との連携等についての知識を修得する。また、「インクルーシブ保育・教育」の理念や歴史を理解し、保育の場で気づく子どもの発達上のつまずきや課題に対し、保育者としての視点から支援のあり方を考える。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>◎ ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション(授業の進め方等) 「なぜ障害児保育・特別支援教育を学ぶのか」について考える				事前:事前にシラバスに目を通し、内容を把握する(0.5H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)				
2回	「障がい」とは何か・「障がいがある」とは 「国際生活機能分類」を基に「日常生活の困難さ」について考える				事前:事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)				
3回	「障害児保育」・「特別支援教育」の基本 障がいのある子どもの保育・教育の場について考える				事前:事前にテキストを読んでおく(0.5H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)				
4回	「障害児保育」「特別支援教育」の制度と歴史的変遷 4回までの授業内容について、小テストを通して理解度を確認する				事前:小テストに取り組めるよう学習内容を復習する(1H) 事後:小テストの結果を振り返り、自己評価をする(0.5H)				
5回	障がいの理解と保育 ① グループ・ワーク、プレゼンテーション 身体障がいについて学ぶ(肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(1H) 事後:グループ・ワークを通してまとめ、発表の準備をする(1H)				
6回	障がいの理解と保育 ② グループ・ワーク、プレゼンテーション 知的障がいについて学ぶ(ダウン症など)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(1H) 事後:グループ・ワークを通してまとめ、発表の準備をする(1H)				
7回	障がいの理解と保育 ③ グループ・ワーク、プレゼンテーション 発達障がいについて学ぶ(自閉スペクトラム症)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(1H) 事後:グループ・ワークを通してまとめ、発表の準備をする(1H)				
8回	障がいの理解と保育 ④ グループ・ワーク、プレゼンテーション 発達障がいについて学ぶ(ADHD・LD)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(1H) 事後:グループ・ワークを通してまとめ、発表の準備をする(1H)				
9回	多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 (外国につながる子ども・子どもの貧困) 小テストを通して障がいの特性と支援について理解度を確認する				事前:小テストに取り組めるよう学習内容を復習する(1H) 事後:小テストの結果を振り返り、自己評価をする(0.5H)				
10回	インクルーシブ保育・教育 グループ・ワーク 合理的配慮や子ども同士の育ち合いを育む関わりについて学ぶ				事前:「合理的配慮」について調べ学習を行う(0.5H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)				

11回	障がいのある子どもに学ぶ保育実践 グループ・ワーク 発達をうながす生活や遊びの環境について事例検討をする	事前:事例を読み、検討課題についてまとめておく(0.5H) 事後:事例検討の学びを振り返り、各自のノートにまとめる(1H)																												
12回	子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価 個別の支援計画の作成について学ぶ	事前:事前にテキスト・配布資料を読んでおく(0.5H) 事後:個別の支援計画を作成、提出する(1H)																												
13回	保護者・家庭への支援 親や家族を理解することの大切さと支援のあり方を考える	事前:事前にテキスト・配布資料を読んでおく(0.5H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)																												
14回	家庭、職員間、関係機関との連携 事例を通して連携と協働の重要性について考える	事前:県内の子どもの支援に関わる機関について調べる(1H) 事後:テキストと資料を参考に各自のノートにまとめる(1H)																												
15回	現状と課題を踏まえ、学習した内容の振り返りとまとめ 小テストを通して学習内容の理解度を確認する	事前:小テストに取り組めるよう、学習内容を復習する(1H) 事後:小テストの結果を振り返り、自己評価をする(0.5H)、																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	前田泰弘 編著 『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』 萌文書林 (2019)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・小テスト、提出物等については、記述内容の質・量ともに評価する ・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を評価する ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①		20%	10%	10%			到達目標②		20%	5%		5%		到達目標③		20%	5%		5%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①		20%	10%	10%																										
到達目標②		20%	5%		5%																									
到達目標③		20%	5%		5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付けます 学習成果のフィードバック: 小テストやワークシート等は授業の中で後日返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	今年度は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されています。パラリンピック出場選手や障がいの特性を活かした競技内容等に関心を向けて、貴重な学びの機会にしてください。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	担当者	鈴木壽眞子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修	ナンバリング	CS30208	資格等取得との関連	児童厚生員2級:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:児童館・児童クラブの来館者に対する児童館と児童厚生員の役割を理解する</p> <p>到達目標①:児童厚生員として、児童健全育成を柱とした活動の意味を理解し、活動を企画することができる。</p> <p>到達目標②:児童健全育成を柱として、個別的集団的な実践ができるようにする</p> <p>到達目標③:児童厚生員として必要である使命感や責任感について学び、実践に役立てようとする。</p>								
授業概要	<p>児童館において勤務する児童厚生員として、児童館の運営に必要な知識や技能を学ぶとともに児童厚生員としての使命感や責任感を身につける。また、実践事例から学び、自ら活動を企画し実践し、実際の運営に関わる力を身につける。児童厚生委員として、子どもの育ちや家庭の状況、地域の人々との連携などの課題に気づき、向き合おうなど、実践能力と応用力を身につける。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	○	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している							
	△	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 事業計画等について 児童館とは 児童館の機能・役割・運営について					事前:テキストP.111~P.125を読む(0.5) 事後:資料を通しての振り返り			
2回	児童館に関する法令、児童厚生事業について 児童福祉法・児童福祉施設の運営等に関する法令					事前:テキストP.90~P.92までを読む(0.5h) 事後:資料やテキストを通しての振り返り(0.5h)			
3回	小型児童館と大型児童館の違い 児童館の設置運営について(児童館の設置運営要綱)					事前:テキストP.93~P.105までを読む(1h) 事後:資料、テキストを読み返し、振り返りをする(0.5h)			
4回	児童館における援助技術 児童館ガイドラインから					事前:テキストP.55~P.64を読む(0.5h) 事後:資料を通しての振り返り(0.5h)			
5回	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の理解 児童館内における放課後児童クラブの活動について					事前:テキストのP.41~P.45を読む(0.5h) 事後:資料を通しての振り返り			
6回	児童健全育成事業の実際 市町村における子育て支援事業の事例					事前:地域の子育て支援について調べる(1h) 事後:資料を見直す(0.5h)			
7回	児童を対象とした遊びの指導法 遊びのプログラムの立案					小テスト	事前:テキストP.30~P.34を読む(0.5h) 事後:立案したプログラムの見直しをする(0.5h)		
8回	乳幼児と保護者に応じた遊びと指導法 親子遊びの計画作成					事前:テキストP.35~P.40を読む(0.5h) 事後:遊びの計画書を見直す			
9回	地域における子育て環境づくり 遊びの紹介と実践					事前:テキストP.61~P.63を読む(0.5h) 事後:計画、実践を振り返る(0.5h)			
10回	児童館とボランティア ボランティアの役割と管理					事前:テキストP.69~P.73を読む(0.5h) 事後:資料を読み返し、振り返りをする(0.5h)			
11回	児童館における地域との連携と活性化 実践事例の紹介					事前:資料を読む(0.5h) 事後:授業を振り返り、気付いた点をまとめる(0.5h)			
12回	児童厚生員に求められる役割 プレイヤーとソーシャルワーカー					事前:テキストP.75~P.85を読む(0.5h) 事後:資料やテキストを通しての振り返り			
13回	放課後児童クラブの事例と解説 事例検討					小テスト	事前:資料を読む(0.5) 事後:小テストの内容を見直す(0.5h)		
14回	放課後児童クラブの活動事例と解説 事例検討					事前:資料を読む(0.5h) 事後:思慮を通しての振り返り(0.5h)			

15回	これからの児童館と児童クラブ 子どもの健全育成と未来の児童館	事前:資料を読む(0.5h) 事後:資料を通しての振り返り(0.5h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	児童館論 児童館・放課後児童クラブ テキストシリーズ						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・ 到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①		30%	10%		10%	
	到達目標②		20%	10%	10%		
	到達目標③				10%		
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:授業終了前後教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける 学習成果のフィードバック:小テストやレポートは、授業の中で後日返却します						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
受講生へのメッセージ	地域社会の中で、「子どもたちが健全に育って行けるよう」願いをもって学んでいきましょう						

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい者スポーツ	担当者	田村禎章	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS30210	資格等取得との関連	初級障がい者スポーツ:必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ:</p> <p>到達目標①:障がい者スポーツ指導員が身に付けるべき知識・実技能力について理解する</p> <p>到達目標②:障がい者スポーツ指導と支援に関する思考・判断力を身につける</p> <p>到達目標③:障がい者スポーツについて理解でき、障がい児・者に応じたスポーツ実技が実践できる</p>								
授業概要	<p>本授業は、障がい者スポーツ指導員の資格必修授業として実施する。主に外部講師を招き、または障がい者スポーツ実技の実際を学ぶフィールドワークを中心に設計する。様々な障がい特性に応じたスポーツの喜び、楽しさなどの価値観を共有し、障がいのある方もない方も楽しめるスポーツ・レクリエーションの指導方法について、体験的に学ぶ</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	△	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	障がい者スポーツ指導の意義と理念				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
2回	障がいのある人との交流(1) ～障がいのある方とのスポーツ交流～				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
3回	障がいのある人との交流(2) ～障がいのある方の理解とスポーツの楽しさ～				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
4回	障がいスポーツ推進の取り組み ～障がい者スポーツ推進施策と現状について～ ～障がい者スポーツ協会資格認定制度の概要～				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
5回	全国障がい者スポーツ大会の概要				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
6回	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(1) ～指導上の注意、障がいに応じたスポーツの実際～				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
7回	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(2) ～障がい者スポーツの実際、模擬体験、障がい者スポーツプログラムの企画・立案・発表～				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
8回	障がい者スポーツ指導 【事後指導】				事前:テキストの該当箇所を熟読し理解しておく(0.5h) 事後:レクリエーション体験の内容を振り返る(1h)				
テキスト	・『障害のある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応』日本障がい者スポーツ協会(2020)								
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・適宜、配布をします								

授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評 価	評価方法・ 到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			10%		20%	
	到達目標②			10%		20%	
	到達目標③				20%	20%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入れていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後やオフィスアワー(水曜日:昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 <p>学習成果のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート等の効果測定は随時実施します。また定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。 						
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
受講生へのメッ セージ	外部講師や学外へ授業に出向く機会が多くなります。出欠席や交通安全に留意をして授業に臨むようにしましょう。オリエンテーションで詳細に説明をします。						

科目区分	専門教育科目	科目名	基礎ゼミナールⅠ	担当者	川勝泰介・平松喜代江・ 桂山たかみ・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40101	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎を身につける</p> <p>到達目標①:少人数での活動を通し、様々な授業で学んだ知識・技能を応用的に活用できる</p> <p>到達目標②:主体的に学んでいくための土台を形成し修得する</p> <p>到達目標③:専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得する</p>								
授業概要	<p>本ゼミナールでは、保育専門職を目指す大学生として、一方ではさまざまな授業で学んだ知識・技能を応用的・実践的に活用するための基礎となる能力を身につけることを目指し、ゼミナールごとの製作活動や、外部の講師を招いた保育教材体験を行う。他方では文献を用いた輪読や、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。これらの実践をととして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力を身につける。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
2回	学生生活の意義					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
3回	ゼミ間交流:レクリエーション					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
4回	ゼミ別:近況報告の作成					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
5回	ミニ壁面構成づくり:準備・計画					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
6回	ミニ壁面構成づくり:製作					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
7回	ゼミ別:文献検討(検索方法と実践)					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
8回	ゼミ別:文献検討(輪読と要約)					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
9回	保育教材体験:バルーンアート					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
10回	保育教材体験:園外保育					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
11回	保育教材体験の振り返り					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
12回	ゼミ別:文献検討(討議)					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			
13回	ゼミ別:文献検討(発表)					事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)			

14回	ゼミ別:振り返り	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)					
15回	振り返りとまとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本日の取り組みをまとめる(1h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	資料を授業内で適宜配布する						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%		20%	
	到達目標②			10%		10%	
	到達目標③			20%		20%	
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
受講生へのメッセージ	・課題・レポートは、提出された分量・内容から評価 ・参加意欲・授業貢献は、積極的な発言など授業に対する取り組みを中心に評価						

科目区分	専門教育科目	科目名	基礎ゼミナールⅡ	担当者	川勝泰介・平松喜代江・ 桂山たかみ・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	Ⅰ年 後期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40102	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：実践をととして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎をさらに身につける</p> <p>到達目標①：少人数での活動および模擬保育によって、これまで学んだ知識・技能を応用的に活用できる</p> <p>到達目標②：複数回の実践をととし、主体的に学んでいくための土台をさらに形成し修得する</p> <p>到達目標③：専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得する</p>								
授業概要	<p>本ゼミナールでは、様々な授業での学びや体験を参考に、より実践的な手法によって模擬保育を行う。模擬保育に向けて、少人数での計画や準備の段階及び受講者全体を対象とした実践、そしてその振り返りを行う。</p> <p>これまでに体得した知識・技能の応用的・実践的活用の機会、また自身の省察の機会としながら、同時に同僚性やチーム保育のための基盤となるコミュニケーション力のさらなる育成を図る。また、これらの実践をととして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力をさらに身につける。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。								
	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。								
	◎ ③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。								
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本日の取り組みをまとめる(1h)				
2回	模擬保育の内容検討①				事前：模擬保育の内容を考える(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
3回	模擬保育の指導計画作成①				事前：模擬保育の計画を考える(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
4回	模擬保育の準備①				事前：模擬保育の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
5回	模擬保育の実践①(前半チーム)				事前：模擬保育実践の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育実践の振り返りをする(1h)				
6回	模擬保育の実践①(後半チーム)				事前：模擬保育実践の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育実践の振り返りをする(1h)				
7回	模擬保育の振り返り①				事前：模擬保育実践の振り返りをする(0.5h) 事後：実践のまとめをする(1h)				
8回	模擬保育の内容検討②				事前：模擬保育の内容を考える(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
9回	模擬保育の指導計画作成②				事前：模擬保育の計画を考える(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
10回	模擬保育の準備②				事前：模擬保育の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育の準備をする(1h)				
11回	模擬保育の実践②(前半チーム)				事前：模擬保育実践の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育実践の振り返りをする(1h)				
12回	模擬保育の実践②(後半チーム)				事前：模擬保育実践の準備をする(0.5h) 事後：模擬保育実践の振り返りをする(1h)				

13回	模擬保育の振り返り②	事前: 模擬保育実践の振り返りをする(0.5h) 事後: 実践のまとめをする(1h)					
14回	保育教材体験:マジック	事前: 担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後: 本日の取り組みをまとめる(1h)					
15回	振り返りとまとめ	事前: 振り返りをする(0.5h) 事後: 振り返りをまとめる(1h)					
16回		事前: 事後:					
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%		20%	
	到達目標②			10%		10%	
	到達目標③			20%		20%	
	ルーブリック評価: 取り入れている・取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
受講生へのメッセージ	・課題・レポートは、提出された分量・内容から評価 ・参加意欲・授業貢献は、積極的な発言など授業に対する取り組みを中心に評価						

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナール I	担当者	安藤恭子・平松喜代江・ 桂山たかみ・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40201	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要な専門性について実践的に理解する 到達目標①:テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返し実践できる 到達目標②:専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる 到達目標③:保育専門職として必要な専門的知識を修得する								
授業概要	本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に対する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。 ② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。 ◎ ③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。 ◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	全体オリエンテーション				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
2回	担当教員によるオリエンテーション				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
3回	実践Iにおける計画				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
4回	実践Iにおける準備・教材作成				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
5回	実践I				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
6回	実践Iの振り返り				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
7回	実践2における計画				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
8回	実践2における準備・教材作成				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
9回	実践2				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
10回	実践2の振り返り				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
11回	実践3における計画				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
12回	実践3における準備・教材作成				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				
13回	実践3				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)				

14回	実践3の振り返り	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)																												
15回	まとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと次回の活動の準備をする(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト																														
参考書・参考資料・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	20%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	20%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅡ	担当者	安藤恭子・平松喜代江・ 桂山たかみ・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40202	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要なとされる専門性についてさらに理解を深める</p> <p>到達目標①:専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める</p> <p>到達目標②:専門職として必要とされる「研究力」について、発表・討論等を通じて実践的に学ぶ</p> <p>到達目標③:</p>								
授業概要	<p>専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>◎ ③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	全体オリエンテーション				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)				
2回	担当教員によるオリエンテーション				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)				
3回	成果レポートの作成準備①(ゼミ内討論、方向性の確認)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:指導をもとに成果レポートをまとめる(1h)				
4回	成果レポートの作成準備②(ゼミ内討論、序論下書き作成)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
5回	成果レポートの作成準備③(ゼミ内討論、本文下書き作成)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
6回	成果レポートの作成準備④(ゼミ内討論、結論下書き作成)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
7回	成果レポート中間報告				事前:発表に向けての準備をする(0.5h) 事後:発表の振り返りをする(1h)				
8回	成果レポートの執筆①(序論)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
9回	成果レポートの執筆②(本論)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
10回	成果レポートの執筆③(結論)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
11回	成果レポートの執筆④(遂行)				事前:成果レポートの準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)				
12回	成果発表会にむけての準備				事前:成果発表に向けての準備をする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の準備をする(1h)				
13回	成果発表会				事前:成果発表に向けての準備をする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)				
14回	成果発表会の振り返り				事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)				

15回	第15回:1年間のまとめと振り返り	事前:1年間のまとめを振り返る(0.5h) 事後:1年間のまとめをする(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト																														
参考書・参考資料・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>テキスト:『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			30%		20%		到達目標②			30%		20%		到達目標③						
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			30%		20%																									
到達目標②			30%		20%																									
到達目標③																														
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	<p>・受講姿勢は、成果レポートの作成を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・成果レポートは、文量やレポート内容の理解度をもとに評価します。</p>																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育・教職実践演習	担当者	安藤恭子・伊藤康明 平松喜代江・桂山たかみ 松本亜香里・田村禎章 伊藤喬治・大矢知佳	開講 時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40203	資格等取得との 関連	幼稚園:必修・保育士:必修			実務経験	あり
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:幼児教育者あるいは保育者として、保育内容にかかわる理解を深めるとともに受講者の指導力向上を図る。</p> <p>到達目標①:ひとりの社会人及び教育・保育の専門職としての使命感、常に学び続ける意欲を持つことができる。</p> <p>到達目標②:組織の一員としての自覚を持ち、職責・職務の遂行に向けた適切な発言と良好な人間関係を形成できる。</p> <p>到達目標③:子どもの心身の発達、安全に配慮した実践をすることができる。</p> <p>到達目標④:これまでの学びや学外実習等の経験をもとに、一人ひとりの子どもの特性や状況に配慮した指導法の工夫及び自己の実践に対する評価・改善に取り組むことができる。</p>								
授業概要	<p>2年間の学び、あるいは学外実習で得られた専門的な知識及び技術について、学内でのディスカッション、あるいは保育現場での実践を通じて、再確認するとともに、幼児教育者あるいは保育者として必要とされる使命感、社会性、責任感、子どもに対する理解などを深めることを目的とする。また、外部講師からの講話や各現場でのフィールドワーク、実践を通じて理解を深め、受講生の幼児教育者あるいは保育者としての指導力向上に資することをねらいとする。なお本科目は小学校教員として、さらに岐阜県内公立小学校校長としての実務経験を有する教員(安藤恭子)により保育現場の実態に即して、教職のあり方について理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	<p>① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。</p> <p>② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。</p> <p>◎ ③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	イントロダクション				事前:履修カルテを利用してこれまでの振り返り(1H) 事後:学習内容の振り返りとまとめ(1H)				
2回	グループ討議(保育内容の指導上の能力について)				事前:グループ討議の内容をまとめる(1H) 事後:討議の内容をまとめて、振り返る(1H)				
3回	効果的な指導案の作成について(現場園長からの特別講義)				事前:これまでの指導実習を振り返る(1H) 事後:特別講演を拝聴してのまとめと振り返り(1H)				
4回	幼児教育者として求められる資質(使命感・責任感、こども理解等)の調査①(フィールドワーク)				事前:調査に向けての事前調査をする(1H) 事後:成果内容についてまとめ、振り返る(1H)				
5回	幼児教育者として求められる資質(対人関係能力)の調査②(フィールドワーク)				事前:調査に向けての事前調査をする(1H) 事後:成果内容についてまとめ、振り返る(1H)				
6回	幼児教育者として求められる資質(こども理解)の調査③(フィールドワーク)				事前:調査に向けての事前調査をする(1H) 事後:成果内容についてまとめ、振り返る(1H)				
7回	フィールドワークのまとめ				事前:これまでの学習を小括する(1H) 事後:これからの学習のあり方を検討する(1H)				
8回	フィールドワークでの成果発表と総括(現場からのコメント)				事前:発表にむけての準備をする(1H) 事後:発表後の振り返りをする(1H)				
9回	模擬保育にむけての準備①(「模擬保育」での内容の検討)				事前:指導案作成等の下準備をする(1H) 事後:不足分について学習する(1H)				
10回	模擬保育にむけての準備②(「模擬保育」での指導案作成・検討)				事前:指導案作成等の準備をする(1H) 事後:不足分について学習する(1H)				
11回	模擬保育にむけての準備③(教師を中心としたロールプレイング)				事前:指導案に基づき準備をする(1H) 事後:不足分について学習する(1H)				

12回	模擬保育にむけての準備④(幼児を中心としたロールプレイング)	事前:指導案に基づき準備をする(1H) 事後:不足分について学習する(1H)																																							
13回	模擬保育の実施①(使命感・責任感・対人関係能力を視点として)	事前:指導案に基づき準備をする(1H) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1H)																																							
14回	模擬保育の実施②(こども理解を視点として)	事前:指導案に基づき準備をする(1H) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1H)																																							
15回	総括	事前:半期分の学習について振り返りをする(1H) 事後:今後を含めて、まとめをする(1H)																																							
テキスト																																									
参考書・参考資料・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>資料については必要に応じて授業時に配布する。</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館</p> <p>『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館</p>																																								
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標④</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>授業記録、課題、レポートの提出物は、内容と分量・提出期限から評価</p> <p>研究保育は事前の指導案作成や指導、事後における指導や課題提出を含めて評価</p> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<u>取り入れていない</u></p>						評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%				到達目標②			20%				到達目標③			20%				到達目標④			10%	30%		
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																																			
到達目標①			20%																																						
到達目標②			20%																																						
到達目標③			20%																																						
到達目標④			10%	30%																																					
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:</p> <p>オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは各教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。</p> <p>学習成果のフィードバック:</p> <p>試験結果、各種課題の返却については授業時間にて指示します。</p>																																								
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:教育実践に関する科目/教職実践演習</p> <p>保育士:総合演習/保育実践演習</p>																																								
受講生へのメッセージ																																									

科目区分	専門教育科目	科目名	地域ボランティア実践	担当者	田村禎章・伊藤康明・ 大矢知佳	開講時期	1年 通年	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS50101	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ： 到達目標①：ボランティアの基本である他人への「思いやり」や「つながり」の意義について、実践を通して理解する。 到達目標②：ボランティア精神に基づく地域との関わり方に触れるなかで、ボランティア活動について意欲と関心をもつ。 到達目標③：地域におけるボランティア活動が子どもや市民の生活にもたらす理解を深める。</p>								
授業概要	<p>現代社会においてボランティア活動の重要性が増大してきている。私たちの社会が少子高齢社会となり、特に地域に密着したボランティア活動の意義はますます重要なものとなってきている。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動を実践することを通じて、地域の状況を知るとともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のさらなるコミュニケーション能力の伸長を図る。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション、ボランティア活動の理念 『ボランティアカルテ』について記録する				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
2回	ボランティアの基礎知識と地域との関わり				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
3回	ボランティア活動の実践①(現場での見学) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
4回	ボランティア活動の実践②(現場での参加) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
5回	ボランティア活動に参加した報告会				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
6回	ボランティアプログラムの作成①(企画・内容の検討)				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
7回	ボランティアプログラムの作成②(実践案の作成)				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
8回	ボランティアイベントの準備①(教材の選定) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
9回	ボランティアイベントの準備②(教材の作成) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
10回	ボランティアイベントの準備③(リハーサル、段取りの確認) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
11回	ボランティアイベントの実施①(導入) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
12回	ボランティアイベントの実施②(展開) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
13回	ボランティアイベントの実施③(まとめ) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				
14回	ボランティアイベントの反省・総括				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)				

15回	まとめ グループ別による活動成果を発表する	事前:ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(1h)					
16回	定期試験(振り返りレポート提出)						
テキスト	・適宜授業資料を準備する ・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・適宜、授業で紹介をする。						
授業の評価 方法・基準、 ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①					30%	
	到達目標②			20%	20%		
	到達目標③			20%	10%		
	ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入れていない						
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談 ・授業後やオフィスアワー(水曜日:昼休み)にて受け付ける。また放課後等にて事前に予約をいただければ個別対応します。 学習成果のフィードバック ・レポート等の効果測定は随時実施します。また定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目						
受講生へのメッセージ	地域ボランティア活動に、自主的・自律的に臨む機会を大切にしてほしい。学生生活の中で貴重な地域でのボランティア実践に勇気をもってチャレンジをしてほしい。						

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習 事前事後指導	担当者	松本亜香里・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS50102	資格等取得との関連	幼稚園：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：幼稚園教諭としての基本的資質を身につける</p> <p>到達目標①：幼稚園教育実習に向けた書類の作成方法や社会でのマナーを身につけることができる</p> <p>到達目標②：幼稚園教諭としての役割を理解し、専門性の向上に向けて自己課題を設定することができる</p> <p>到達目標③：幼稚園教育実習を通じて、幼稚園教育および教諭について学習し、実践へつなげることができる</p>								
授業概要	<p>教育実習の意義と幼稚園や子どもへの理解を深め、大学で得た理論や技術を教育実習の場で活用するために必要となる事柄について学修する。また、実習に際して必要となる準備やマナー、記録の取り方や、子どもや教職員とのコミュニケーションについて理解し、幼稚園教諭としての資質を身につける。実習後には、経験を記録等から振り返り、気づきや学びを記録に残したり共有したりすることで、次の実習に向けた自己の課題を明らかにする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	教育実習への心構え				事前：自分の出身園（幼稚園・保育所）を確認しておく（0.5h） 事後：学外実習に関する調査書を記入する（1h）				
2回	教育実習の概要と意義				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第3章を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（1h）				
3回	教育実習の流れと諸手続き				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章-4.5.6.7.8を読む（0.5h） 事後：学外実習先に関する希望調査書を記入する（1h）				
4回	幼稚園教育と幼児の理解、実習用名札の作成				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章-1.2を読む（0.5h） 事後：学外実習用の名札を作成する（1h）				
5回	教育実習に向けた面談・作成した名札の披露				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章 4.5.6.7.8を読む（0.5h） 事後：名札の修整（1h）				
6回	教育実習に向けた面談・作成した名札の披露				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章 4.5.6.7.8を読む（0.5h） 事後：名札の修整（1h）				
7回	観察実習の方法と実習記録の意義				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章-5を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（1h）				
8回	実習記録の作成と文章表現				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第3章-5を読む（0.5h） 事後：講義内で配布された実習記録の修正を行う（1h）				
9回	参加実習の方法と記録の関連性				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第3章-5.6を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（1h）				
10回	指導案の意義と作成方法				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第3章-4を読む（0.5h） 事後：講義時に指示する（1h）				
11回	必要書類の作成と実習先発表・オリエンテーションの受け方				事前：『成長し続ける教育・保育実習』第2章-6.8を読む（0.5h） 事後：提出期限内に必要な書類を作成し提出する。オリエンテーションでの質問事項をまとめておく（1h）				

12回	課題の明確化と教育実習の計画	事前:教育実習で学びたい事項を具体的に考えておく(0.5h) 事後:実習計画書を作成する(1h)																												
13回	課題の明確化と教育実習の計画の共有	事前:計画書に対し実習期間中の日々の計画を立てる(0.5h) 事後:計画書の見直しと修正(1h)																												
14回	教育実習事後指導(1)自己評価、抱負と課題から	事前:幼稚園教育実習Iでの学びを振り返る(0.5h) 事後:自己評価と他者評価から、教育実習IIの課題を設定する(1h)																												
15回	教育実習事後指導(2)今後に向けての課題	事前:設定した課題に対し、幼稚園教育実習IIでの学びを振り返る(0.5h) 事後:教育実習全体を通じて、自分が思い描く教諭像を明確にするとともに、目標達成への課題設定を行う(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』浦田雅夫編著 教育情報出版(2020) 『新保育ライブラリ幼稚園教育実習』民秋言、安藤和彦他編著 北大路書房(2020)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2018)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ノートや課題、教材等の提出物は、質・量の両面から判断するとともに、期限内に提出されること。 ・学外実習の内規に定める事項に該当する者には実習への参加を認めない。 ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			40%		20%		到達目標②			10%		20%		到達目標③			10%			
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			40%		20%																									
到達目標②			10%		20%																									
到達目標③			10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:火曜 12:40~13:10 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習 保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	実習5か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ保育者を目指す者として「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導 I	担当者	平松喜代江・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	1・2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS50103	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：「保育実習」を通じて、「保育士」として必要となる専門性を学ぶ</p> <p>到達目標①：実習に必要な心構え等を学び、実習につなげることができる</p> <p>到達目標②：実習に必要な記録の書き方等を学び、実習では記録を通じて子どもや保育について省察することができる</p> <p>到達目標③：保育士として必要な職業倫理等を学び、日頃から自覚をもって行動することができる</p>								
授業概要	<p><保育所></p> <p>保育所での保育実習前には、実習に向けた自己課題を明確にし、保育所の特性や保育士の仕事、保育所実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方を授業の中で学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p> <p><施設></p> <p>施設での実習前には、実習に向けた自己の課題を明確にし、施設の特性や施設保育士の仕事、施設実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方の実際を学ぶ。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務についても学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、施設の特性や施設保育士の仕事、子どもや児童についての理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習			
1回	オリエンテーション				事前：前期の教育実習事前事後指導を受けて、幼稚園と保育所とこども園について復習する(1h) 事後：講義時に指示された書類を作成する(0.5h)				
2回	保育実習の概要と意義				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章1節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
3回	保育実習の流れと諸手続き				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第6章を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
4回	保育実習生としての心構え				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章3節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
5回	実習に向けた書類作成(1) 個人票・誓約書他				事前：1年前期に下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後：必要書類作成(1h)				
6回	保育実習と乳幼児の理解				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第5章2節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
7回	保育実習の内容(観察・参加・責任実習)				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第7章2節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
8回	実習日誌の書き方(子どもの姿・ねらい・活動・記録)				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第8章を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
9回	指導計画書の作成意義と書き方				事前：『考え、実践する教育・保育実習』第7章4節を読む(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
10回	実習に向けた自己課題の設定と実習への抱負				事前：実習園について保育方針や保育課程を調べておく(0.5h) 事後：講義時に指示する(1h)				
11回	実習に向けた書類作成(2) 実習計画書				事前：自己課題と実習への抱負をまとめておく(0.5h) 事後：実習計画書の下書きする(1h)				

12回	オリエンテーションの意義と受け方	事前:『考え、実践する教育・保育実習』第6章1節を読む(1h) 事後:実習先へオリエンテーションのアポイントをとる(0.5h)					
13回	実習指導(保育所)のまとめ	事前:実習指導ノートをまとめ復習しておく(1h) 事後:実習前の準備について確認する(0.5h)					
14回	保育所実習事後指導(1)自己評価、抱負と課題から	事前:保育所実習を振り返り感想をまとめる(1h) 事後:配布されたシートを記入する(0.5h)					
15回	保育所実習事後指導(2)グループ討議と今後に向けての課題	事前:グループ討議に向けて実習園の保育の特徴や子どもや保育士から学んだことをまとめておく(1h) 事後:保育実習Ⅱに向けて今後の課題をまとめる(0.5h)					
16回	施設実習の意義と実習先の選定	事前:『施設実習』第1章レッスン1・2を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
17回	施設実習先の理解(1)乳児院	事前:『施設実習』第2章レッスン5を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
18回	施設実習先の理解(2)児童養護施設	事前:『施設実習』第2章レッスン5を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
19回	施設実習先の理解(3)知的障害児・者施設	事前:『施設実習』第2章レッスン8を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
20回	施設実習への心構え	事前:『施設実習』第1章レッスン3・4を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
21回	施設実習に向けての書類作成	事前:下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後:必要書類作成(1h)					
22回	施設実習の内容(1)観察・参加実習	事前:『施設実習』第3章レッスン11を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
23回	施設実習の内容(2)責任実習	事前:『施設実習』第3章レッスン12を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
24回	施設実習における留意事項	事前:『施設実習』第3章を読み返す(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)					
25回	施設実習における記録の書き方(1)子どもの理解	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:記録の書き方をもとに書いてみる(1h)					
26回	施設実習における記録の書き方(2)保育士の動き	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:記録の書き方をもとに書いてみる(1h)					
27回	施設実習における指導計画案作成について	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:指導案を立案してみる(1h)					
28回	施設実習事後指導(1)実習報告書の作成	事前:施設実習を振り返り感想をまとめる(0.5h) 事後:配布された報告書を記入する(1h)					
29回	施設実習事後指導(2)実習評価に基づく振り返り	事前:施設実習を振り返り自己評価を行う(0.5h) 事後:実習評価から自己課題を見つめる(1h)					
30回	施設実習事後指導(3)保育者としての自己課題	事前:実習評価から自己課題をまとめる(0.5h) 事後:今後の課題をまとめる(1h)					
テキスト	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2018) 『施設実習』立花直樹編著、ミネルヴァ書房(2019)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011)						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①			20%		20%	
	到達目標②			10%		10%	

	到達目標③		20%	20%	
	<p>ノートや課題等の提出物は、期限内に提出ことを前提とし、質・量の両面から判断する</p> <p>取り組み姿勢は、授業の参加度から評価する</p> <p>なお、学外実習の内規に定める事項に該当する者には実習への参加を認めない</p> <p>ループリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>				
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談:火曜 12:40~13:10</p> <p>学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。</p>				
法令等に定め られた授業科 目に含める必 要事項	<p>保育士:保育実習/保育実習指導 I</p>				
受講生へのメ ッセージ	<p>実習5か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ保育者を目指す者として「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。</p>				

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習 I	担当者	松本亜香里	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	実習 I 単位
卒業要件		ナンバリング	CS50104	資格等取得との関連	幼稚園：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：幼稚園教諭として必要とされる基礎的知識・技術について実践的に考える</p> <p>到達目標①：幼稚園や幼稚園教育に関してイメージできる</p> <p>到達目標②：子どもの動きや遊びの様子など、観察を通じて学び、子どもの心情を考察することができる</p> <p>到達目標③：幼稚園教諭の役割等について、観察を通じて理解し幼稚園教育実習 II に向けて学びを構築することができる</p>								
授業概要	<p>大学での幼児教育に対する理論や技術を基盤として、1 年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの活動、遊びの姿、幼稚園教諭の役割を観察、あるいは保育活動に参加し記録を取りながら、「保育の展開と方法」、「保育の環境構成と整備」、「保育者の役割」について学修する。</p>								
ディプロマポリシー (DP) と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>1 年次 10 月下旬 1 週間</p> <p>・オリエンテーション、園の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習 (1 日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ)</p> <p>・参加実習 (幼児の理解、幼児の生活等、幼稚園教諭の補助的なかわりから学ぶ)</p>					<p>事前：幼稚園教育実習事前事後指導をとおして、教育実習に向けて自己課題を明確にする。</p> <p>また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について今後の実習に向けて自己学習や受講することにより修得する。</p>			
2 回						事前： 事後：			
3 回						事前： 事後：			
4 回						事前： 事後：			
5 回						事前： 事後：			
6 回						事前： 事後：			
7 回						事前： 事後：			
8 回						事前： 事後：			
9 回						事前： 事後：			
10 回						事前： 事後：			
11 回						事前： 事後：			
12 回						事前： 事後：			

13回		事前: 事後:																												
14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011) 『新 保育ライブラリ 幼稚園実習[新版]』民秋 言、安藤 和彦他(編著)北大路書房																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2018)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(実習先からの評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題や提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されることを基準とします 取り組み姿勢は、実習指導の内容が書類の内容や管理に反映されているかにより評価します ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)	到達目標①			10%		10%	10%	到達目標②			10%			30%	到達目標③			10%		10%	10%
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)																								
到達目標①			10%		10%	10%																								
到達目標②			10%			30%																								
到達目標③			10%		10%	10%																								
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:実習期間の前後に別に日程を定めます 学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝えます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習 保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	実習生として謙虚に、保育者として子どもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習 I	担当者	平松喜代江・松本亜香里・ 田村禎章・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 4単位
卒業要件		ナンバリング	CS50201	資格等取得との関連	保育士:必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:実習を通して、保育士として必要な知識・技術・マインドを学ぶ</p> <p>到達目標①:講義、演習などとおして基礎的な知識、技術について学んできたことを、保育所や児童福祉施設の実践に携わることによって、体験的に保育に必要な事項を考え、知識や技術の取得向上に結びつけることができる(保育所・施設)</p> <p>到達目標②:乳幼児の心身の発達や発育を理解し、実習先の保育方針や1日の生活の流れを踏まえて、保育士としてかかわることができる(保育所)</p> <p>到達目標③:社会的養護の現状を理解し、施設を利用する子どもたちの特徴を踏まえて、施設保育士としてかかわることができる(施設)</p>								
授業概要	<p>【保育実習 I (保育所)】</p> <p>大学において学習した理論や技術をもとに、保育所において乳幼児や職員と直接触れ合う体験を通して、保育の基本的な有り様の理解を目標とする。保育実習 I では、主に「乳幼児の理解と関わり」「保育所の特性」「保育の計画と準備」について、観察実習、参加実習、部分実習において学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p> <p>【保育実習 I (施設)】</p> <p>保育所以外の児童福祉施設等における養護や自立支援の実際について現場での実習を通して体験的に学ぶ。施設の目的・機能を理解し、適切な援助方法を学ぶ。様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。子どもの言葉や行動を観察し、観察内容を適切に考察し、実習記録の書き方を学ぶ。以上の事柄とおして、施設保育士の倫理・職務等について理解し、必要な資質・能力・技術を習得し、必要とされる能力を養う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	<p>以下の点について実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p><保育所></p> <p>1年次2月 保育所における実習 おおむね10日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習(実習1日目～3日目) <ul style="list-style-type: none"> → 1日のクラスの流れ、乳幼児の活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ ・参加実習(実習4日目～8日目) <ul style="list-style-type: none"> → 乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかわりから学ぶ ・責任実習(実習9日目～10日目) <ul style="list-style-type: none"> → 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する <p><施設></p> <p>2年次8・9月 保育所以外の児童福祉施設等 おおむね10日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 ・観察実習(実習1日目～3日目) <ul style="list-style-type: none"> → 一日の流れ、子どもの生活について観察を通して学ぶ ・参加実習(実習4日目～7日目) <ul style="list-style-type: none"> → 施設を利用する子どもたちの理解、施設保育士の補助的なかわりから学ぶ ・指導実習(実習8日目～9日目) <ul style="list-style-type: none"> → 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する 				<p><保育所></p> <p>事前:実習指導とおして、保育所実習に向けて自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について保育実習Ⅱに向けて自己学習や受講することにより修得する。</p> <p><施設></p> <p>事前:実習指導を通して、施設実習に向けて実習目標および自己課題を明確にする。施設から事前に課題が明らかとなった場合、早急に準備を進める。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、実習を振り返り、明確となった課題について自己学習や講義を受講することによって修得する。</p>				

2回																														
3回																														
4回																														
5回																														
6回																														
7回																														
8回																														
9回		:																												
10回																														
11回																														
12回																														
13回																														
14回																														
15回																														
16回																														
テキスト	『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館(2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2018) 『施設実習』立花直樹編著、ミネルヴァ書房(2019) 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編、みらい(2020)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(実習先からの評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>50%(保・施)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>25%(保育所)</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>25%(施設)</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題・提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されることを基準とします。また、実習指導の内容が書類の内容や管理に反映されているかにより評価します</p> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)	到達目標①			50%(保・施)				到達目標②						25%(保育所)	到達目標③						25%(施設)
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)																								
到達目標①			50%(保・施)																											
到達目標②						25%(保育所)																								
到達目標③						25%(施設)																								
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:実習期間の前後に別に日程を定めます</p> <p>学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝えます</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習 I																													
受講生へのメッセージ	実習生として謙虚に、保育者として子どもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します																													

科目区分	専門教育科目	科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	担当者	松本亜香里	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 3単位
卒業要件		ナンバリング	CS50202	資格等取得との関連	幼稚園：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：幼稚園教諭として必要な資質、なる知識・技術の修得をめざす</p> <p>到達目標①：子どもの姿や幼稚園教諭のあり方について理解を深め、実践することができる</p> <p>到達目標②：指導案の立案・実施について理解し実践することができる</p> <p>到達目標③：幼稚園教諭としての職業倫理について学び、自覚をもって行動することができる</p>								
授業概要	<p>幼稚園教育実習Ⅰでの学習を基盤として、2年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの動きや遊びへの関わり、幼稚園教諭の役割をさらに理解するため、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>2年次 6月 3週間</p> <p>第1週</p> <p>・オリエンテーション、園の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習（1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等）</p> <p>第2週</p> <p>・参加実習（遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解）</p> <p>第3週</p> <p>・参加実習（遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解）</p> <p>・責任実習（部分実習、半日実習、全日実習等、担当教諭に代わり、担当クラスにおける指導計画を立案、作成し、保育を実施する。）</p>				<p>事前：幼稚園教育実習Ⅰで明らかとなった自己課題について、準備または学習を深めておく。</p> <p>また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、教育実習全体を振り返り総合的に省察する。</p>				
2回					事前： 事後：				
3回					事前： 事後：				
4回					事前： 事後：				
5回					事前： 事後：				
6回					事前： 事後：				
7回					事前： 事後：				
8回					事前： 事後：				

9回		事前: 事後:																												
10回		事前: 事後:																												
11回		事前: 事後:																												
12回		事前: 事後:																												
13回		事前: 事後:																												
14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕、大橋喜美子、浦田雅夫編著 保育出版社(2011) 『新 保育ライブラリ 幼稚園実習[新版]』民秋 言、安藤 和彦他(編著)北大路書房																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館(2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館(2018)																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(実習先からの評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題や提出物は、質、量の両面から判断するとともに、期限内に提出されることを基準とします 取り組み姿勢は、実習指導の内容が書類の内容や管理に反映されているかにより評価します ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)	到達目標①			10%		10%	10%	到達目標②			10%			30%	到達目標③			10%		10%	10%
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)																								
到達目標①			10%		10%	10%																								
到達目標②			10%			30%																								
到達目標③			10%		10%	10%																								
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:実習期間の前後に別に日程を定めます 学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝えます																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習 保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
受講生へのメッセージ	実習生として謙虚に、保育者として子どもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅱ	担当者	松本亜香里・伊藤喬治・大矢知佳	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件		ナンバリング	CS50203	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の到達目標	<p>テーマ：保育について総合的に学ぶ。</p> <p>到達目標①：保育の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育について総合的にイメージすることができる。</p> <p>到達目標②：既習の教科や実習での経験を踏まえ、保育実践力を培い、実習に向けて活かすことができる。</p> <p>到達目標③：実習の事後指導を通して、実習の統括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。</p>								
授業概要	<p>保育実習Ⅱに向けて、新たな自己課題を立て、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。実習前には、保育実習Ⅰを振り返って、乳幼児の生活や遊びの姿、保育士の仕事や乳幼児に対する関わりなど保育実践の実際について整理する。記録や提出書類の書き方や教材研究の実際に加え、指導計画の立案準備をする。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と授業の対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 実習時期及び実習先の確認				事前：実習を希望する園を確認する。(0.5h) 事後：学外実習に関する調査書を記入する。(1h)				
2回	実践演習①(乳児を対象とした絵本の読み聞かせ)				事前：乳児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
3回	実践演習②(幼児を対象とした絵本の読み聞かせ)				事前：幼児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
4回	実践演習③(言葉がけの研究)				事前：これまでの実習を振り返り、言葉がけの課題を明確にしておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
5回	実習書類作成				事前：実習に必要な書類を確認しておく。(0.5h) 事後：実習に必要な書類を作成する。(1h)				
6回	実習計画書の作成				事前：これまでの実習から、自信の課題を明確にしておく。(0.5h) 事後：実習計画書を作成する。(1h)				
7回	実習日誌の書き方 —保育実習Ⅰをふまえて—				事前：これまでの実習の課題を明確にしておく。(0.5h) 事後：授業内容を復習する。(1h)				
8回	学外学習① 0・1・2歳児とのかかわり				事前：0・1・2歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
9回	学外学習② 3歳児とのかかわり				事前：3歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
10回	学外学習③ 4歳児とのかかわり				事前：4歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
11回	学外学習④ 5歳児とのかかわり				事前：5歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
12回	課題の確認と指導計画案の作成				事前：指導計画案の参考となる文献を用意する。(1h) 事後：指導計画案を作成する。(1h)				

13回	実習直前指導	事前:実習の日々の目標を明確にしておく。(0.5h) 事後:チェックリストを用いて実習の確認を行う。(1h)																												
14回	保育実習Ⅱ事後指導① 自己評価、抱負と課題から	事前:保育実習Ⅱでの学びを振り返る。(0.5h) 事後:保育実践における自身の課題を明確にする。(1h)																												
15回	保育実習Ⅱ事後指導② 全体のふり返り	事前:これまでの保育実習を振り返り、課題の設定と自己評価について検討しておく。(0.5h) 事後:今後の自身の目標を設定する。(1h)																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館(2018) 内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2018)																													
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて資料を配布する。																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入れていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			30%		10%		到達目標②			30%		10%		到達目標③			10%		10%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			30%		10%																									
到達目標②			30%		10%																									
到達目標③			10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 担当教員のオフィスアワーを確認すること 学習成果のフィードバック: ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ																													
受講生へのメッセージ	実習 5 か条の遵守および学外実習内規に順ずるため、謙虚にかつ保育者を目指す者としてふさわしい態度にて受講し、自己研鑽することを期待する。																													

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅱ	担当者	松本亜香里・伊藤喬治・ 大矢知佳	開講 時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS50204	資格等取得との 関連	保育士：必修 レクリエーション：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：保育士として必要な知識・技術・マインドについて実習を通して学ぶ。</p> <p>到達目標①：保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践をとおして理解を深め、イメージできる。</p> <p>到達目標②：保育及び保護者支援について既習の教科や実習をふまえ実践的に学ぶことで、子どもの観察やかかわりの視点を明確にできる。</p> <p>到達目標③：保育士としての自己課題を明確化できる。</p>								
授業概要	<p>保育実習Ⅰをもとに、その内容を深めながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育士の職務と役割」について、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>2年次 10月 2週間</p> <p>・オリエンテーション、園の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習(1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等、観察を通じて学ぶ)</p> <p>・参加実習(乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかわりから学ぶ)</p> <p>・責任実習(可能であれば責任実習もしくは部分実習を行う)</p>					<p>事前：これまでの実習と保育実習指導Ⅱをとおして、保育実習Ⅱに向けて自己課題を明確にしておく。実習に備え、保育教材の準備や練習を行う。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は、日誌の記入をもって行う。実習終了後の事後学習については、これまでの課題や今回の実習をふまえ、自己学習をすることにより修得する。</p>			
2回						事前： 事後：			
3回						事前： 事後：			
4回						事前： 事後：			
5回						事前： 事後：			
6回						事前： 事後：			
7回						事前： 事後：			
8回						事前： 事後：			
9回						事前： 事後：			
10回						事前： 事後：			

11回		事前: 事後:					
12回		事前: 事後:					
13回		事前: 事後:					
14回		事前: 事後:					
15回		事前: 事後:					
16回		事前: 事後:					
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館(2018) 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2018)						
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】						
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)
	到達目標①			10%		10%	10%
	到達目標②			10%			30%
	到達目標③			10%		10%	10%
	<p>・課題や提出物については、質・量の両面から判断するとともに、期限内に提出されることを基準とする。</p> <p>・取り組み姿勢については、実習指導の内容が書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。</p> <p>ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない</p>						
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める。</p> <p>学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。</p>						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ						
受講生へのメッセージ	実習生として謙虚に、保育者として子どもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。						

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅲ	担当者	平松喜代江・田村禎章	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS50205	資格等取得との関連	保育士:選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ:児童福祉施設(児童館、放課後児童館クラブ含)における保育について、総合的に学ぶ</p> <p>到達目標①:児童福祉施設(児童館、放課後児童館クラブ含)および児童厚生員の機能と役割を説明できる。</p> <p>到達目標②:乳幼児や児童、その保護者への関わり方を修得する。</p> <p>到達目標③:対象者にあわせた指導案を立案することができる。</p>								
授業概要	<p>保育実習Ⅲの新たな自己課題に向けて、援助計画を立てて養護の実際を実践する際に必要な児童厚生員としての資質・能力・技術が習得できるように、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。子どもの家族とのコミュニケーションや地域への理解・連携の方法を学ぶことを通して、子育て支援、保護者に対する支援への理解を基に保育実習Ⅰを通して学んだことをさらに理論化していく。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、児童厚生員の特性や業務についての理解を深める。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:参考書と配布レジユメを参考にノートをまとめる。(1h)				
2回	児童館・児童厚生員の役割				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:参考書と配布レジユメを参考にノートをまとめる。(1h)				
3回	実習の心構えと目的				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:参考書と配布レジユメを参考にノートをまとめる。(1h)				
4回	実習計画書および実習課題				事前:実習計画を考える(0.5h) 事後:実習計画書を読み返す(1h)				
5回	学外活動				事前:活動先の概要を調べる(0.5h) 事後:活動の振り返りをまとめる(1h)				
6回	外部講師 大型児童館の機能と役割、実践活動				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:講演の内容をノートにまとめる(1h)				
7回	夏期における大型児童館実習直前指導 実習に向けての準備				事前:実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後:実習において準備する(1h)				
8回	夏期における大型児童館実習の振り返り				事前:大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後:振り返りをもとにノートにまとめる(1h)				
9回	外部講師 地域児童館の機能と役割、実践活動				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:講演の内容をノートにまとめる(1h)				
10回	地域児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認				事前:実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後:実習計画書を読み返す(1h)				
11回	地域の児童館実習の振り返り				事前:児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後:振り返りをもとにノートにまとめる(1h)				
12回	外部講師 児童厚生員からみた地域子育て支援				事前:事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後:講演の内容をノートにまとめる(1h)				
13回	冬期における大型児童館直前指導 実習計画および課題の確認				事前:実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後:実習において準備する(1h)				
14回	冬期における地域の児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認				事前:実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後:実習計画書を読み返す(1h)				

15回	冬期における大型児童館および地域の児童館実習の振り返り	事前:大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後:振り返りをもとにノートにまとめる(1h)																																
16回		事前: 事後:																																
テキスト																																		
参考書・参考資料・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>参考書:花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』</p> <p>『児童館論』児童健全育成推進財団編集・発行(2015)</p> <p>『健全育成論』児童健全育成推進財団編集・発行(2014)</p> <p>『安全指導・安全管理』児童健全育成推進財団編集・発行(2017)</p>																																	
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>						評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			10%		20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																												
到達目標①			20%		10%																													
到達目標②			20%		20%																													
到達目標③			10%		20%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。</p>																																	
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ																																	
受講生へのメッセージ	実習5か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ児童厚生員を目指す者として子どもの手本となる自覚をもって受講することを期待します。																																	

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅲ	担当者	平松喜代江・田村禎章	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS50206	資格等取得との関連	保育士：選択必修・児童厚生員2級：必修・ レクリエーション：選択必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：実習を通して、児童厚生員として必要な知識・技術・マインドを学ぶ</p> <p>到達目標①：児童福祉施設（児童館、放課後児童クラブ等）の役割や機能について実践を通して理解し説明できる。</p> <p>到達目標②：地域の子育て支援の役割等について理解し説明できる。</p> <p>到達目標③：児童厚生員の業務内容や、職業倫理について具体的な実践に結びつけることができる。</p>								
授業概要	<p>児童福祉施設（児童館、放課後児童クラブ等）の養護全般に参加し、様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。また、施設保育士の倫理・職務等について理解する。さらに、子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。以上の事柄をとおして、児童厚生員として必要な資質・能力・技術を習得させ、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズを理解させるとともに、地域の子育て支援に必要とされる能力を養うことを目的とする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習先職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>〈大型児童館〉 7月のおおむね2日間、三重県立みえこどもの城にて実習を実施する。 ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解</p> <p>〈地域児童館〉 8月・12月のおおむね8日間、三重県内における児童館・児童センターにて実習を実施する。 ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 ・観察実習 (一日の流れ、利用児童の活動、児童厚生員の業務を学ぶ) ・参加実習 (児童厚生員の補助的なかわりから利用児童および保護者対応を学ぶ) ・責任実習 (観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する)</p>				<p>事前：実習指導を通して、児童館実習に向けての自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかになった場合には、早急に準備を進める。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は、日誌に記入をもって行う。実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について、自己学習や関連講義を受講するなどによって修得する。</p>				
2回					事前： 事後：				
3回					事前： 事後：				
4回					事前： 事後：				
5回					事前： 事後：				
6回					事前： 事後：				
7回					事前： 事後：				

8回		事前: 事後:																												
9回		事前: 事後:																												
10回		事前: 事後:																												
11回		事前: 事後:																												
12回		事前: 事後:																												
13回		事前: 事後:																												
14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回		事前: 事後:																												
テキスト																														
参考書・参考資料・準備物など	【購入を必須としないもの】 参考書:花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019年 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他(実習先からの評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価:取り入れている・ 取り入っていない		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)	到達目標①			40%			20%	到達目標②						20%	到達目標③						20%
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他(実習先からの評価)																								
到達目標①			40%			20%																								
到達目標②						20%																								
到達目標③						20%																								
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める 学習成果のフィードバック:事後面談において行う																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ																													
受講生へのメッセージ	実習生として謙虚に、児童厚生員として子どもたちの手本となり得るよう、自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します																													

科目区分	専門教育科目	科目名	子育て支援演習	担当者	平松喜代江	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS50207	資格等取得との関連	保育士：必修			実務経験	
テーマ・授業の 到達目標	<p>テーマ：幼児教育者・保育者として子育て支援についての意義を実践から学ぶ</p> <p>到達目標①：「子どもの最善の利益」と子育て支援の関係について説明できる。</p> <p>到達目標②：子育て支援における関係機関との連携と地域資源の活用を説明できる。</p> <p>到達目標③：子育て支援プログラムの立案・実践を通じて、自身の支援力が身についている。</p>								
授業概要	<p>今日、未就園児・未就学児がいる子育て家庭に対して様々な支援が必要となってきている。特に子どもへの支援のみならず、子どもを抱える保護者に対する助言、援助が必要とされている。本授業は地域における子育て支援のあり方および関係機関との連携や地域資源の活用について学ぶ。さらに、子育て支援に必要とされるプログラムを立案・実施することを通して、保育者として子育てに必要な知識や技術を修得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と授業の 対応	◎	① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができ。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
	◎	③ 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 保育所における子育て支援の必要性				事前：子育て支援の必要性を考える(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
2回	「子どもの最善の利益」と子育て支援について				事前：子どもの最善の利益について復習しておく(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
3回	外部講師：地域社会における子育て支援の現状				事前：地域社会における子育て支援の現状を調べる(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
4回	地域社会における子育て支援の現状と課題 グループディスカッション				事前：地域社会における子育て支援について考える(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
5回	子育て支援における保護者支援について				事前：保護者支援の必要性を考える(0.5h) 事後：保護者支援について自分でまとめる(1h)				
6回	外部講師：子育て支援における保護者支援について				事前：保護者支援について復習する(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
7回	子育て支援における保護者支援の現状と課題 グループディスカッション				事前：保護者支援の課題について考える(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
8回	保育者に求められる子育て支援について レポート作成・発表				事前：保護者支援の課題をまとめる(0.5h) 事後：参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)				
9回	障がい児の子育て支援について				事前：障がい児の子育ての現状について調べる(0.5h) 事後：障がい児の子育てについてまとめる(1h)				
10回	障がいに関する疑似体験				事前：疑似体験に必要な材料を準備する(0.5h) 事後：障がいに関する疑似体験についてまとめる(1h)				
11回	障がい児の子育て支援に必要なことについて グループディスカッション				事前：障がい児の子育ての現状について復習する(0.5h) 事後：障がい児の子育て支援についてまとめる(1h)				
12回	環境構成を活用した子育て支援の立案と実践 親子のコミュニケーションを支える環境				事前：実習先の環境構成を振り返る(0.5h) 事後：親子のコミュニケーションを支える環境についてまとめる(1h)				
13回	環境構成を活用した子育て支援の発表 親子のコミュニケーションを支える環境				事前：実践発表の練習を行う(1h) 事後：実践発表を振り返る(0.5h)				
14回	環境構成を活用した子育て支援の課題 親子のコミュニケーションを支える環境				事前：実践発表の課題を考える(0.5h) 事後：実践発表の課題を振り返る(1h)				

15回	子育ての知識獲得を支える環境	事前:参考書と配布レジュメ、ノートを振り返る(0.5h) 事後:参考書と配布レジュメを参考にノートをまとめる(1h)																												
16回	試験	事前:参考書と配布レジュメ、ノートを読み返し復習する(1h) 事後:試験の振り返りを行う(1h)																												
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・準備物など	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』																													
授業の評価方法・基準、ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標</th> <th>期末試験</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物</th> <th>発表</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価:取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%						到達目標②	20%						到達目標③				30%	20%	
評価方法・到達目標	期末試験	小テスト	課題・提出物	発表	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%																													
到達目標②	20%																													
到達目標③				30%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/子育て支援																													
受講生へのメッセージ	<p>演習活動に対する積極的な参加姿勢を望みます。</p> <p>外部講師による講義への積極的な学ぶ姿勢および質疑できるように意識して受講することを望みます。</p>																													